

平成27年度  
島根原子力発電所周辺  
環境放射線等調査結果

平成28年7月

島　根　　県

## ま　え　　が　　き

島根原子力発電所周辺地域住民の安全確保をはかることを目的として「島根原子力発電所周辺地域住民の安全確保等に関する協定」に基づき、発電所周辺の環境放射線及び温排水に関する調査を行い、四半期ごとに調査結果と評価をまとめ公表してきたところであるが、これらの調査結果をもとに総合評価を行って年間報告書とする。

# 目 次

## I 環境放射線関係

1. 調査方法	1
(1) 概要	1
(2) 調査内容	1
(3) 測定方法	1
(4) 評価方法	2
2. 平成27年度の評価と調査結果の概要	10
(1) 評価結果	10
(2) 調査結果の概要	10
(3) 調査項目別測定結果	12
ア. 空間放射線	12
(ア) 積算線量	12
(イ) 線量率	13
イ. 地表面における人工放射能	22
ウ. 環境試料中の放射能	23
3. 添付資料	24
表I-3-1 空間放射線積算線量	24
表I-3-2 空間放射線線量率 モニタリングポスト	25
表I-3-3 地表面における人工放射能 人工放射能面密度	33
表I-3-4 環境試料中の放射能(ガンマ線スペクトロメトリー対象核種)	34
(1) 浮遊塵	34
(2) 海水	35
(3) 陸水	36
(4) 植物	36
(5) 農作物	37
(6) 牛乳	37
(7) 海産生物	38
(8) 陸土	40
(9) 海底土	40
表I-3-13 環境試料中の放射能(トリチウム)	41
表I-3-14 環境試料中の放射能(ストロンチウム90)	42

## II 溫排水関係

1. 概 要	43
(1) 調査結果の評価	43
(2) 溫排水測定計画および実施状況	44
(3) 溫排水測定定点図	45
2. 調 査 結 果	46
(1) 沖 合 定 線	46
(2) 格 子 状 定 線	51
(3) 沿 岸 定 点	60
(4) 水 色	64

## III 参考資料

1. 島根原子力発電所敷地内におけるモニタリングポスト測定結果	65
2. 蛍光ガラス線量計（RPLD）測定値に関する資料	66
3. モニタリングポスト測定値基本資料	67
4. 浮遊塵及び食品等の試料から検出された人工放射性核種による預託実効線量（成人）	69
5. 環境試料分析の主な核種の濃度分布域	70
6. 島根原子力発電所の運転状況	74
7. 島根原子力発電所における放射性廃棄物管理の状況	75
8. 環境放射能の検出下限値	77
9. 平成27年6月15日に発生した空間放射線量率の上昇について	86
10. 平成28年1月4日に発生した空間放射線量率の上昇について	87
11. 格子状定線測定温度分布図	88
12. 用語の解説	92

# I . 環境放射線關係



## 1. 調査方法

### (1) 概要

環境放射線モニタリングの基本目標は、島根原子力発電所周辺住民等の健康と安全を守るため、環境における発電所に起因する放射性物質又は放射線による周辺住民等の線量が年線量限度を十分下まわっていることを確認することである。具体的には、①周辺住民等の線量を推定、評価すること、②環境における放射性物質の蓄積状況を把握すること、③発電所からの予期しない放射性物質又は放射線の放出による周辺環境への影響の評価に資すること、④異常事態発生の通報があった場合に、平常時のモニタリングを強化するとともに、緊急時モニタリングの準備を開始できるように体制を整えることである。

このような考え方に基づき、本調査では空間放射線、地表面の人工放射能および環境試料中の放射性物質の測定を行った。また、蓄積状況を把握するため陸土、海底土の核種分析、環境の放射性核種濃度のレベル変動を把握するため海水、陸水、植物等の核種分析を行った。さらに放出監視のため、モニタリングポストによる空間放射線線量率の連続測定や浮遊塵の核種分析を行った。

### (2) 調査内容

島根県および中国電力(株)が行った調査項目及び調査時期を表 I-1-1 に、調査地点を付図 1、2、3 に示した。

### (3) 測定方法

測定法および測定器を表 I-1-2 に示した。

いずれも、下記の文部科学省放射能測定法シリーズ等に準じて行った。

- ・ 「放射性ストロンチウム分析法」
- ・ 「放射性ヨウ素分析法」
- ・ 「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」
- ・ 「トリチウム分析法」

- ・ 「ゲルマニウム半導体検出器等を用いる機器分析のための試料の前処理法」
- ・ 「環境試料採取法」
- ・ 「連続モニタによる環境 $\gamma$ 線測定法」
- ・ 「蛍光ガラス線量計を用いた環境 $\gamma$ 線量測定法」
- ・ 「ゲルマニウム半導体検出器を用いた in-situ 測定法」

#### (4) 評価方法

空間放射線の測定結果について、過去のデータから算出した平常の変動幅と比較し、この値を外れた測定値については気象条件や環境要因の変化、及びその他の関連資料を調査し、原因を検討した。

また、地表面における人工放射能および環境試料の放射能調査結果について、検出された人工放射性核種の種類や測定値を平常の変動幅や過去の核実験等の関連資料と比較検討し、島根原子力発電所に起因するものかどうかを判断した。

表 I-1-1 環境放射能調査項目及び調査時期

(1) 空間放射線の測定

調査項目	測定地点	実施者及び測定月		備考	
		島根県	中国電力		
積算線量	上講武・佐陀宮内 大芦・加賀 西生馬・西川津	4~6 7~9 10~12 1~3		蛍光ガラス線量計 (RPLD)による。	
	片句・御津 古浦・南講武	4~6・7~9 10~12・1~3			
	一矢・佐陀本郷 深田・旦過 恵曇・手結		4~6 7~9 10~12 1~3		
線量率	西浜佐陀・御津・古浦 深田北・片句・北講武 佐陀本郷・末次・大芦 上講武・手結 手結南・池平・名分 魚瀬・上大野・東長江 比津・持田・大芦別所 加賀 出雲・安来・雲南	連続		モニタリングポストによる。	

(注1) ■は島根県、中国電力のクロスチェック対象試料を示す。同地点、同日時に設置・回収した線量計を各測定者が測定する。

(2) 地表面における人工放射能の測定

調査項目	測定地点	実施者及び測定月		備考
		島根県	中国電力	
人工放射能面密度	片句・手結・古浦 佐陀本郷・西生馬 西川津・加賀 大芦・御津・上講武 北講武・佐陀宮内 西浜佐陀	5・11		ゲルマニウム半導体検出器による in-situ 測定

### (3) 環境試料中の放射性核種の分析

#### 測定法と対象核種

・  $\gamma$  線スベクトロメトリー 対象核種： $^{54}\text{Mn}$ ,  $^{59}\text{Fe}$ ,  $^{58}\text{Co}$ ,  $^{60}\text{Co}$ ,  $^{137}\text{Cs}$ ,  $^{131}\text{I}$  (一部試料のみ)

・ 放射化学分析法 ノルム： $^{90}\text{Sr}$

・ 液体シンチレーション分析法 ノルム： $^{3}\text{H}$

試料区分	試料名	部位	試料採取場所	対象核種及び測定機関(数字は採取月)									
				$\gamma$ 線スベクトロメトリー 対象核種				ストンチウム 90	トリチウム				
				ヨウ素131を除く		ヨウ素131							
				島根県	中国電力	島根県	中国電力		島根県	島根県	中国電力		
浮遊塵	浮遊塵	地上塵	御津	毎月	—	—	—	—	—	—	—		
			古浦	毎月	—	—	—	—	—	—	—		
			西浜佐陀	毎月	—	—	—	—	—	—	—		
陸水	池水	表層水	一矢 <sup>†</sup>	5	5	—	—	—	—	5	5		
			上講武 <sup>‡</sup>	—	5	—	—	—	—	—	—		
	水道原水	着水井	古志浄水場	5・11	5・11	—	—	—	—	5・11	5・11		
			忌部浄水場	5・11	5・11	—	—	—	—	—	—		
植物	松葉	二年葉	御津	4	—	4	—	4	—	—	—		
			深田北	10	10	10	—	—	—	—	—		
			西浜佐陀	7	—	7	—	—	—	—	—		
農産物	大根	根	御津	12	—	—	—	—	—	—	—		
			根連木	12	4	—	—	—	—	—	—		
	ほうれん草	葉	御津	12	—	12	—	12	—	—	—		
			根連木	12	12	12	—	—	—	—	—		
	キャベツ	葉	御津	5	—	—	—	—	—	—	—		
			根連木	5	—	—	—	—	—	—	—		
	精米		尾坂	10	10	10	—	—	—	—	—		
	茶	葉	北講武	5	5	5	5	5	—	—	—		
牛乳	原乳		南講武	—	—	4・7・10・1	4・10	—	—	—	—		
陸土	陸土	表層土	南講武	5	—	—	—	—	—	—	—		
			片句	5	—	—	—	—	—	—	—		
			佐陀宮内	5	5	—	—	5	—	—	—		
			西浜佐陀	5	—	—	—	—	—	—	—		
実施者別分析件数				小計	56	12	11	3	4	3	3		
分析件数				小計	68		14		4	6			

(注1) <sup>†</sup>宇杉池, <sup>‡</sup>赤田新池

(注2) ■は島根県、中国電力のクロスチェック対象試料を示す。同地点、同日時に採取された試料を各測定者が測定する。

試料区分	試料名	部 位	試料採取場所	対象核種及び測定機関(数字は採取月)							
				$\gamma$ 線 $\pm$ クロトリー対象核種			タルチム 90	トリチウム			
				ヨウ素131を除く	ヨウ素131	島根県		島根県	中国電力		
海 水	海 水	表層水	1号機放水口	4・10	4・10	—	—	—	—		
			2号機放水口付近	4	10	—	—	—	—		
			3号機放水口付近	4	10	—	—	—	—		
			取水口	—	4・10	—	—	—	—		
			1号機放水口沖	4・10	—	—	—	4	4・10		
			2・3号機放水口沖	4・10	—	—	—	—	4・10		
			手結沖	4	10	—	—	—	4		
海産生物	かさご	肉	発電所付近沿岸	4	—	—	—	—	—		
	なまこ	肉	1号機放水口湾付近	1	—	—	—	—	—		
	なまこ	肉	宮崎鼻付近	1	—	—	—	—	—		
	さざえ	肉	1号機放水口湾付近	4・7・10・1	—	—	—	4	—		
	さざえ	肉	宮崎鼻付近	4・7・10・1	—	—	—	4	—		
	内臓	内臓	1号機放水口湾付近	4・7・10・1	—	—	—	—	—		
	内臓	内臓	宮崎鼻付近	4・7・10・1	—	—	—	—	—		
	むらさきいがい	むき身	1号機放水口湾付近	7	7	—	—	—	—		
	むらさきいがい	むき身	宮崎鼻付近	7	7	—	—	—	—		
	むらさきいがい	むき身	浜田市	7	—	—	—	—	—		
	むらさきいがい	むき身	松江市美保関町	7	7	—	—	—	—		
	あらめ	仮根を除く	1号機放水口湾付近	6・10	—	10	—	—	—		
	あらめ	仮根を除く	宮崎鼻付近	6	10	—	10	6	—		
	あらめ	仮根を除く	宮崎鼻付近 海底部	6	6	—	—	—	—		
	わかめ	〃	1号機放水口湾付近	4	4	4	4	4	—		
	いわのり	全 体	1号機放水口湾付近	1	—	—	—	—	—		
海底土	海底土	表層質	1号機放水口湾付近	6	6	6	6	—	—		
			宮崎鼻付近	6	6	6	6	—	—		
			輪谷湾	6	6	6	6	—	—		
			浜田市	7	—	7	—	—	—		
			松江市美保関町	7	7	7	—	—	—		
実施者別分析件数				小計	46	17	7	5	5		
分 析 件 数				小計	63		12	5	10		

(注1) ■は島根県、中国電力のクロスチェック対象試料を示す。同地点、同日時に採取された試料を各測定者が測定する。

(注2) 海水採取地点のうち、取水口は輪谷湾。

(注3) 宮崎鼻付近海底部は、水深約15m。

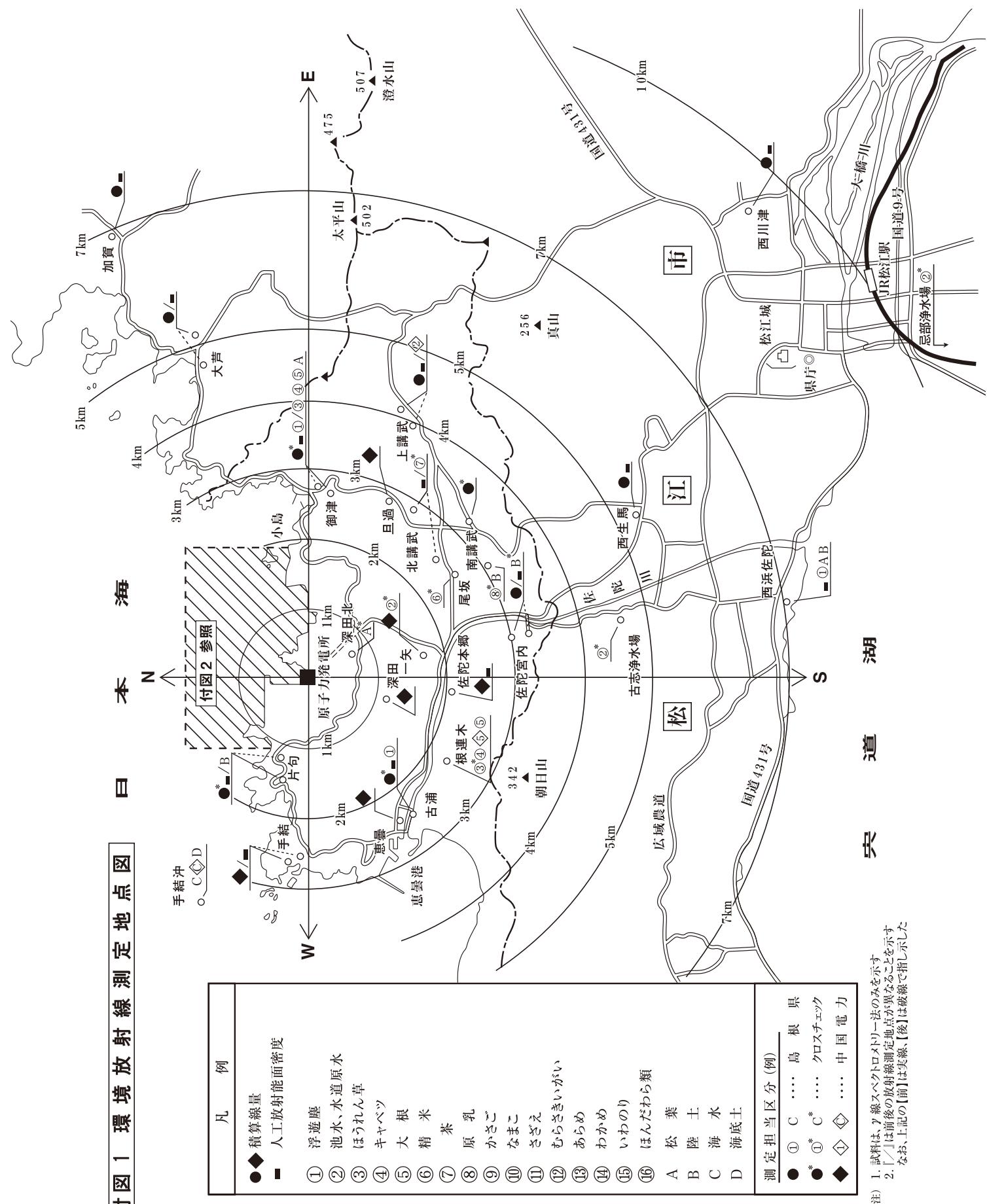
(注4) 「発電所付近沿岸」は、1号機放水口湾付近と宮崎鼻付近とのコンポジット。

実施者別分析件数	合 計	102	29	18	8	9	8	8
分 析 件 数	合 計	131		26		9	16	

表I-1-2 測定法及び測定器

調査項目又は対象		測定機関	測 定 法		測 定 器	
空 間 放 射 線	積 算 線 量	島 根 県 文部科学省編 「蛍光ガラス線量計を用いた環境 $\gamma$ 線量測定法」による。 中国電力			蛍光ガラス線量計 (RPLD)	
	線 量 率 (モニタリングホースト)	島 根 県	エネルギー補償方式		NaI(Tl)シンチレーション検出器(深田北、北講武及び片句はゲルマニウム半導体検出器による $\gamma$ 線エネルギー弁別装置付き)	
	人工放射能面密度	島 根 県	ゲルマニウム半導体検出器による in-situ測定		高分解能 $\gamma$ 線スペクトロメータ(高純度ゲルマニウム検出器)	
環 境 試 料 の 放 射 能	ガ ン マ 線 放 出 核 種	浮 遊 塵	島 根 県	計 測 試 料	分 析 法	
		海 底 土	捕集フィルター	文部科学省編 「ゲルマニウム半導体検出器による $\gamma$ 線スペクトロメトリーアによる。		
		陸 土	乾 物			
		海 水	乾 物			
		陸 水	吸 着 物			
		牛 乳	濃 縮 物			
		植 物 農 産 物 海 产 生 物	生 試 料 灰化物(ヨウ素131以外の核種) 生体(ヨウ素131)			
	ストロ ンチ ウム 90	海 陸 植 農 海 水 土 物 产 物 产 生 物	島 根 県		文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」による。	
	トリ チ ウ ム	海 陸 水 水	島 根 県 中国電力		文部科学省編「トリチウム分析法」による。	

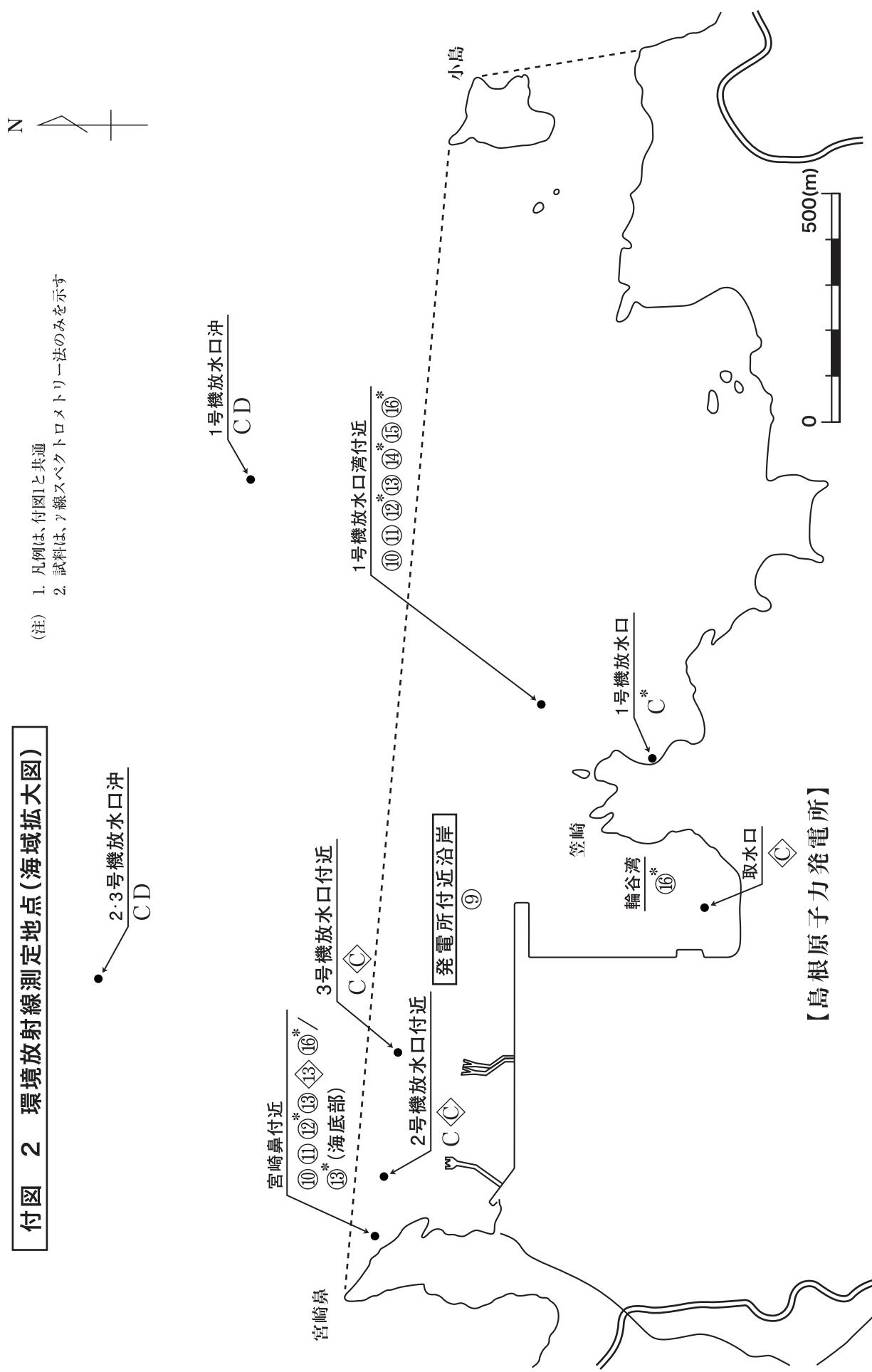
付図 1 環境放射線測定地点図

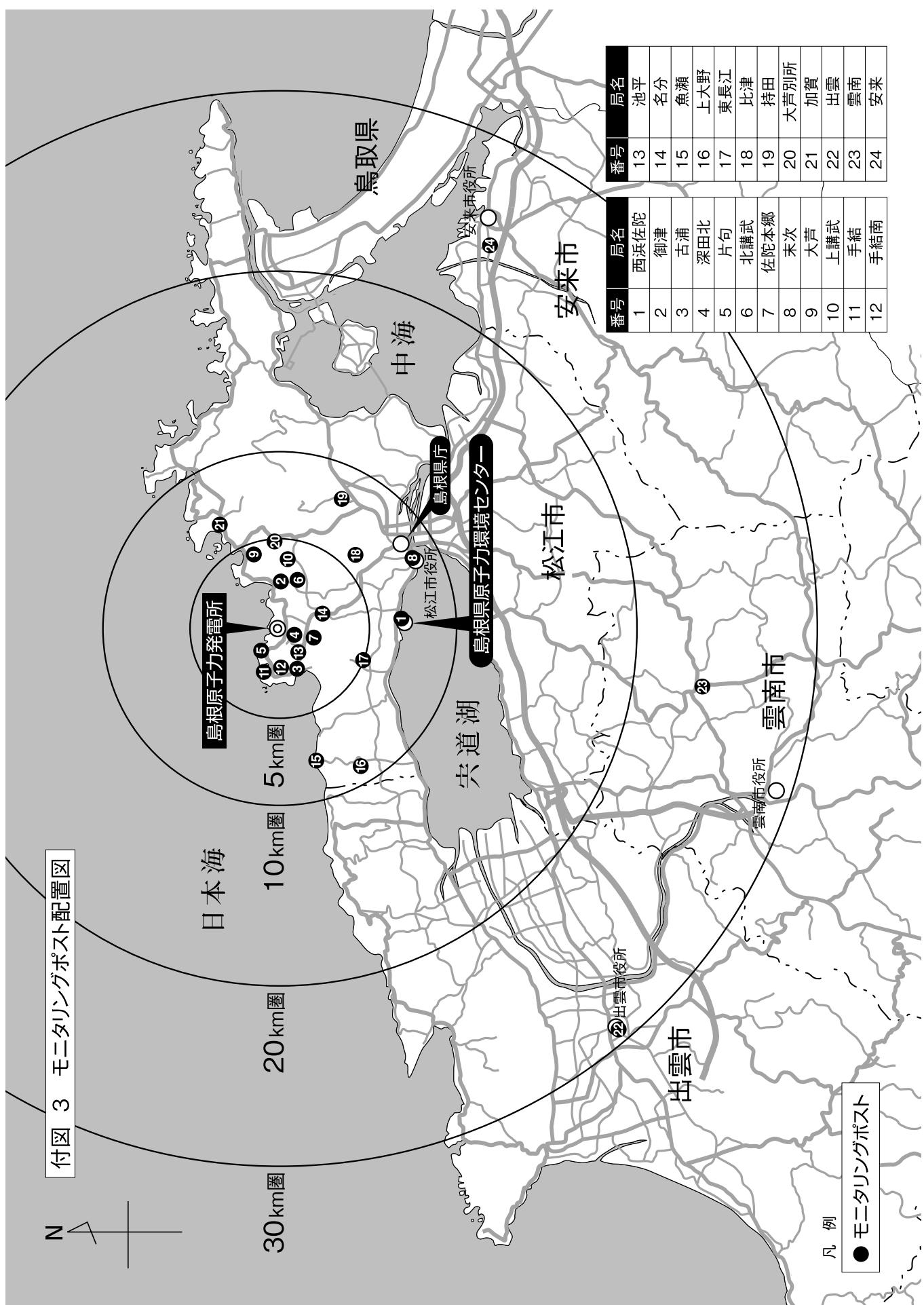


注) 1. 試料は、 $\gamma$ 線スペクトロメリー法のみを示す。  
2. 「/」は前後の放射線測定地点が異なることを示す。  
なお、上記の【前】は実線、【後】は破線で指示した。

**付図 2 環境放射線測定地点(海域拡大図)**

- (注) 1. 凡例は、付図1と共に通  
2. 試料は、 $\gamma$ 線スペクトロメトリー法のみを示す





## 2. 平成27年度の評価と調査結果の概要

### (1) 評価結果

平成27年度の島根原子力発電所周辺の環境放射線調査結果は、前年度までの調査資料や環境要因等と比較検討したところ、原子力発電所による影響は認められなかった。

### (2) 調査結果の概要

#### 1) 空間放射線

##### a) 積算線量

蛍光ガラス線量計（RPLD）による積算線量の測定結果は、図I-2-1（P12）および表I-3-1（P24）に示したとおり、片句地点、御津地点及び古浦地点を除くすべての地点において、平常の変動幅内の線量であった。

片句地点については平成25年度に、御津地点及び古浦地点については平成26年度に実施した局舎更新に伴う測定環境の変化および場所の移動を行ったため、平常の変動幅は未設定である。

##### b) 線量率

モニタリングポストによる線量率の測定結果は、図I-2-2 a～i（P13～P21）に示したとおり、平常の変動幅を超える線量率が測定されたが、気象条件や他局の線量率等の関連資料を検討した結果、いずれも降水による線量率の増加であった。

なお、平成27年6月15日18時2分に御津において、平成28年1月4日10時56分～11時16分に末次において急激な上昇が見られ、このことについて調査した結果、降水や発電所からの影響によるものではなかったため、統計処理から除外した（参考資料9、10（P86～87）参照）。

また、深田北、片句、北講武については平成25年度に、西浜佐陀、御津、古

浦については平成26年度に局舎更新を実施したため、これらの地点については、平常の変動幅は未設定である。

## 2) 地表面における人工放射能

人工放射能面密度の測定結果を表I-2-1(P22)に示した。一部の地点でセシウム137が検出されたが、平常の変動幅内の値であり、過去の大気圏内核実験等によるものと考えられた。

## 3) 環境試料中の放射能

表I-2-2(P23)に環境試料の核種分析結果を試料区分ごとに示した。

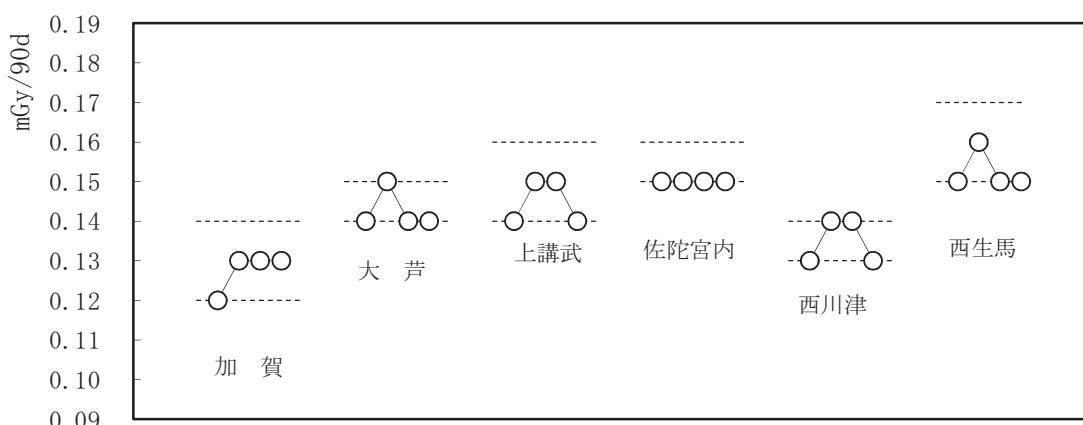
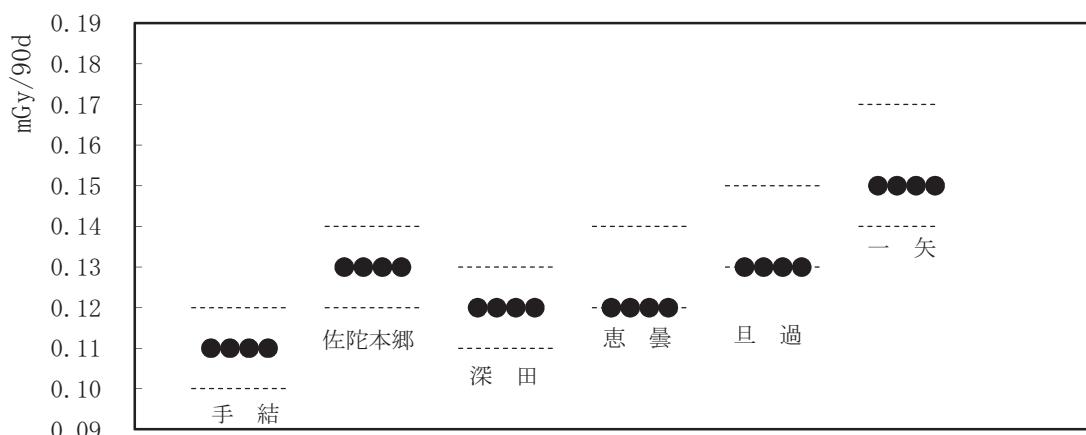
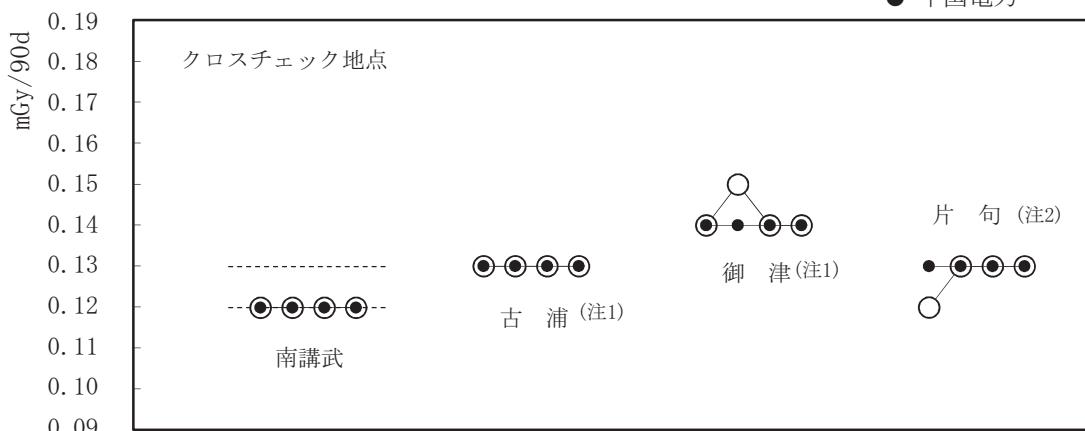
検出された放射性核種は、セシウム137、ストロンチウム90、およびトリチウムであった。

これらの測定値は、平常の変動幅内または一般の環境で認められる程度の値であり、過去の大気圏内核実験等及び自然放射能に起因するものと考えられた。

(3) 調査項目別測定結果  
ア. 空間放射線

(ア) 積算線量

○ 島根県  
● 中国電力



●、○ 地点内の4個の測定結果の左端が第1四半期、右端が第4四半期を示す。  
----- 平常の変動幅（前年度までの5年間の最小値から最大値までの範囲）

(注) 1. 古浦地点、御津地点は平成26年度に局舎更新に伴って測定地点を変更したため、「平常の変動幅」は未設定である。

(注) 2. 片句地点は平成25年度に局舎更新に伴って測定地点を変更したため、「平常の変動幅」は未設定である。

図 I - 2 - 1 積算線量

(イ) 線量率  
a) モニタリングポストによる測定

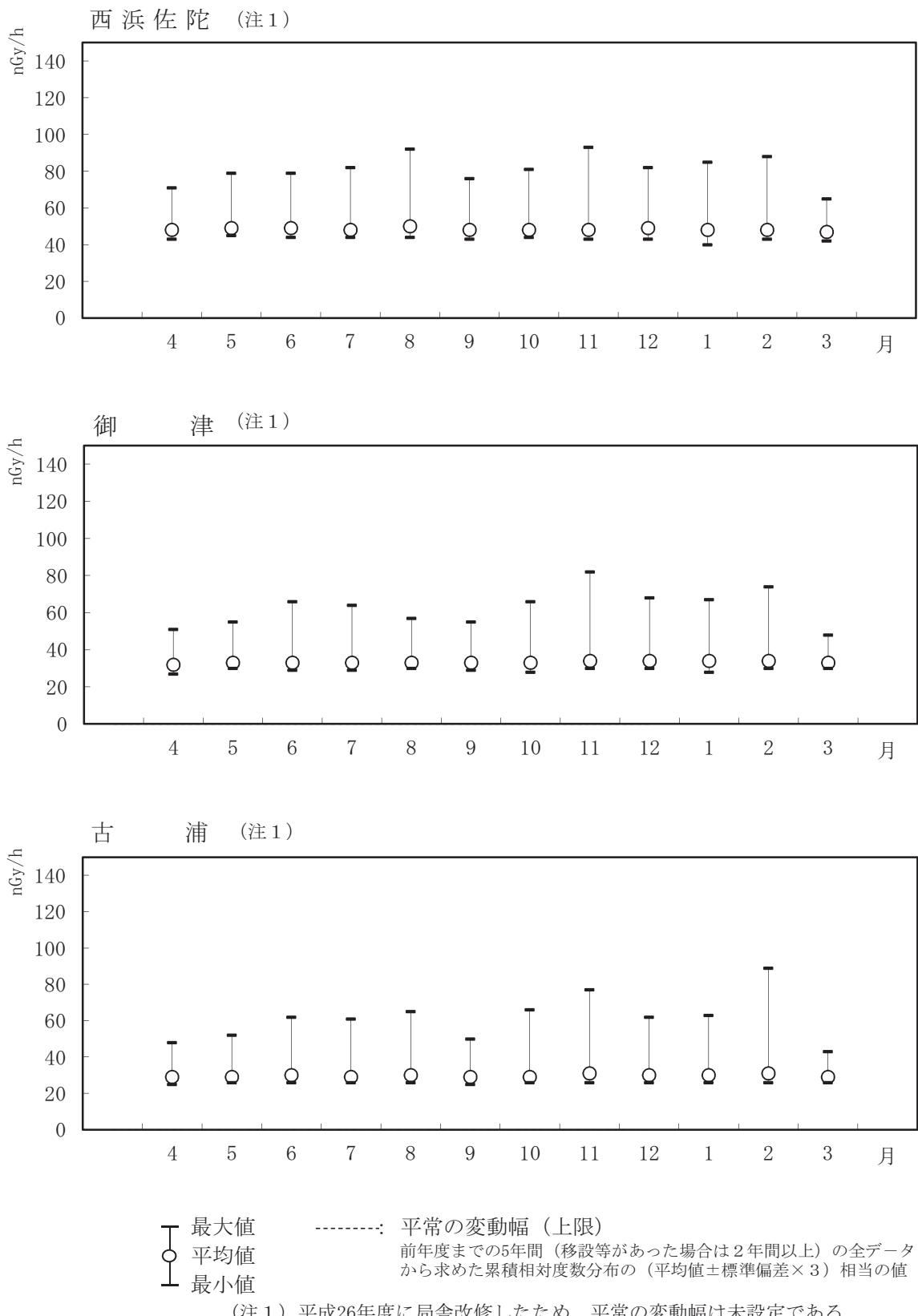


図 I - 2 - 2 a

空 間 放 射 線 線 量 率

(イ) 線量率  
a) モニタリングポストによる測定

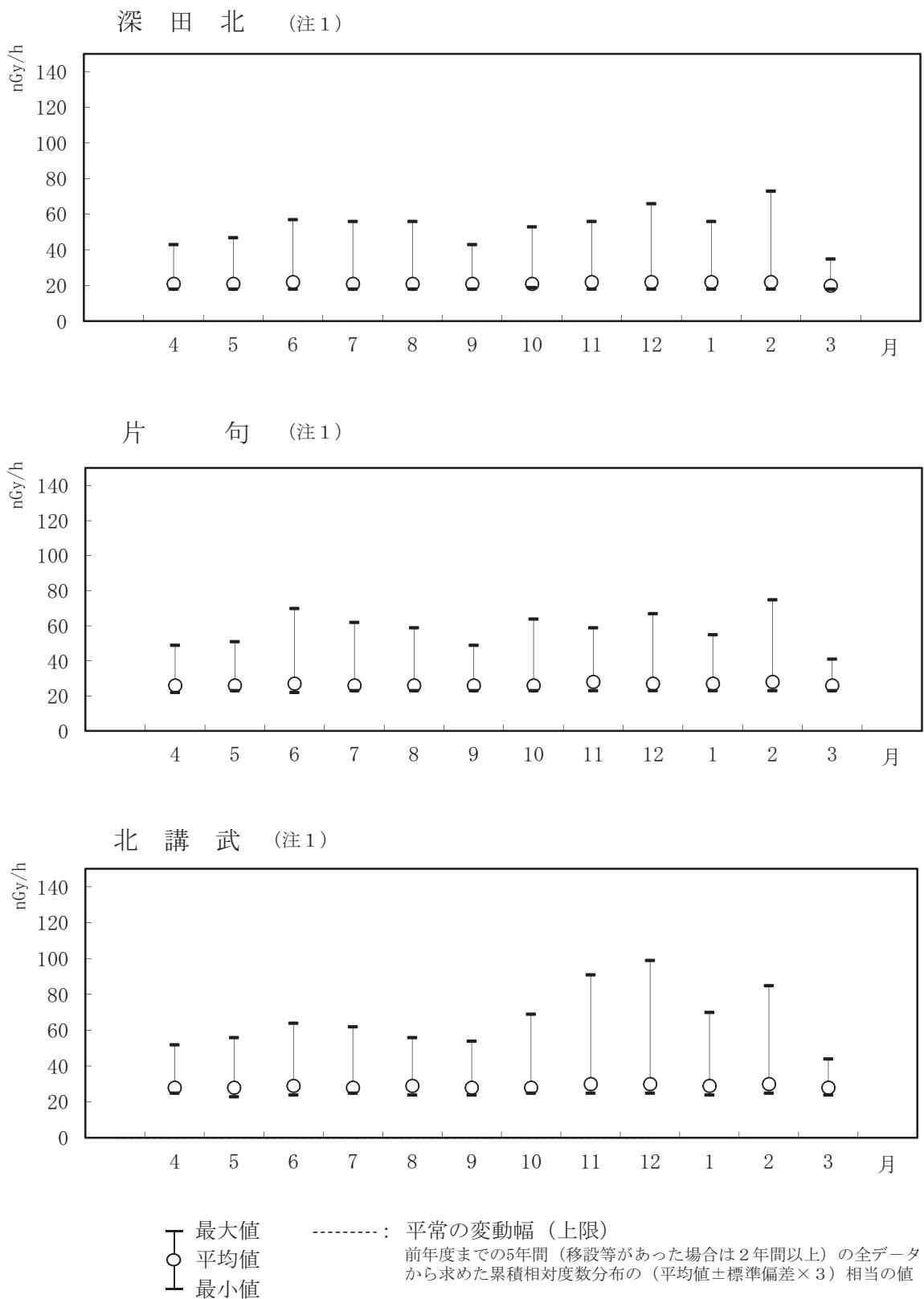


図 I - 2 - 2 b 空間放射線線量率

(イ) 線量率  
a) モニタリングポストによる測定

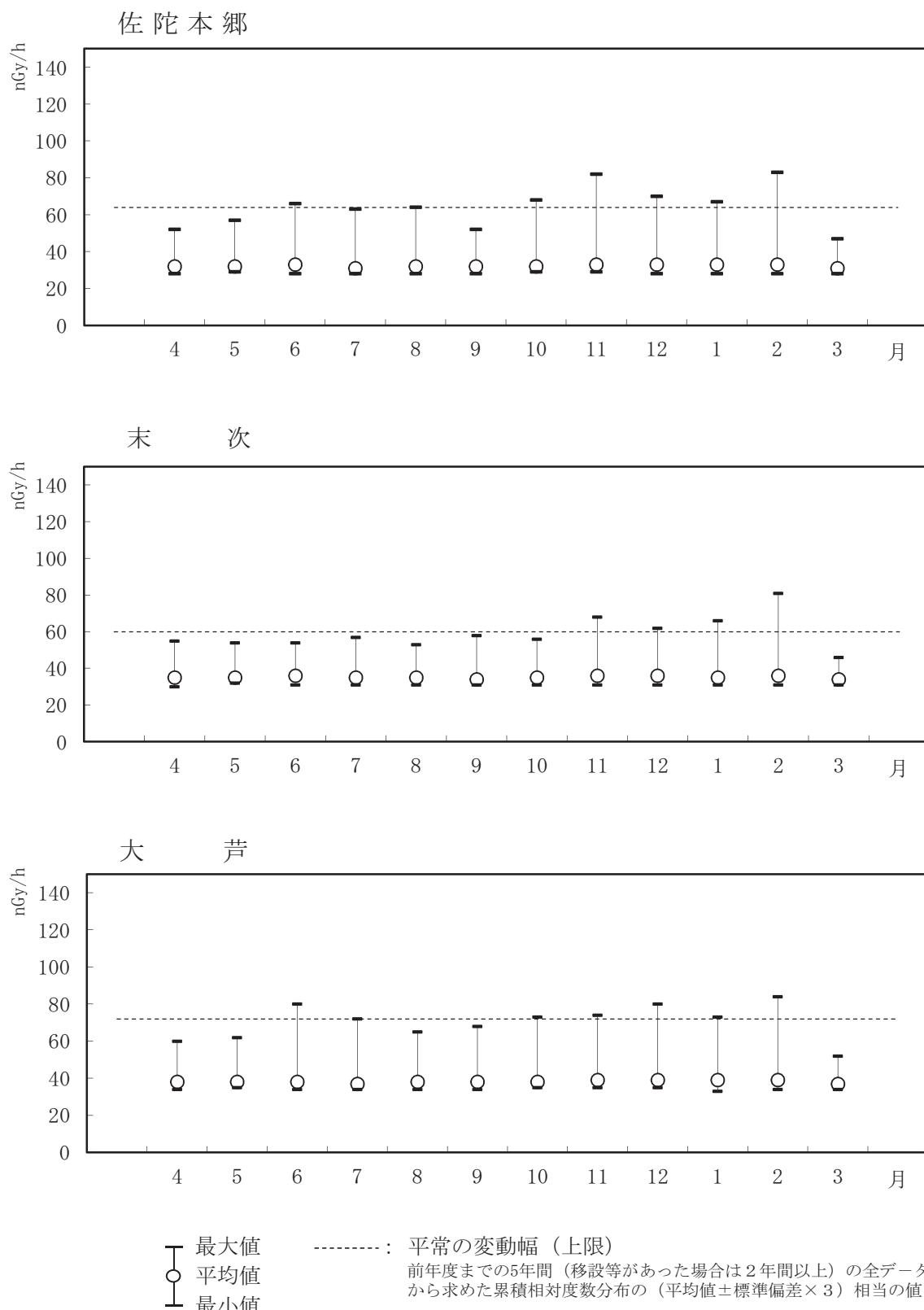


図 I-2-2c 空間放射線線量率

(イ) 線量率  
a) モニタリングポストによる測定

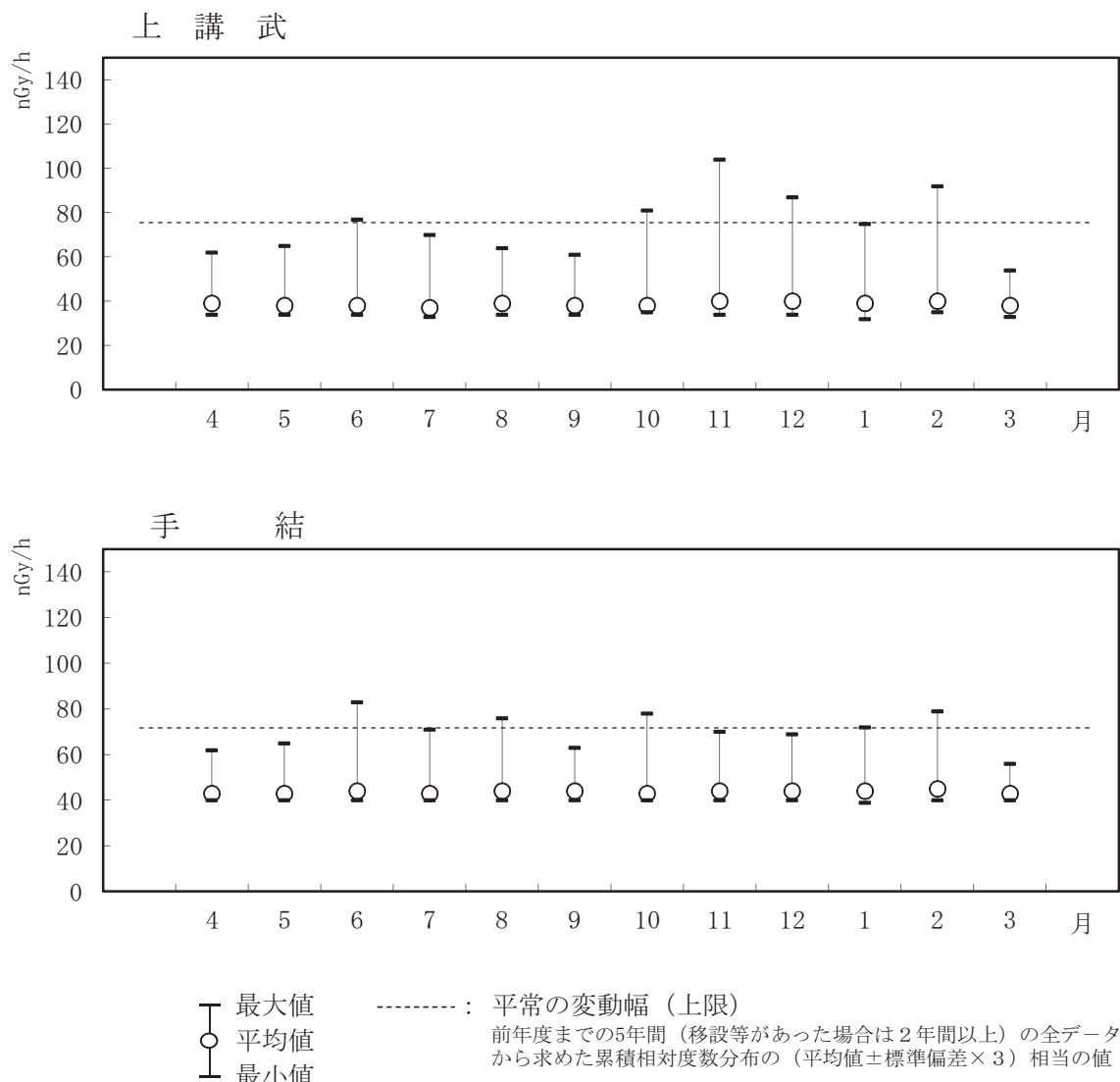
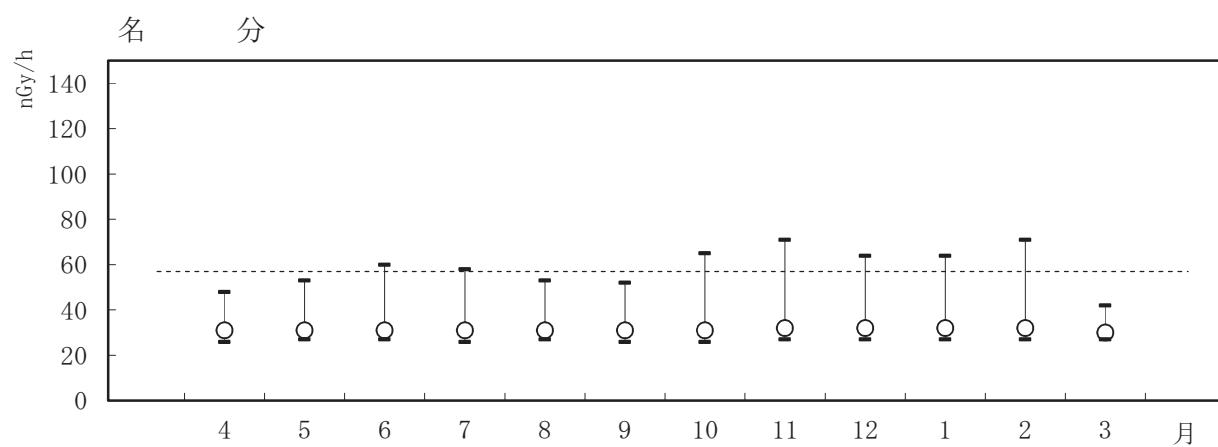
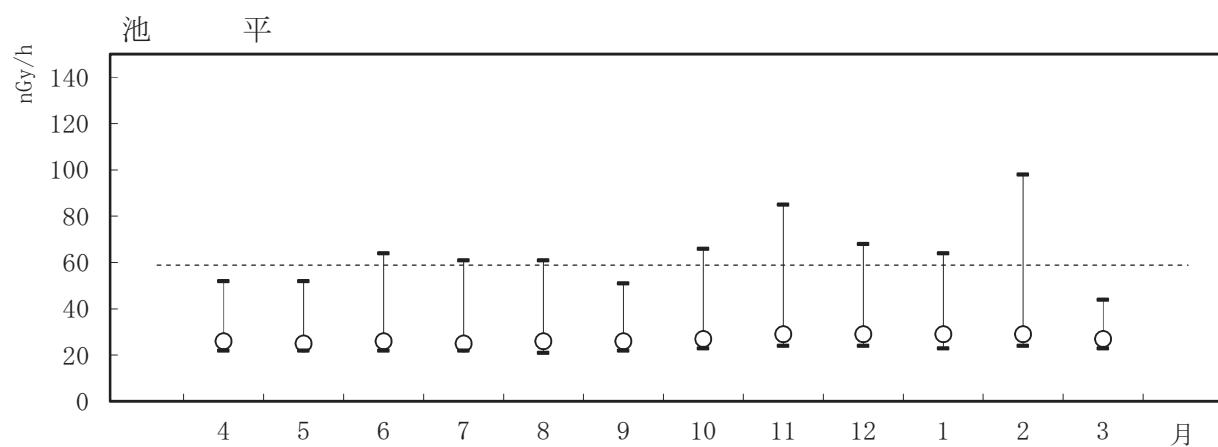
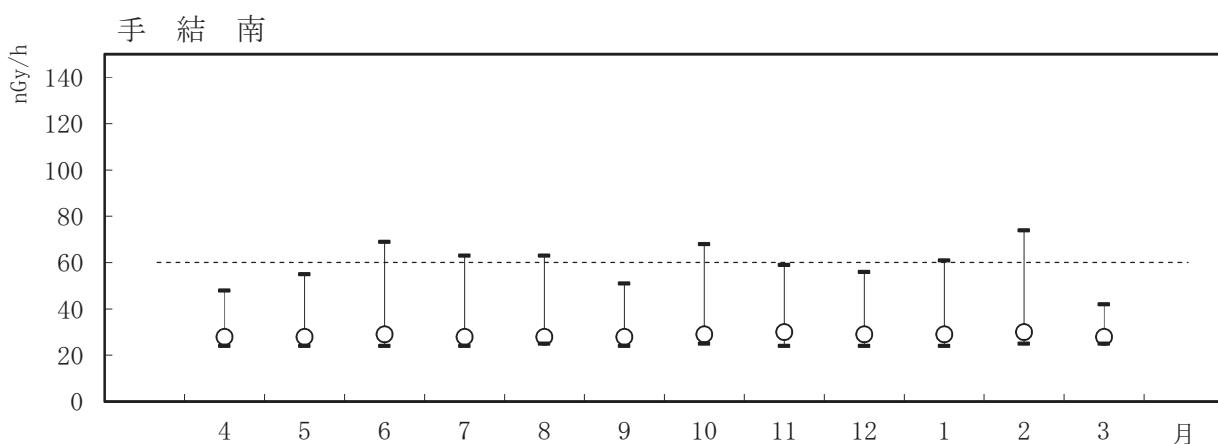


図 I - 2 - 2 d 空 間 放 射 線 線 量 率

(イ) 線量率  
a) モニタリングポストによる測定



平常の変動幅（上限）  
 前年度までの5年間（移設等があった場合は2年間以上）の全データから求めた累積相対度数分布の（平均値±標準偏差×3）相当の値

図 I - 2 - 2 e

空間放射線線量率

(イ) 線量率  
a) モニタリングポストによる測定

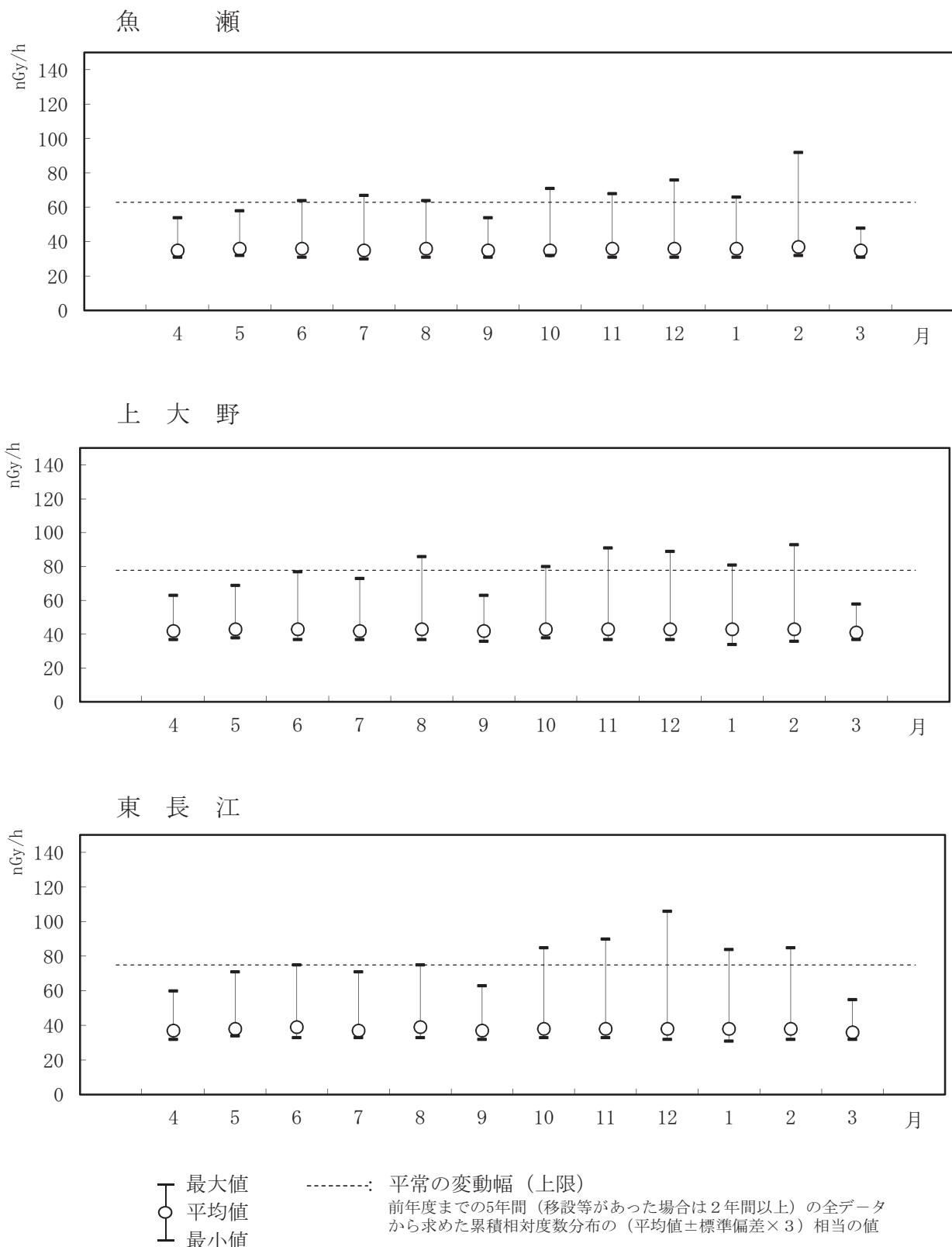


図 I - 2 - 2 f 空間放射線線量率

(イ) 線量率  
a) モニタリングポストによる測定

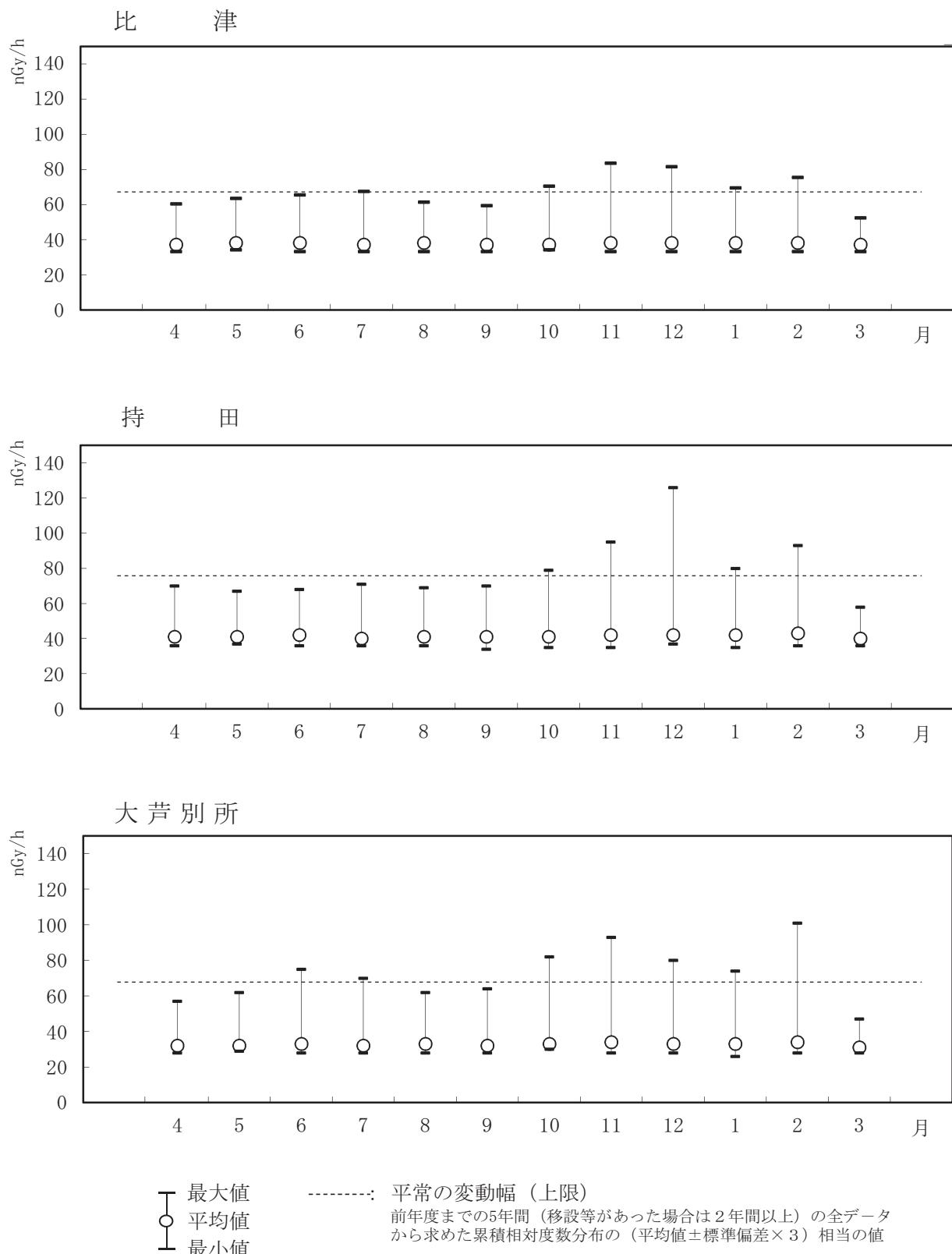


図 I - 2 - 2 g 空 間 放 射 線 線 量 率

(イ) 線量率  
a) モニタリングポストによる測定

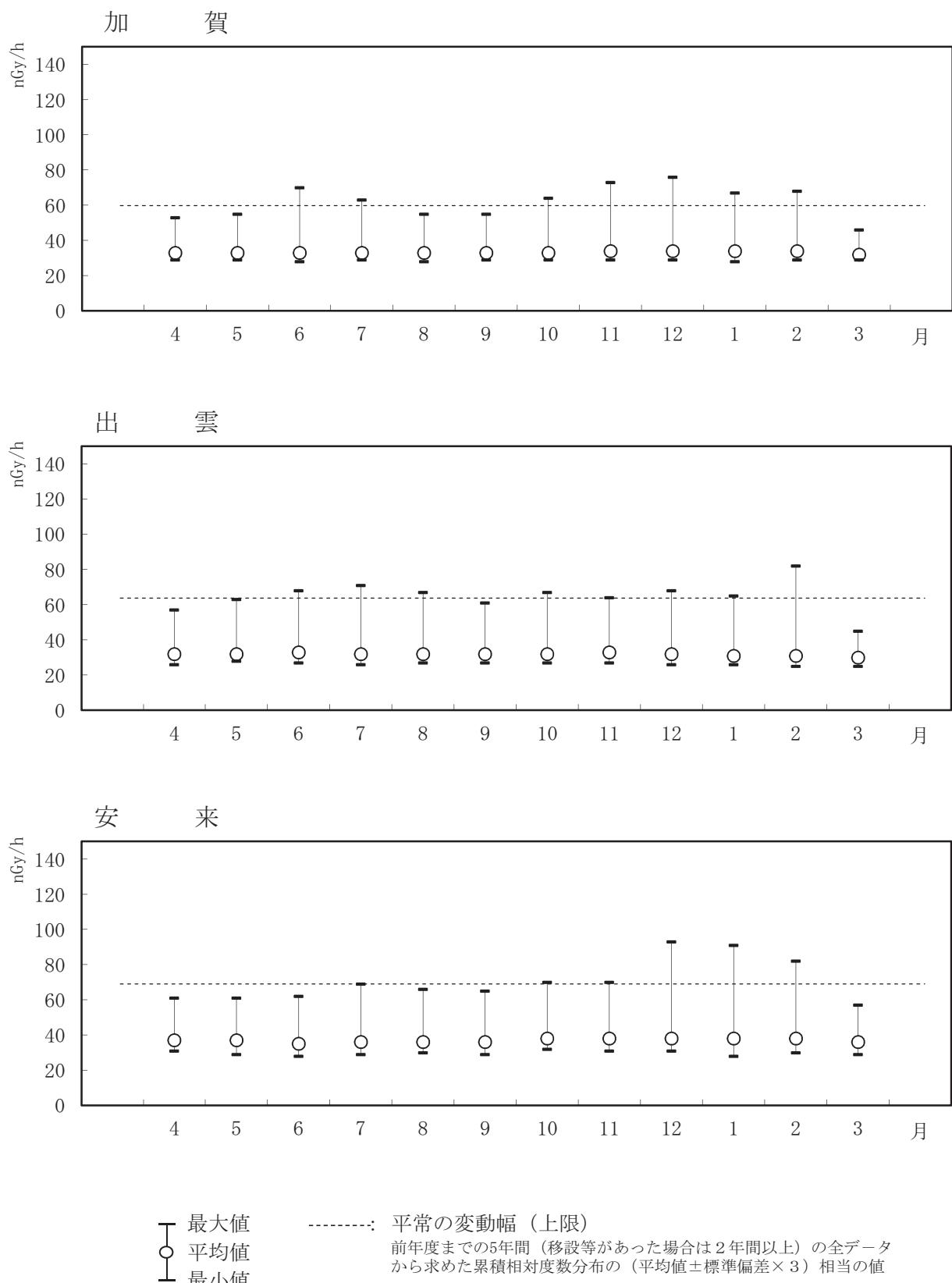


図 I - 2 - 2 h 空間放射線線量率

(イ) 線量率  
a) モニタリングポストによる測定

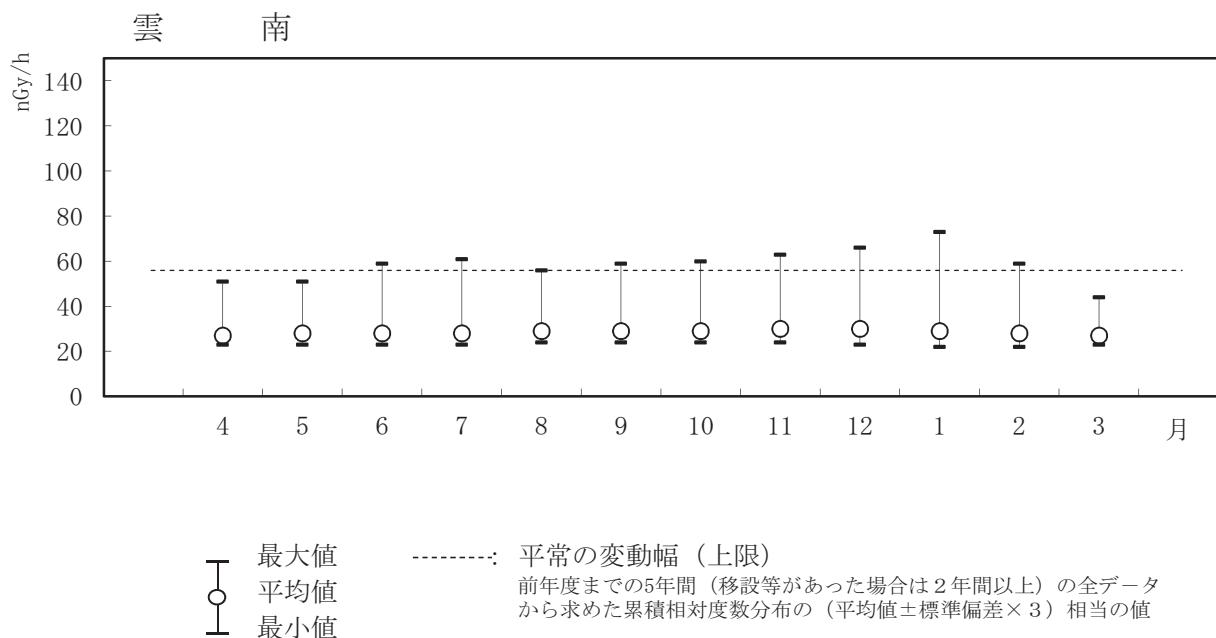


図 I - 2 - 2 i 空間放射線線量率

イ. 地表面における人工放射能

表 I-2-1 人工放射能面密度

単位:【 kBq/m<sup>2</sup> 】

測定地点	測定値					
	<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>131</sup> I	<sup>137</sup> Cs
片句	ND	ND	ND	ND	ND	ND
手結	ND	ND	ND	ND	ND	ND
古浦	ND	ND	ND	ND	ND	ND
佐陀本郷	ND	ND	ND	ND	ND	ND
西生馬	ND	ND	ND	ND	ND	ND
西川津	ND	ND	ND	ND	ND	ND
加賀	ND	ND	ND	ND	ND	ND
大芦	ND	ND	ND	ND	ND	ND
御津	ND	ND	ND	ND	ND	ND
上講武	ND	ND	ND	ND	ND	ND
北講武	ND	ND	ND	ND	ND	ND
佐陀宮内	ND	ND	ND	ND	ND	0.03~0.05
西浜佐陀	ND	ND	ND	ND	ND	ND

(注) ND は検出下限値未満を示す。

ウ. 環境試料中の放射能

表 I-2-2 環境試料中の核種分析結果

試料区分		<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>131</sup> I	<sup>137</sup> Cs	<sup>3</sup> H	<sup>90</sup> Sr	測定値の単位
浮遊塵	測定値	ND	ND	ND	ND		ND			$\mu\text{Bq}/\text{m}^3$
	試料数	36	36	36	36		36			
海水	測定値	ND	ND	ND	ND		1.4～2.3	ND	ND	mBq/ $\ell$ ，但し <sup>3</sup> HはBq/ $\ell$
	試料数	16	16	16	16		16	10	1	
陸水	測定値	ND	ND	ND	ND		ND	ND～0.52		mBq/ $\ell$ ，但し <sup>3</sup> HはBq/ $\ell$
	試料数	11	11	11	11		11	6		
植物	測定値	ND	ND	ND	ND	ND	ND～0.05		13	Bq/kg(生)
	試料数	4	4	4	4	3	4		1	
農作物	測定値	ND	ND	ND	ND	ND	ND		0.08～0.28	Bq/kg(生)
	試料数	12	12	12	12	5	12		2	
牛乳	測定値					ND				mBq/ $\ell$
	試料数					6				
海生産物	測定値	ND	ND	ND	ND	ND	ND～0.12		ND～0.13	Bq/kg(生)
	試料数	44	44	44	44	12	44		4	
陸土	測定値	ND	ND	ND	ND		ND～15		3.0	Bq/kg(乾物)
	試料数	5	5	5	5		5		1	
海底土	測定値	ND	ND	ND	ND		ND			Bq/kg(乾物)
	試料数	3	3	3	3		3			

(注) ND は検出下限値未満を示す。網掛け欄は分析の対象外であることを示す。

### 3. 添付資料

表 I-3-1 空間放射線 積算線量

単位:【mGy/90日】

測定地点	測定値				平常の変動幅	年間線量 (mGy/365日)	測定者	備考
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月				
一矢	0.15	0.15	0.15	0.15	0.14~0.17	0.61	中国電力	
佐陀本郷	0.13	0.13	0.13	0.13	0.12~0.14	0.53	"	
深田	0.12	0.12	0.12	0.12	0.11~0.13	0.49	"	
片句	0.12	0.13	0.13	0.13	(0.12~0.13) (注3)	0.52	島根県	
	0.13	0.13	0.13	0.13		0.53	中国電力	
御津	0.14	0.15	0.14	0.14	(注4)	0.58	島根県	
	0.14	0.14	0.14	0.14		0.57	中国電力	
旦過	0.13	0.13	0.13	0.13	0.13~0.15	0.53	"	
古浦	0.13	0.13	0.13	0.13	(注4)	0.52	島根県	
	0.13	0.13	0.13	0.13		0.53	中国電力	
恵曇	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12~0.14	0.49	"	
手結	0.11	0.11	0.11	0.11	0.10~0.12	0.45	"	
上講武	0.14	0.15	0.15	0.14	0.14~0.16	0.59	島根県	
南講武	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12~0.13	0.49	"	
	0.12	0.12	0.12	0.12		0.49	中国電力	
佐陀宮内	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15~0.16	0.61	島根県	
大芦	0.14	0.15	0.14	0.14	0.14~0.15	0.58	"	
加賀	0.12	0.13	0.13	0.13	0.12~0.14	0.52	"	
西生馬	0.15	0.16	0.15	0.15	0.15~0.17	0.63	"	
西川津	0.13	0.14	0.14	0.13	0.13~0.14	0.55	"	

- (注)
- 測定方法 蛍光ガラス線量計 (RPLD) で測定した。
  - 積算線量の「平常の変動幅」は前年度までの5年間の最小値から最大値までの範囲である。
  - 片句地点は平成25年度に局舎更新に伴って測定地点を変更したため「平常の変動幅」は未設定である。  
なお、参考として平成26年度の変動幅を記載した。
  - 御津地点、古浦地点平成26年度に局舎更新に伴って測定地点を変更したため「平常の変動幅」は未設定である。

表I-3-2 空間放射線 線量率

モニタリングポストによる測定

単位:【nGy/h】

測定地点	区分	測定値			平常の変動幅 (上限)	備考
		4月	5月	6月		
西浜佐陀	平均値	48	49	49	(注5)	
	最高値	71	79	79		
	最低値	43	45	44		
御津	平均値	32	33	33	(注5)	
	最高値	51	55	66		
	最低値	27	30	29		
古浦	平均値	29	29	30	(注5)	
	最高値	48	52	62		
	最低値	25	26	26		
深田北	平均値	21	21	22	(注6)	
	最高値	43	47	57		
	最低値	18	18	18		
片句	平均値	26	26	27	(注6)	
	最高値	49	51	70		
	最低値	22	23	22		
北講武	平均値	28	28	29	(注6)	
	最高値	52	56	64		
	最低値	25	23	24		
佐陀本郷	平均値	32	32	33	64	
	最高値	52	57	66		
	最低値	28	29	28		
末次	平均値	35	35	36	60	
	最高値	55	54	54		
	最低値	30	32	31		
大芦	平均値	38	38	38	72	
	最高値	60	62	80		
	最低値	34	35	34		
上講武	平均値	39	38	38	76	
	最高値	62	65	77		
	最低値	34	34	34		
手結	平均値	43	43	44	72	
	最高値	62	65	83		
	最低値	40	40	40		

(注) 1. 測定者 島根県

2. 測定方法 3" φ球形NaI(Tl)シンチレーション検出器(エネルギー補償型)を使用し、50keV～3MeVのエネルギー範囲で測定した。
3. 測定値は、2分値である。
4. モニタリングポストの「平常の変動幅」は、各測定地点における前年度までの5年間（移設等があった場合は2年間以上）の全データから求めた累積相対度数分布の（平均値±標準偏差×3）相当の範囲である。
5. 平成26年度に局舎の移設・更新をしたため「平常の変動幅」は未設定である。
6. 平成25年度に局舎の移設・更新をしたため「平常の変動幅」は未設定である。

単位 : 【 nGy/h 】

測定地点	区分	測定値			平常の変動幅 (上限)	備考
		4月	5月	6月		
手結南	平均値	28	28	29	60	
	最高値	48	55	69		
	最低値	24	24	24		
池平	平均値	26	25	26	59	
	最高値	52	52	64		
	最低値	22	22	22		
名分	平均値	31	31	31	57	
	最高値	48	53	60		
	最低値	26	27	27		
魚瀬	平均値	35	36	36	63	
	最高値	54	58	64		
	最低値	31	32	31		
上大野	平均値	42	43	43	78	
	最高値	63	69	77		
	最低値	37	38	37		
東長江	平均値	37	38	39	75	
	最高値	60	71	75		
	最低値	32	34	33		
比津	平均値	37	38	38	67	
	最高値	60	63	65		
	最低値	33	34	33		
持田	平均値	41	41	42	76	
	最高値	70	67	68		
	最低値	36	37	36		
大芦別所	平均値	32	32	33	68	
	最高値	57	62	75		
	最低値	28	29	28		
加賀	平均値	33	33	33	60	
	最高値	53	55	70		
	最低値	29	29	28		
出雲	平均値	32	32	33	64	
	最高値	57	63	68		
	最低値	26	28	27		
安来	平均値	37	37	35	69	
	最高値	61	61	62		
	最低値	31	29	28		
雲南	平均値	27	28	28	56	
	最高値	51	51	59		
	最低値	23	23	23		

- (注) 1. 測定者 島根県  
 2. 測定方法 2" φ円筒形NaI(Tl)シンチレーション検出器(エネルギー補償型)を使用し、  
     50keV~3MeVのエネルギー範囲で測定した。  
 3. 測定値は、2分値である。  
 4. モニタリングポストの「平常の変動幅」は、各測定地点における前年度までの5年間（移設等があ  
     った場合は2年間以上）の全データから求めた累積相対度数分布の（平均値±標準偏差×3）相当  
     の範囲である。

単位:【nGy/h】

測定地点	区分	測定値			平常の変動幅 (上限)	備考
		7月	8月	9月		
西浜佐陀	平均値	48	50	48	(注5)	
	最高値	82	92	76		
	最低値	44	44	43		
御津	平均値	33	33	33	(注5)	
	最高値	64	57	55		
	最低値	29	30	29		
古浦	平均値	29	30	29	(注5)	
	最高値	61	65	50		
	最低値	26	26	25		
深田北	平均値	21	21	21	(注6)	
	最高値	56	56	43		
	最低値	18	18	18		
片句	平均値	26	26	26	(注6)	
	最高値	62	59	49		
	最低値	23	23	23		
北講武	平均値	28	29	28	(注6)	
	最高値	62	56	54		
	最低値	25	24	24		
佐陀本郷	平均値	31	32	32	64	
	最高値	63	64	52		
	最低値	28	28	28		
末次	平均値	35	35	34	60	
	最高値	57	53	58		
	最低値	31	31	31		
大芦	平均値	37	38	38	72	
	最高値	72	65	68		
	最低値	34	34	34		
上講武	平均値	37	39	38	76	
	最高値	70	64	61		
	最低値	33	34	34		
手結	平均値	43	44	44	72	
	最高値	71	76	63		
	最低値	40	40	40		

(注) 1. 測定者 島根県

2. 測定方法 3" φ球形NaI(Tl)シンチレーション検出器(エネルギー補償型)を使用し、50keV～3MeVのエネルギー範囲で測定した。

3. 測定値は、2分値である。

4. モニタリングポストの「平常の変動幅」は、各測定地点における前年度までの5年間(移設等があった場合は2年間以上)の全データから求めた累積相対度数分布の(平均値±標準偏差×3)相当の範囲である。

5. 平成26年度に局舎の移設・更新をしたため「平常の変動幅」は未設定である。

6. 平成25年度に局舎の移設・更新をしたため「平常の変動幅」は未設定である。

単位 : 【 nGy/h 】

測定地点	区分	測定値			平常の変動幅 (上限)	備考
		7月	8月	9月		
手結南	平均値	28	28	28	60	
	最高値	63	63	51		
	最低値	24	25	24		
池平	平均値	25	26	26	59	
	最高値	61	61	51		
	最低値	22	21	22		
名分	平均値	31	31	31	57	
	最高値	58	53	52		
	最低値	26	27	26		
魚瀬	平均値	35	36	35	63	
	最高値	67	64	54		
	最低値	30	31	31		
上大野	平均値	42	43	42	78	
	最高値	73	86	63		
	最低値	37	37	36		
東長江	平均値	37	39	37	75	
	最高値	71	75	63		
	最低値	33	33	32		
比津	平均値	37	38	37	67	
	最高値	67	61	59		
	最低値	33	33	33		
持田	平均値	40	41	41	76	
	最高値	71	69	70		
	最低値	36	36	34		
大芦別所	平均値	32	33	32	68	
	最高値	70	62	64		
	最低値	28	28	28		
加賀	平均値	33	33	33	60	
	最高値	63	55	55		
	最低値	29	28	29		
出雲	平均値	32	32	32	64	
	最高値	71	67	61		
	最低値	26	27	27		
安来	平均値	36	36	36	69	
	最高値	69	66	65		
	最低値	29	30	29		
雲南	平均値	28	29	29	56	
	最高値	61	56	59		
	最低値	23	24	24		

- (注)
- 測定者 島根県
  - 測定方法 2" φ円筒形NaI(Tl)シンチレーション検出器(エネルギー補償型)を使用し、50keV~3MeVのエネルギー範囲で測定した。
  - 測定値は、2分値である。
  - モニタリングポストの「平常の変動幅」は、各測定地点における前年度までの5年間（移設等があった場合は2年間以上）の全データから求めた累積相対度数分布の（平均値±標準偏差×3）相当の範囲である。

単位 : 【 nGy/h 】

測定地点	区分	測定値			平常の変動幅 (上限)	備考
		10月	11月	12月		
西浜佐陀	平均値	48	48	49	(注5)	
	最高値	81	93	82		
	最低値	44	43	43		
御津	平均値	33	34	34	(注5)	
	最高値	66	82	68		
	最低値	28	30	30		
古浦	平均値	29	31	30	(注5)	
	最高値	66	77	62		
	最低値	26	26	26		
深田北	平均値	21	22	22	(注6)	
	最高値	53	56	66		
	最低値	19	18	18		
片句	平均値	26	28	27	(注6)	
	最高値	64	59	67		
	最低値	23	23	23		
北講武	平均値	28	30	30	(注6)	
	最高値	69	91	99		
	最低値	25	25	25		
佐陀本郷	平均値	32	33	33	64	
	最高値	68	82	70		
	最低値	29	29	28		
末次	平均値	35	36	36	60	
	最高値	56	68	62		
	最低値	31	31	31		
大芦	平均値	38	39	39	72	
	最高値	73	74	80		
	最低値	35	35	35		
上講武	平均値	38	40	40	76	
	最高値	81	104	87		
	最低値	35	34	34		
手結	平均値	43	44	44	72	
	最高値	78	70	69		
	最低値	40	40	40		

- (注) 1. 測定者 島根県  
 2. 測定方法 3" φ球形NaI(Tl)シンチレーション検出器(エネルギー補償型)を使用し、  
     50keV～3MeVのエネルギー範囲で測定した。  
 3. 測定値は、2分値である。  
 4. モニタリングポストの「平常の変動幅」は、各測定地点における前年度までの5年間(移設等があった場合は  
     2年間以上)の全データから求めた累積相対度数分布の(平均値±標準偏差×3)相当の範囲である。  
 5. 平成26年度に局舎の移設・更新をしたため「平常の変動幅」は未設定である。  
 6. 平成25年度に局舎の移設・更新をしたため「平常の変動幅」は未設定である。

単位:【 nGy/h 】

測定地点	区分	測定値			平常の変動幅 (上限)	備考
		10月	11月	12月		
手結南	平均値	29	30	29	60	
	最高値	68	59	56		
	最低値	25	24	24		
池平	平均値	27	29	29	59	
	最高値	66	85	68		
	最低値	23	24	24		
名分	平均値	31	32	32	57	
	最高値	65	71	64		
	最低値	26	27	27		
魚瀬	平均値	35	36	36	63	
	最高値	71	68	76		
	最低値	32	31	31		
上大野	平均値	43	43	43	78	
	最高値	80	91	89		
	最低値	38	37	37		
東長江	平均値	38	38	38	75	
	最高値	85	90	106		
	最低値	33	33	32		
比津	平均値	37	38	38	67	
	最高値	70	83	81		
	最低値	34	33	33		
持田	平均値	41	42	42	76	
	最高値	79	95	126		
	最低値	35	35	37		
大芦別所	平均値	33	34	33	68	
	最高値	82	93	80		
	最低値	30	28	28		
加賀	平均値	33	34	34	60	
	最高値	64	73	76		
	最低値	29	29	29		
出雲	平均値	32	33	32	64	
	最高値	67	64	68		
	最低値	27	27	26		
安来	平均値	38	38	38	69	
	最高値	70	70	93		
	最低値	32	31	31		
雲南	平均値	29	30	30	56	
	最高値	60	63	66		
	最低値	24	24	23		

- (注) 1. 測定者 島根県  
 2. 測定方法 2" φ円筒形NaI(Tl)シンチレーション検出器(エネルギー補償型)を使用し、  
     50keV~3MeVのエネルギー範囲で測定した。  
 3. 測定値は、2分値である。  
 4. モニタリングポストの「平常の変動幅」は、各測定地点における前年度までの5年間(移設等があ  
     った場合は2年間以上)の全データから求めた累積相対度数分布の(平均値±標準偏差×3)相当  
     の範囲である。

単位:【nGy/h】

測定地点	区分	測定値			平常の変動幅 (上限)	備考
		1月	2月	3月		
西浜佐陀	平均値	48	48	47	(注5)	
	最高値	85	88	65		
	最低値	40	43	42		
御津	平均値	34	34	33	(注5)	
	最高値	67	74	48		
	最低値	28	30	30		
古浦	平均値	30	31	29	(注5)	
	最高値	63	89	43		
	最低値	26	26	26		
深田北	平均値	22	22	20	(注6)	
	最高値	56	73	35		
	最低値	18	18	18		
片句	平均値	27	28	26	(注6)	
	最高値	55	75	41		
	最低値	23	23	23		
北講武	平均値	29	30	28	(注6)	
	最高値	70	85	44		
	最低値	24	25	24		
佐陀本郷	平均値	33	33	31	64	
	最高値	67	83	47		
	最低値	28	28	28		
末次	平均値	35	36	34	60	
	最高値	66	81	46		
	最低値	31	31	31		
大芦	平均値	39	39	37	72	
	最高値	73	84	52		
	最低値	33	34	34		
上講武	平均値	39	40	38	76	
	最高値	75	92	54		
	最低値	32	35	33		
手結	平均値	44	45	43	72	
	最高値	72	79	56		
	最低値	39	40	40		

- (注) 1. 測定者 島根県  
 2. 測定方法 3" φ球形NaI(Tl)シンチレーション検出器(エネルギー補償型)を使用し、50keV～3MeVのエネルギー範囲で測定した。  
 3. 測定値は、2分値である。  
 4. モニタリングポストの「平常の変動幅」は、各測定地点における前年度までの5年間(移設等があった場合は2年間以上)の全データから求めた累積相対度数分布の(平均値±標準偏差×3)相当の範囲である。  
 5. 平成26年度に局舎の移設・更新をしたため「平常の変動幅」は未設定である。  
 6. 平成25年度に局舎の移設・更新をしたため「平常の変動幅」は未設定である。

単位:【nGy/h】

測定地点	区分	測定値			平常の変動幅 (上限)	備考
		1月	2月	3月		
手結南	平均値	29	30	28	60	
	最高値	61	74	42		
	最低値	24	25	25		
池平	平均値	29	29	27	59	
	最高値	64	98	44		
	最低値	23	24	23		
名分	平均値	32	32	30	57	
	最高値	64	71	42		
	最低値	27	27	27		
魚瀬	平均値	36	37	35	63	
	最高値	66	92	48		
	最低値	31	32	31		
上大野	平均値	43	43	41	78	
	最高値	81	93	58		
	最低値	34	36	37		
東長江	平均値	38	38	36	75	
	最高値	84	85	55		
	最低値	31	32	32		
比津	平均値	38	38	37	67	
	最高値	69	75	52		
	最低値	33	33	33		
持田	平均値	42	43	40	76	
	最高値	80	93	58		
	最低値	35	36	36		
大芦別所	平均値	33	34	31	68	
	最高値	74	101	47		
	最低値	26	28	28		
加賀	平均値	34	34	32	60	
	最高値	67	68	46		
	最低値	28	29	29		
出雲	平均値	31	31	30	64	
	最高値	65	82	45		
	最低値	26	25	25		
安来	平均値	38	38	36	69	
	最高値	91	82	57		
	最低値	28	30	29		
雲南	平均値	29	28	27	56	
	最高値	73	59	44		
	最低値	22	22	23		

- (注) 1. 測定者 島根県  
 2. 測定方法 2" φ円筒形NaI(Tl)シンチレーション検出器(エネルギー補償型)を使用し、  
     50keV~3MeVのエネルギー範囲で測定した。  
 3. 測定値は、2分値である。  
 4. モニタリングポストの「平常の変動幅」は、各測定地点における前年度までの5年間(移設等があ  
     った場合は2年間以上)の全データから求めた累積相対度数分布(平均値±標準偏差×3)相当の  
     範囲である。

表 I - 3 - 3 地表面における人工放射能  
人工放射能面密度

単位:【 kBq/m<sup>2</sup> 】

測定地点	測定月日	対象核種						<sup>137</sup> Cs 平常の変動幅	備考
		<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>131</sup> I	<sup>137</sup> Cs		
片句	5月29日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	(注5)	
	11月20日	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
手結	5月29日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	11月20日	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
古浦	5月29日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND~0.02	
	11月16日	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
佐陀本郷	5月31日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND~0.03	
	11月20日	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
西生馬	5月31日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND~0.01	
	11月24日	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
西川津	5月29日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND~0.06	
	11月20日	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
加賀	5月29日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND~0.01	
	11月16日	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
大芦	5月29日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND~0.03	
	11月16日	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
御津	5月29日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND~0.01	
	11月16日	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
上講武	5月29日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	11月16日	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
北講武	5月29日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	(注5)	
	11月16日	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
佐陀宮内	5月29日	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	0.01~0.05	
	11月20日	ND	ND	ND	ND	ND	0.05		
西浜佐陀	5月31日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	(注6)	
	11月24日	ND	ND	ND	ND	ND	ND		

- (注)
- 測定者 島根県
  - 測定方法 ゲルマニウム半導体検出器による in-situ 測定 (地上高 1m)
  - 対象核種は地表面分布していると仮定した。
  - <sup>137</sup>Cs 「平常の変動幅」は前年度までの 5 年間の最小値から最大値までの範囲である。
  - 片句地点、北講武地点は平成 25 年度の局舎更新に伴って、平成 26 年度から測定地点を変更したため「平常の変動幅」は未設定である。
  - 西浜佐陀地点は平成 26 年度の局舎更新に伴って、環境が変化したため「平常の変動幅」は未設定である。

表I-3-4 環境試料中の放射能

## 1) ガンマ線スペクトロメトリー対象核種

浮遊塵									単位:【 $\mu\text{Bq}/\text{m}^3$ 】	
採取地点	採取期間	対象核種					天然核種		測定者	$^{137}\text{Cs}$ 平常の変動幅
		$^{54}\text{Mn}$	$^{59}\text{Fe}$	$^{58}\text{Co}$	$^{60}\text{Co}$	$^{137}\text{Cs}$	$^7\text{Be}$	$^{40}\text{K}$		
御津	4月 1日～4月30日	ND	ND	ND	ND	ND	4,700	ND	島根県	ND
	4月30日～6月 1日	ND	ND	ND	ND	ND	5,700	ND	〃	
	6月 1日～7月 1日	ND	ND	ND	ND	ND	2,700	ND	〃	
	7月 1日～7月31日	ND	ND	ND	ND	ND	1,100	ND	〃	
	7月31日～9月 1日	ND	ND	ND	ND	ND	1,600	ND	〃	
	9月 1日～10月 2日	ND	ND	ND	ND	ND	3,000	ND	〃	
	10月 2日～11月 2日	ND	ND	ND	ND	ND	3,600	ND	〃	
	11月 2日～12月 2日	ND	ND	ND	ND	ND	2,500	ND	〃	
	12月 2日～1月 4日	ND	ND	ND	ND	ND	3,300	ND	〃	
	1月 4日～2月 1日	ND	ND	ND	ND	ND	2,900	ND	〃	
	2月 1日～2月29日	ND	ND	ND	ND	ND	3,300	ND	〃	
	2月29日～4月 1日	ND	ND	ND	ND	ND	3,200	ND	〃	
古浦	4月 1日～4月30日	ND	ND	ND	ND	ND	4,800	ND	〃	ND
	4月30日～6月 1日	ND	ND	ND	ND	ND	5,800	ND	〃	
	6月 1日～7月 1日	ND	ND	ND	ND	ND	3,000	ND	〃	
	7月 1日～7月31日	ND	ND	ND	ND	ND	1,400	ND	〃	
	7月31日～9月 1日	ND	ND	ND	ND	ND	1,900	ND	〃	
	9月 1日～10月 2日	ND	ND	ND	ND	ND	3,200	ND	〃	
	10月 2日～11月 2日	ND	ND	ND	ND	ND	3,800	ND	〃	
	11月 2日～12月 2日	ND	ND	ND	ND	ND	2,500	ND	〃	
	12月 2日～1月 4日	ND	ND	ND	ND	ND	3,500	ND	〃	
	1月 4日～2月 1日	ND	ND	ND	ND	ND	3,300	ND	〃	
	2月 1日～2月29日	ND	ND	ND	ND	ND	3,400	ND	〃	
	2月29日～4月 1日	ND	ND	ND	ND	ND	3,700	ND	〃	
西浜佐陀	(注4)4月13日～4月30日	ND	ND	ND	ND	ND	6,600	ND	〃	(ND) (注3)
	4月30日～6月 1日	ND	ND	ND	ND	ND	7,600	ND	〃	
	6月 1日～7月 1日	ND	ND	ND	ND	ND	4,200	ND	〃	
	7月 1日～7月31日	ND	ND	ND	ND	ND	1,600	ND	〃	
	7月31日～9月 1日	ND	ND	ND	ND	ND	2,400	ND	〃	
	9月 1日～10月 2日	ND	ND	ND	ND	ND	3,900	ND	〃	
	10月 2日～11月 2日	ND	ND	ND	ND	ND	4,700	ND	〃	
	11月 2日～12月 2日	ND	ND	ND	ND	ND	3,000	ND	〃	
	12月 2日～1月 4日	ND	ND	ND	ND	ND	4,000	ND	〃	
	1月 4日～2月 1日	ND	ND	ND	ND	ND	4,100	ND	〃	
	2月 1日～2月29日	ND	ND	ND	ND	ND	4,000	ND	〃	
	2月29日～4月 1日	ND	ND	ND	ND	ND	4,200	ND	〃	

(注) 1. NDは検出下限値未満を示す。

2.  $^{137}\text{Cs}$ 「平常の変動幅」は平成14～22年度及び平成25年度の10年間の最小値から最大値までの範囲である。平成23・24年度の値については福島第一原子力発電所における事故の影響のため除外している。
3. 西浜佐陀地点については、平成20年度より測定を開始したので、平成20～22年度及び平成25, 26年度の値を参考値として記載した。
4. 西浜佐陀地点の4月1日から4月12日までは、機器故障のため試料採取できなかった。

表 I-3-5

海 水

単位:【 mBq/ℓ 】

部 位	採 取 地 点	採 取 月 日	対 象 核 種					測 定 者	<sup>137</sup> Cs 平常の変動幅
			<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>137</sup> Cs		
表層水	1号機放水口 (注5)	4月 23日	ND	ND	ND	ND	2.2	島根県	0.84~2.7
			ND	ND	ND	ND	2.0	中国電力	
		10月 6日	ND	ND	ND	ND	2.0	島根県	
			ND	ND	ND	ND	1.4	中国電力	
	2号機放水口付近	4月 22日	ND	ND	ND	ND	2.1	島根県	ND~2.4
		10月 15日	ND	ND	ND	ND	2.1	中国電力	
	3号機放水口付近	4月 22日	ND	ND	ND	ND	1.8	島根県	(1.1~2.4) (注3)
		10月 15日	ND	ND	ND	ND	1.7	中国電力	
	取水口	4月 23日	ND	ND	ND	ND	1.4	"	1.3~2.8
		10月 6日	ND	ND	ND	ND	1.7	"	
	1号機放水口沖	4月 22日	ND	ND	ND	ND	2.3	島根県	1.4~2.4
		10月 15日	ND	ND	ND	ND	2.0	"	
	2・3号機放水口沖	4月 22日	ND	ND	ND	ND	2.2	"	1.3~2.4
		10月 15日	ND	ND	ND	ND	1.8	"	
	手結沖	4月 22日	ND	ND	ND	ND	2.0	"	ND~2.6
		10月 14日	ND	ND	ND	ND	1.8	中国電力	

(注) 1. NDは検出下限値未満を示す。

2. <sup>137</sup>Cs「平常の変動幅」は平成15~22年度及び平成25, 26年度の10年間の最小値から最大値までの範囲

である。平成23・24年度の値については福島第一原子力発電所における事故の影響のため除外している。

3. 3号機放水口付近については、平成21年度より測定を開始したので、平成21~22年度及び平成25, 26年度の値を参考値として記載した。

4. 天然核種 (<sup>7</sup>Be, <sup>40</sup>K) は、試料調製過程で除去され測定出来ない。

5. 同一地点で各測定者が採取し、各測定者が前処理を実施し、測定している。

表 I-3-6

## 陸 水

単位：【 mBq/ℓ 】

部 位	採 取 地	取 点	採取月日	対象核種					天然核種		測定者	<sup>137</sup> Cs 平常の変動幅
				<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K		
池 水	表層 水	一矢 (注3)	5月14日	ND	ND	ND	ND	ND	19	69	島根県	ND
				ND	ND	ND	ND	ND	8.2	61	中国電力	
	上講武	5月22日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	6.8	34	〃	ND
水 道 原 水	着 水 井	古志 淨水場 (注3)	5月14日	ND	ND	ND	ND	ND	28	25	島根県	ND
				ND	ND	ND	ND	ND	5.2	28	中国電力	
		忌部 淨水場 (注3)	11月17日	ND	ND	ND	ND	ND	11	29	島根県	
				ND	ND	ND	ND	ND	13	35	中国電力	
	忌部 淨水場 (注3)	5月14日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	24	57	島根県	ND
				ND	ND	ND	ND	ND	14	41	中国電力	
		11月17日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.2	62	島根県	
				ND	ND	ND	ND	ND	8.7	70	中国電力	

(注) 1. NDは検出下限値未満を示す。

2. <sup>137</sup>Cs「平常の変動幅」は平成15～22年度及び平成25, 26年度の10年間の最小値から最大値までの範囲である。

平成23・24年度の値については福島第一原子力発電所における事故の影響のため除外している。

3. 同一地点で各測定者が採取し、各測定者が前処理を実施し、測定している。

表 I-3-7

## 植 物

単位：【 Bq/kg(生) 】

試 料 名	部 位	採 取 地	取 点	採取月日	対象核種					天然核種		測定者	<sup>137</sup> Cs 平常の変動幅
					<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>131</sup> I	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	
松 葉	2年 葉	御津	4月22日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	32	66	島根県	ND～0.06
		西浜佐陀	11月17日 (注4)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	29	72	〃	(注3)
		深田北	10月7日	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	32	71	〃	(注3)
				ND	ND	ND	ND	/	0.04	33	73	中国電力	

(注) 1. NDは検出下限値未満を示す。

2. <sup>137</sup>Cs「平常の変動幅」は平成15～22年度及び平成25, 26年度の10年間の最小値から最大値までの範囲である。

平成23・24年度の値については福島第一原子力発電所における事故の影響のため除外している。

3. 西浜佐陀地点及び深田北地点の<sup>137</sup>Cs「平常の変動幅」は、今年度から採取・測定を開始したため未設定である。

4. 第2四半期採取計画であったが、採取できなかつたため、第3四半期に採取した。

表 I - 3 - 8

## 農産物

単位:【Bq/kg(生)】

試料名	部位	採取地点	採取月日	対象核種					天然核種		測定者	<sup>137</sup> Cs 平常の変動幅	
				<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>131</sup> I	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K		
大根	根	御津	12月8日	ND	ND	ND	ND	/	ND	0.23	77	島根県	ND
		根連木	4月9日	ND	ND	ND	ND	/	ND	0.48	63	中国電力	ND~0.06
			12月7日	ND	ND	ND	ND	/	ND	0.19	79	島根県	
ほうれん草	葉	御津	12月8日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	12	240	"	ND
		根連木	12月7日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	8.8	170	"	ND~0.03
				ND	ND	ND	ND	/	ND	13	240	中国電力	
キヤベツ	葉	御津	5月7日	ND	ND	ND	ND	/	ND	ND	58	島根県	ND
		根連木	5月7日	ND	ND	ND	ND	/	ND	0.23	71	"	ND~0.06
精米	尾坂	尾坂	10月8日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.16	21	"	ND
				ND	ND	ND	ND	/	ND	ND	22	中国電力	
茶葉	葉	北講武 (注3)	5月11日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	14	140	島根県	ND~0.06
				ND	ND	ND	ND	ND	ND	16	160	中国電力	

(注) 1. NDは検出下限値未満を示す。

2. <sup>137</sup>Cs「平常の変動幅」は平成15~22年度及び平成25, 26年度の10年間の最小値から最大値までの範囲である。

平成23・24年度の値については福島第一原子力発電所における事故の影響のため除外している。

3. 同一地点で採取された試料を分割し、各測定者が前処理を実施し、測定している。

表 I - 3 - 9

## 牛乳

単位:【mBq/l】

試料名	採取地點	採取月日	対象核種					測定者
			<sup>131</sup> I					
原乳	南講武	4月9日 (注3)	ND					島根県
			ND					中国電力
		7月10日	ND					島根県
		10月14日 (注3)	ND					"
			ND					中国電力
		1月15日	ND					島根県

(注) 1. NDは検出下限値未満を示す。

2. <sup>131</sup>Iのみが測定対象である。

3. 同一地点で採取された試料を分割し、各測定者が前処理を実施し、測定している。

表 I-3-10  
海産生物

単位:【Bq/kg(生)】

試料名	部位	採取地点	採取月日	対象核種					天然核種		測定者	$^{137}\text{Cs}$ 平常の変動幅
				$^{54}\text{Mn}$	$^{59}\text{Fe}$	$^{58}\text{Co}$	$^{60}\text{Co}$	$^{137}\text{Cs}$	$^7\text{Be}$	$^{40}\text{K}$		
かさご	肉	発電所付近沿岸	4月23日 6月15日	ND	ND	ND	ND	0.12	ND	97	島根県	0.06~0.15
なまこ	肉	1号機放水口付近	1月26日	ND	ND	ND	ND	ND	0.34	22	〃	ND (注3)
		宮崎鼻付近	1月31日	ND	ND	ND	ND	ND	0.31	22	〃	(ND) (注4)
さざえ	肉	1号機放水口付近	4月21日	ND	ND	ND	ND	ND	0.45	80	〃	ND~0.04 (注5)
			7月5日	ND	ND	ND	ND	ND	1.1	83	〃	
			10月14日	ND	ND	ND	ND	ND	1.2	77	〃	
			1月26日	ND	ND	ND	ND	ND	0.78	77	〃	
	内臓	宮崎鼻付近	4月16日	ND	ND	ND	ND	ND	0.74	82	〃	ND~0.04
			7月12日	ND	ND	ND	ND	ND	0.67	86	〃	
			11月6日	ND	ND	ND	ND	ND	1.2	84	〃	
			1月31日	ND	ND	ND	ND	ND	1.4	87	〃	
むらさきいがい	むき身	1号機放水口付近	4月21日	ND	ND	ND	ND	ND	1.4	59	〃	ND (注5)
			7月5日	ND	ND	ND	ND	ND	4.7	85	〃	
			10月14日	ND	ND	ND	ND	ND	3.7	43	〃	
			1月26日	ND	ND	ND	ND	ND	2.2	45	〃	
	内臓	宮崎鼻付近	4月16日	ND	ND	ND	ND	ND	2.5	73	〃	ND~0.04
			7月12日	ND	ND	ND	ND	ND	2.5	66	〃	
			11月6日	ND	ND	ND	ND	ND	4.2	52	〃	
			1月31日	ND	ND	ND	ND	ND	5.3	80	〃	
むらさきいがい	むき身	1号機放水口付近	7月22日	ND	ND	ND	ND	0.04	2.4	86	〃	ND~0.03
				ND	ND	ND	ND	ND	2.0	86	中国電力	
		宮崎鼻付近	7月12日	ND	ND	ND	ND	ND	3.2	59	島根県	ND
				ND	ND	ND	ND	ND	3.2	60	中国電力	
	内臓	浜田市	7月12日	ND	ND	ND	ND	ND	0.78	42	島根県	ND
		松江市 美保関町	7月21日	ND	ND	ND	ND	ND	4.2	48	〃	ND
				ND	ND	ND	ND	ND	4.0	48	中国電力	

(注) 1. NDは検出下限値未満を示す。

2.  $^{137}\text{Cs}$ 「平常の変動幅」は平成15~22年度及び平成25, 26年度の10年間の最小値から最大値までの範囲である。  
平成23・24年度の値については福島第一原子力発電所における事故の影響のため除外している。
3. 1号機放水口付近の $^{137}\text{Cs}$ 「平常の変動幅」は、平成15~17年度は宇中湾付近採取試料との混合試料として、平成18~21年度は宮崎鼻付近採取試料との混合試料として測定を行っていたため、平成15~21年度の混合試料を1号機放水口付近の値とみなして決定した。
4. 宮崎鼻付近の $^{137}\text{Cs}$ 「平常の変動幅」は、平成18年度から1号機放水口付近採取試料との混合試料として測定を開始したため、平成18~21年度の混合試料及び平成22年度、平成25, 26年度の測定結果から参考値として記載した。
5. 1号機放水口付近の $^{137}\text{Cs}$ 「平常の変動幅」は、平成15~17年度は宇中湾付近採取試料との混合試料として測定を行っていたため、平成15~18年度の混合試料の測定結果を1号機放水口付近の値とみなして決定した。

## 単位：【 Bq/kg(生) 】

試料名	部位	採取地点	採取月日	対象核種					天然核種		測定者	$^{137}\text{Cs}$ 平常の変動幅	
				$^{54}\text{Mn}$	$^{59}\text{Fe}$	$^{58}\text{Co}$	$^{60}\text{Co}$	$^{131}\text{I}$	$^{137}\text{Cs}$	$^{7}\text{Be}$			
あらめ	仮根を除く	1号機放水口付近	6月21日	ND	ND	ND	ND	/	ND	0.85	280	島根県	ND~0.10
		宮崎鼻付近	10月14日	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	0.74	70	〃	
	宮崎鼻付近	6月16日	7月4日	ND	ND	ND	ND	/	0.10	1.1	280	〃	ND~0.12
		宮崎鼻付近海底部(注4)	12月2日	ND	ND	ND	ND	ND	0.07	1.5	300	中国電力	
	仮根を除く	1号機放水口付近(注4)	4月21日	ND	ND	ND	ND	/	ND	0.93	370	島根県	ND~0.09
				ND	ND	ND	ND	/	0.06	ND	400	中国電力	
わかめ	仮根を除く	1号機放水口付近(注4)	1月17日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.0	220	島根県	ND
岩のり	全体	1号機放水口付近	6月21日	ND	ND	ND	ND	/	ND	4.3	120	島根県	ND
ほんだわら類	仮根を除く	1号機放水口付近(注4)	7月4日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.3	310	〃	ND
		宮崎鼻付近		ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.3	350	中国電力	
	輪谷湾	6月21日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.9	280	島根県	ND~0.07
			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.3	270	中国電力	
	浜田市	7月4日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.2	270	島根県	ND~0.08
			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.0	290	中国電力	
	松江市美保関町	7月12日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.0	280	島根県	(ND) (注3)
		7月21日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.0	320	〃	(ND) (注3)
			ND	ND	ND	ND	/	ND	ND	1.4	290	中国電力	

(注) 1. NDは検出下限値未満を示す。

2.  $^{137}\text{Cs}$ 「平常の変動幅」は平成15~22年度及び平成25, 26年度の10年間の最小値から最大値までの範囲である。

平成23・24年度の値については福島第一原子力発電所における事故の影響のため除外している。

3. 浜田市および松江市美保関町のほんだわら類の $^{137}\text{Cs}$ 「平常の変動幅」は、平成19年度から測定を開始したため、平成19~22年度及び平成25, 26年度の値を参考値として記載した。

4. 同一地点で採取された試料を分割し、各測定者が前処理を実施し、測定している。

表 I - 3 - 1 1

## 陸 土 (濃 度)

単位 : 【 Bq/kg(乾物)】

部 位	採 取 地 点	採取月 日	対 象 核 種					天 然 核 種		測 定 者	<sup>137</sup> Cs 平常の変動幅
			<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K		
表層土 (0~5 cm)	南 講 武	5 月 15 日	ND	ND	ND	ND	1.6	11	170	島 根 県	ND~2.1
	片 句	5 月 15 日	ND	ND	ND	ND	ND	8.2	680	〃	(ND~0.83) (注 3)
	佐 陀 宮 内 (注 6)	5 月 15 日	ND	ND	ND	ND	15	14	340	〃	1.9~27
			ND	ND	ND	ND	9.2	6.9	410	中 国 電 力	
	西 浜 佐 陀	5 月 22 日	ND	ND	ND	ND	ND	19	640	島 根 県	(1.0~3.5) (注 4)

## 陸 土 (面 密 度)

単位 : 【 kBq/m<sup>2</sup>】

部 位	採 取 地 点	採取月 日	対 象 核 種					天 然 核 種		測 定 者	<sup>137</sup> Cs 平常の変動幅
			<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be			
表層土 (0~5 cm)	南 講 武	5 月 15 日	ND	ND	ND	ND	0.03	0.23		島 根 県	ND~0.11
	片 句	5 月 15 日	ND	ND	ND	ND	ND	0.30		〃	(ND~0.04) (注 3)
	佐 陀 宮 内 (注 6)	5 月 15 日	ND	ND	ND	ND	0.39	0.39		〃	0.07~1.4
			ND	ND	ND	ND	0.24	0.18		中 国 電 力	
	西 浜 佐 陀	5 月 22 日	ND	ND	ND	ND	ND	0.32		島 根 県	(0.08~0.12) (注 4)

(注) 1. ND は検出下限値未満を示す。

2. <sup>137</sup>Cs「平常の変動幅」は平成 15~22 年度及び平成 25, 26 年度の 10 年間の最小値から最大値までの範囲である。

平成 23・24 年度の値については福島第一原子力発電所における事故の影響のため除外している。

3. 片句地点の <sup>137</sup>Cs「平常の変動幅」は平成 20 年度より採取ポートを移動したため、平成 20~22 年度及び平成 25, 26 年度の値を参考値として記載した。4. 西浜佐陀地点の <sup>137</sup>Cs「平常の変動幅」は平成 20 年度より測定を開始したので、平成 20~22 年度及び平成 25, 26 年度の値を参考値として記載した。

5. 面密度の表は、濃度の表の値を換算したものである。

6. 同一地点で各測定者が採取し、各測定者が前処理を実施し、測定している。

## 表 I - 3 - 1 2

## 海 底 土

単位 : 【 Bq/kg(乾物)】

部 位	採 取 地 点	採取月 日	対 象 核 種					天 然 核 種		測 定 者	<sup>137</sup> Cs 平常の変動幅
			<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K		
表層底質	1 号機放水口沖	4 月 22 日	ND	ND	ND	ND	ND	6.2	130	島 根 県	ND
	2・3 号機放水口沖	4 月 22 日	ND	ND	ND	ND	ND	5.7	96	〃	ND
	手 結 沖	4 月 22 日	ND	ND	ND	ND	ND	ND	270	〃	ND

(注) 1. ND は検出下限値未満を示す。

2. <sup>137</sup>Cs「平常の変動幅」は平成 15~22 年度及び平成 25, 26 年度の 10 年間の最小値から最大値までの範囲である。平成 23・24 年度の値については福島第一原子力発電所における事故の影響のため除外している。

表I-3-13

## 2) トリチウム

単位:【Bq/ℓ】

試料名	部位	採取地點	採取月日	測定値	測定者	平常の変動幅	
海水	表層水	1号機放水口沖 (注3)	4月 22日	ND	島根県	ND	
				ND	中国電力		
			10月 15日	ND	島根県		
				ND	中国電力		
		2・3号機放水口沖 (注3)	4月 22日	ND	島根県	ND~0.78	
				ND	中国電力		
			10月 15日	ND	島根県		
				ND	中国電力		
		手結沖	4月 22日	ND	島根県	ND	
			10月 14日	ND	中国電力		
陸水	池水	表層水	一矢 (注3)	5月 14日	ND	島根県	ND~0.61
	0.52	中国電力					
	水道原水	着水井	古志浄水場 (注3)	5月 14日	0.34	島根県	ND~0.65
					0.43	中国電力	
				11月 17日	ND	島根県	
					ND	中国電力	

- (注) 1. NDは検出下限値未満を示す。  
 2. 「平常の変動幅」は前年度までの10年間の最小値から最大値までの範囲である。  
 3. 同一地点で各測定者が採取し、各測定者が前処理を実施し、測定している。

表 I-3-14

## 3) ストロンチウム 90

試 料 名	部 位	採 取 地 点	採 取 月 日	測 定 値	単 位	平 常 の 変 動 幅			
松 葉	2年葉	御 津	4月 22日	13	Bq/kg(生)	2.5~12			
ほうれん草	葉	御 津	12月 8日	0.08		0.04~0.16			
茶	葉	北 講 武	5月 11日	0.28		0.19~1.5			
海 水	表層水	1号機放水口沖	4月 22日	ND	mBq/l	ND~2.6			
海 産 生 物	さざえ	肉	1号機放水口湾付近	4月 21日	ND	ND (注4)			
			宮崎鼻付近	4月 16日	ND	ND			
	あらめ	仮根を除く	宮崎鼻付近	7月 4日	ND	(ND) (注5)			
	わかめ	〃	1号機放水口湾付近	4月 21日	0.13	ND~0.09			
陸 土		表層土 (0~5 cm)	佐 陀 宮 内	5月 15日	3.0	Bq/kg(乾物)			
					0.07	kBq/m <sup>2</sup>			
						0.06~0.22			

(注) 1. 測定者 島根県

2. NDは検出下限値未満を示す。
3. 「平常の変動幅」は前年度までの10年間の最小値から最大値までの範囲である。
4. 1号機放水口湾付近の「平常の変動幅」は、平成17年度は宇中湾付近採取試料との混合試料として、平成18年度は宮崎鼻付近採取試料との混合試料として測定を行っていたため、平成17~18年度の混合試料の測定結果を1号機放水口湾付近の値とみなして決定した。
5. 宮崎鼻付近のあらめについては、平成22年度から測定を開始したため、平成22~26年度の値を参考値として記載した。

## II. 温 排 水 関 係



## 1. 概要

### (1) 調査結果の評価

原子力発電所から放出される温排水が周辺海域に及ぼす影響を調査するため、水温等を測定し、各々の測定項目ごとに温排水の影響に関する詳細な検討を行ったが、特異な状況は認められなかった。

温排水測定計画および実施状況を（2）、温排水測定定点図を（3）に示す。

平成27年度の島根原子力発電所の運転状況は、以下のとおりであった。

1号機：放水量：4月1日～3月4日	22 m <sup>3</sup> / s
3月5日～3月11日	1 m <sup>3</sup> / s
3月12日～3月31日	22 m <sup>3</sup> / s

発電状況：4月1日～3月31日 第29回施設定期検査のため発電停止

2号機：放水量：4月1日～3月31日	2.4 m <sup>3</sup> / s
--------------------	------------------------

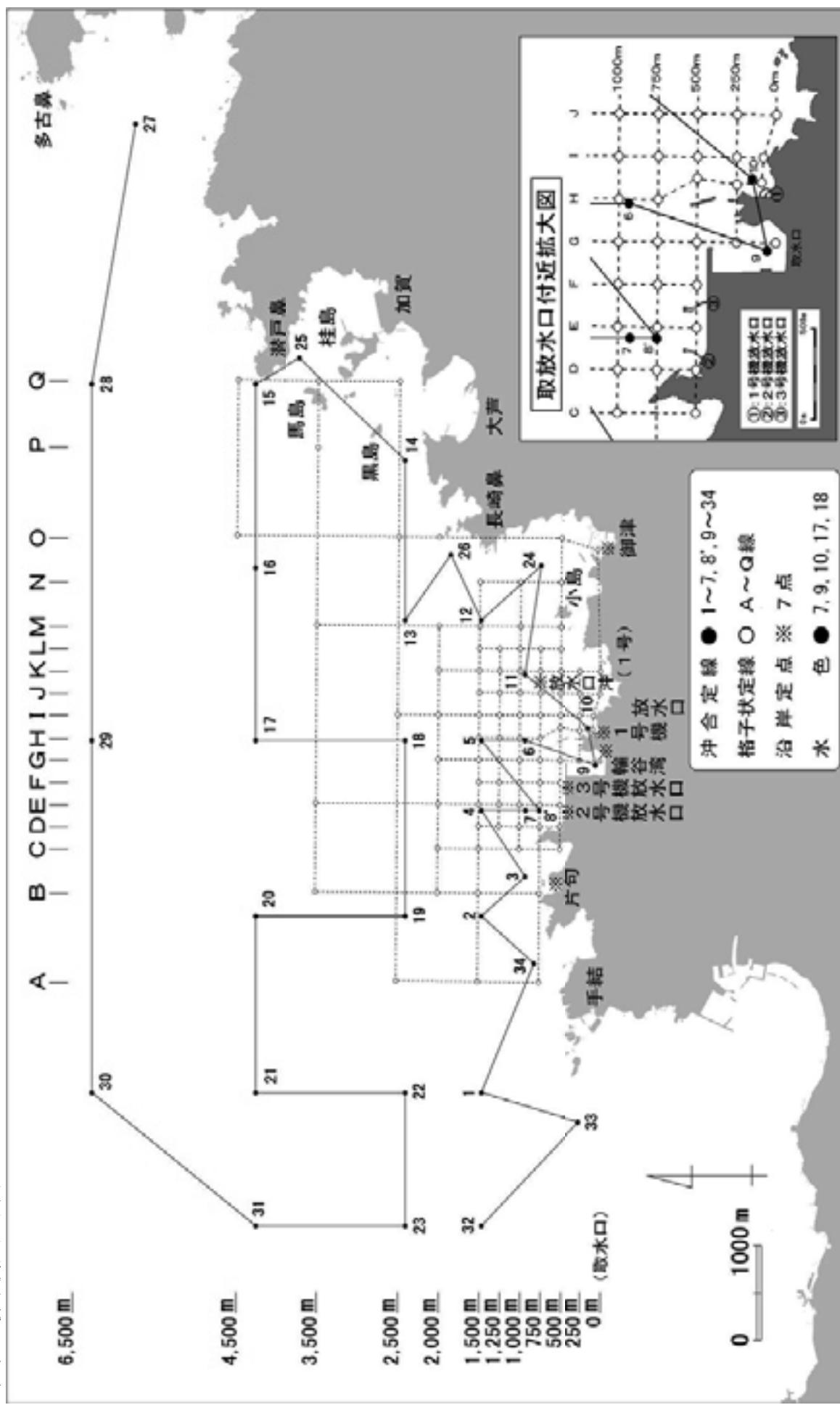
発電状況：4月1日～3月31日 第17回施設定期検査のため発電停止

3号機：放水量：4月1日～3月31日	3 m <sup>3</sup> / s
(燃料装荷前の検査段階で温排水の放出はなし)	

## (2) 温排水測定計画および実施状況

測定項目	測定点	測定水深	測定方法	測定回数	資料整理	実施者	実施状況
沖合定線 34点	0~20m 1m間隔 25m 30m~海底 10m間隔	可搬式水温計 による測温	年4回	1. 測定温度表 2. 水温水平分布図 3. 水温鉛直分布図	島根県	第1四半期 第2四半期 第3四半期 第4四半期	平成27年5月28日 平成27年8月20日 平成27年10月15日 平成28年3月4日
沿岸定点 7点	放水口沖 (1号) 1号機放水口 2号機放水口 3号機放水口 輪谷湾 片句 御津	0m~海底 (水深約20m) 1m間隔 1m 1m 4m 1・3m 1・3m 1・3m	可搬式水温計 による測温	毎月3回	測定日の10時 データの表	中国電力	平成27年4月～平成28年3月
水温	格子状定線 89点	0~20m 1m間隔 25m 30m~海底 10m間隔	可搬式水温計 による測温	連続	1. 毎日の10時 データの表 2. 沖合定線測定日 の毎時データの表	中国電力	平成27年4月～平成28年3月
水色	沖合定線の測定点 7・9・10・17・18	フォーレルの水色 計による観測	年4回	フォーレルの水色 標準液番号の表	島根県	各四半期とも 沖合定線測定日と同日	平成27年6月5日 ( 9:30~11:02 11:30~13:06) 第2四半期 平成27年9月2日 ( 9:30~11:35 13:30~15:16) 第3四半期 平成27年11月20日 ( 9:30~11:29 12:00~13:57) 第4四半期 平成28年3月23日 (10:30~12:05 - )

(3) 温排水測定定点図



## 2. 調査結果

### (1) 沖合定線

1号機は第1四半期途中まで第29回施設定期検査中であったが、平成28年4月30日付で運転を終了した。2号機は第1～4四半期中において第17回施設定期検査により停止中。また3号機は燃料装荷前検査段階で、いずれも原子炉の稼動に伴う温排水の放出はなかった。

温排水の影響範囲は、温排水の影響がないと思われる取水口沖約4,500m付近の定点15, 16, 17, 20, 21の5定点の水深層別の平均値を基準水温とし、これより1°C以上高かった定点、0.5°C以上1°C未満高かった定点に区分し、測定時の稼働状況や海況等を考慮して判断している。

測定日の島根原子力発電所の運転状況

		発電出力 (万 kW)	放水量 (m <sup>3</sup> /s)
第1四半期 H27. 5. 28	1号機	0	22
	2号機	0	2.4
	3号機	0	3
第2四半期 H27. 8. 20	1号機	0	22
	2号機	0	2.4
	3号機	0	3
第3四半期 H27. 10. 15	1号機	0	22
	2号機	0	2.4
	3号機	0	3
第4四半期 H28. 3. 4	1号機	0	22
	2号機	0	2.4
	3号機	0	3

#### ア. 水温が基準水温より1°C以上高かった定点

##### i) 温排水の拡散によると考えられるもの

第1四半期：なし

第2四半期：なし

第3四半期：なし

第4四半期：なし

##### ii) 温排水の拡散によるものではないと考えられるもの

第2四半期： 定点18 : 25m層 観測範囲の外側から差し込んできた水塊に由来するもの

#### イ. 水温が基準水温より0.5°C以上1°C未満高かった定点

##### i) 温排水の拡散によると考えられるもの

第1四半期：なし

第2四半期：なし

第3四半期：なし

第4四半期：なし

##### ii) 温排水の拡散によるものではないと考えられるもの

第1四半期： 定点15 : 14-16, 18m層 観測範囲の外側から差し込んできた水塊に由来するもの  
定点16 : 13, 14m層

定点18 : 11-18m層

定点25 : 0-2, 16-18m層

定点28 : 16-19m層

定点32 : 16-18m層

定点33 : 13, 14, 18-20m層

定点34 : 17-19m層

第2四半期： 定点1 : 30m層 観測範囲の外側から差し込んできた水塊に由来するもの  
定点6 : 13, 14m層

定点13 : 14, 15m層

定点15 : 11-13m層

定点16 : 14, 15m層

定点18 : 20, 30m層

定点22 : 18m層

定点24 : 16, 17m層

定点33 : 30m層

第3四半期：なし

第4四半期： 定点22 : 1-3m層 観測範囲の外側から差し込んできた水塊に由来するもの

定点28 : 0m層

定点32 : 0, 60m層

ウ. 水温が基準水温より0.5°C以上高かった定点の過去の※<sup>1</sup>出現状況との検討

基準水温より1°C以上高かった定点は過去の出現範囲外の1定点で、0.5°C以上1°C未満高かった定点は過去の出現範囲内の12定点であった。

基準水温より1°C以上高かった水深層は過去の出現範囲（0～15・17～20・30・60m層）外の25m層で、基準水温より0.5°C以上1°C未満高かった水深層は、過去の出現範囲（0～60m層）内の0・1・2・3・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・30m層であった。

島根原子力発電所 基準水温より水温が高かった点の過去（平成17～26年度）の出現範囲

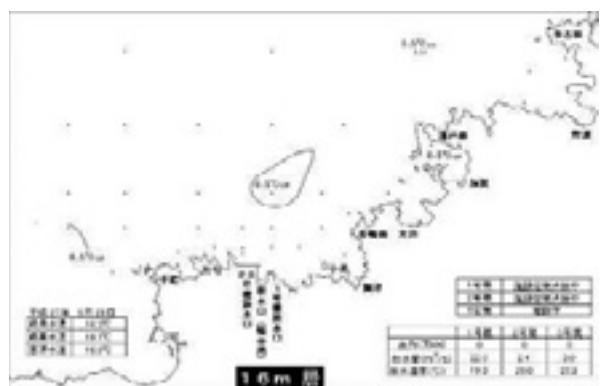
水深		定点番号																																			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34		
1 °C以上	0			*	*	*	*	*	*	*	*	*						*	*	*		*	*	*	*	*			*	*	*						
	1			*	*	*	*	*	*	*	*							*	*	*		*	*						*	*	*						
	2					*	*		*	*									*	*										*	*	*					
	3						*		*										*	*										*	*	*					
	4																		*	*										*	*	*					
	5																		*	*										*	*	*					
	6																		*	*										*	*	*					
	7																		*	*											*						
	8																													*							
	9																													*							
	10																														*						
	11		*																																		
	12																																				
	13								*																												
	14								*																												
	15																																				
	16																																				
	17																																				
	18																																				
	19																																				
	20																																				
	25																																				
	30																																				
	40																																				
	50	*																																			
	60																																				
	70																																				
	80																																				
	計	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
0 °C以上	0	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
0.5 °C以上	0	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
0.5 °C未満	0	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	3	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	4																																				
	5																																				
	6																																				
	7																																				
	8																																				
	9	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	10	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	11	*																																			
	12	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	13	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	14	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	15	*																																			
	16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	17	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	18	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	19	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	20	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	25	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	30	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	40	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	50	*																																			
	60																																				
	70																																				
	80																																				
	計	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*

■ 平成27年度出現点

※1 調査点の追加等測定計画の変更を行ったため、過去10年間（平成17～26年度）の定点1～34の0m層～海底によって検討した。

エ. 各四半期別、各水深層別の基準水温との温度差（℃）

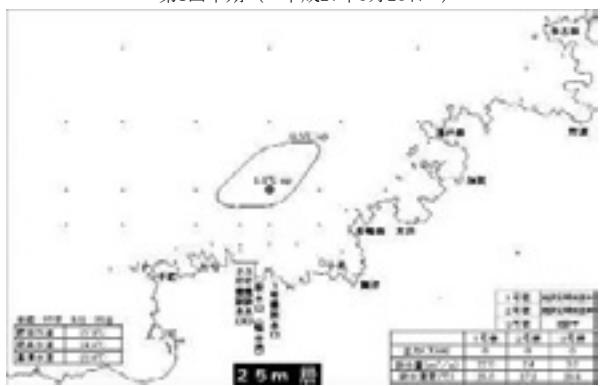
水深層	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
	基準水温	水温範囲	基準水温	水温範囲	基準水温	水温範囲	基準水温	水温範囲
0m	20.1°C	-0.4～0.5	26.7°C	-0.4～0.2	21.9°C	-0.4～0.2	12.8°C	-1.9～0.5
1m	20.0°C	-0.3～0.6	26.7°C	-0.4～0.2	21.9°C	-0.4～0.2	12.8°C	-1.0～0.5
2m	19.9°C	-0.2～0.6	26.7°C	-0.4～0.2	21.9°C	-0.4～0.2	12.8°C	-0.5～0.5
3m	19.9°C	-0.2～0.4	26.7°C	-0.8～0.2	21.9°C	-0.4～0.2	12.7°C	-0.3～0.5
4m	19.8°C	-0.2～0.4	26.7°C	-1.0～0.3	21.9°C	-0.3～0.2	12.8°C	-0.4～0.3
5m	19.8°C	-0.4～0.4	26.6°C	-1.1～0.3	21.9°C	-0.3～0.2	12.8°C	-0.4～0.3
6m	19.8°C	-0.5～0.3	26.6°C	-1.3～0.2	21.9°C	-0.3～0.2	12.8°C	-0.4～0.3
7m	19.8°C	-0.6～0.1	26.5°C	-1.3～0.3	21.9°C	-0.3～0.2	12.8°C	-0.4～0.3
8m	19.7°C	-0.5～0.2	26.5°C	-1.6～0.3	21.9°C	-0.3～0.2	12.8°C	-0.4～0.3
9m	19.7°C	-0.5～0.2	26.4°C	-1.6～0.2	21.9°C	-0.2～0.2	12.8°C	-0.4～0.3
10m	19.5°C	-0.4～0.3	26.1°C	-1.3～0.4	21.9°C	-0.2～0.2	12.8°C	-0.4～0.3
11m	19.3°C	-0.4～0.5	25.9°C	-1.4～0.6	21.9°C	-0.2～0.2	12.7°C	-0.3～0.4
12m	19.3°C	-0.5～0.5	25.7°C	-1.7～0.7	21.9°C	-0.2～0.2	12.7°C	-0.3～0.4
13m	19.2°C	-0.5～0.5	25.5°C	-1.8～0.5	21.9°C	-0.2～0.2	12.7°C	-0.3～0.4
14m	19.1°C	-0.6～0.6	25.2°C	-1.7～0.7	21.9°C	-0.2～0.2	12.7°C	-0.3～0.4
15m	19.1°C	-0.8～0.6	25.0°C	-1.7～0.5	21.9°C	-0.2～0.2	12.7°C	-0.3～0.4
16m	18.9°C	-0.6～0.8	24.8°C	-1.5～0.5	21.9°C	-0.2～0.2	12.7°C	-0.3～0.4
17m	18.9°C	-0.7～0.7	24.6°C	-1.0～0.6	21.9°C	-0.2～0.2	12.7°C	-0.3～0.4
18m	18.8°C	-0.6～0.7	24.4°C	-0.8～0.5	21.9°C	-0.2～0.2	12.7°C	-0.3～0.4
19m	18.8°C	-0.7～0.6	24.3°C	-0.8～0.4	21.9°C	-0.2～0.2	12.7°C	-0.3～0.4
20m	18.7°C	-0.6～0.6	24.1°C	-0.7～0.5	21.9°C	-0.2～0.2	12.7°C	-0.1～0.4
25m	18.6°C	-0.6～0.3	23.4°C	-0.5～1.0	22.0°C	-0.3～0.1	12.7°C	-0.1～0.4
30m	18.2°C	-0.3～0.4	22.8°C	-0.3～0.8	22.0°C	-0.2～0.0	12.7°C	-0.1～0.4
40m	18.0°C	-0.4～0.2	22.2°C	-0.3～0.3	22.0°C	-0.1～0.1	12.7°C	-0.1～0.4
50m	17.8°C	-0.4～0.2	21.6°C	-0.2～0.2	22.0°C	-0.1～0.1	12.7°C	0.0～0.4
60m	17.5°C	-0.3～0.2	21.1°C	-0.2～0.2	21.9°C	0.0～0.1	12.7°C	0.0～0.5
70m	17.1°C	0.0～0.1	20.6°C	-0.5～0.0	21.8°C	-0.1～0.2	12.7°C	0.0～0.4
80m	17.0°C	0.0～0.1						



第1四半期（平成27年5月28日）



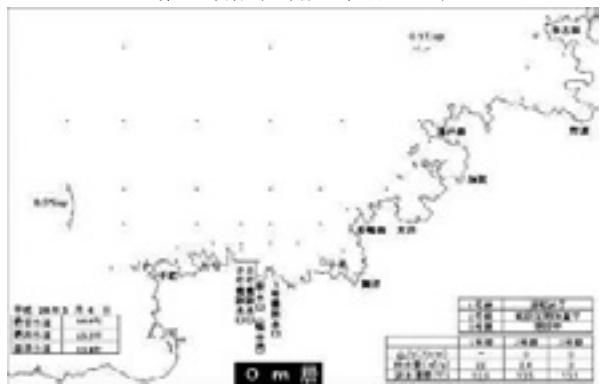
第1四半期（平成27年5月28日）



第2四半期（平成27年8月20日）



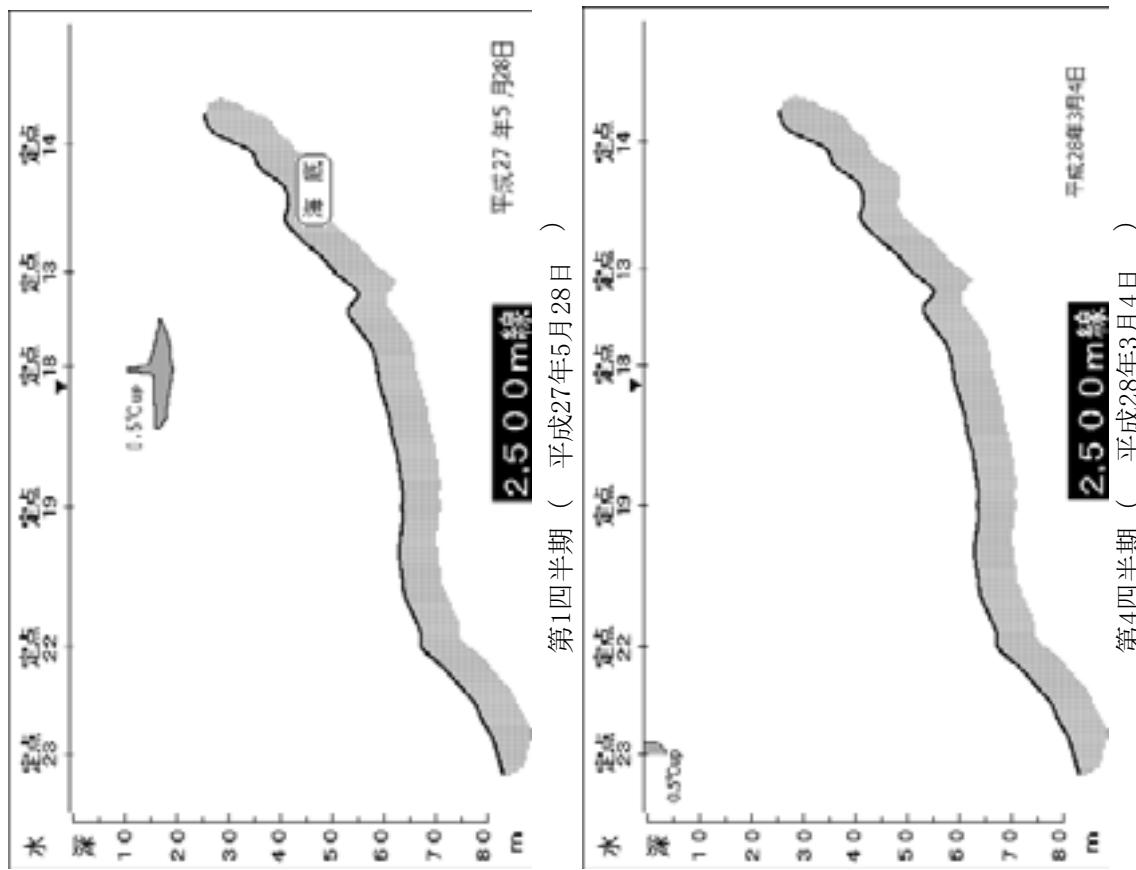
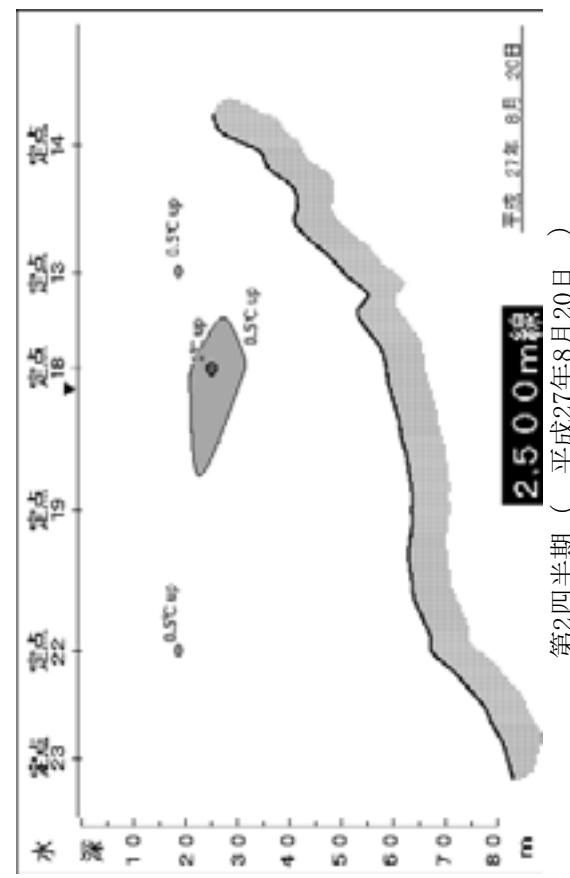
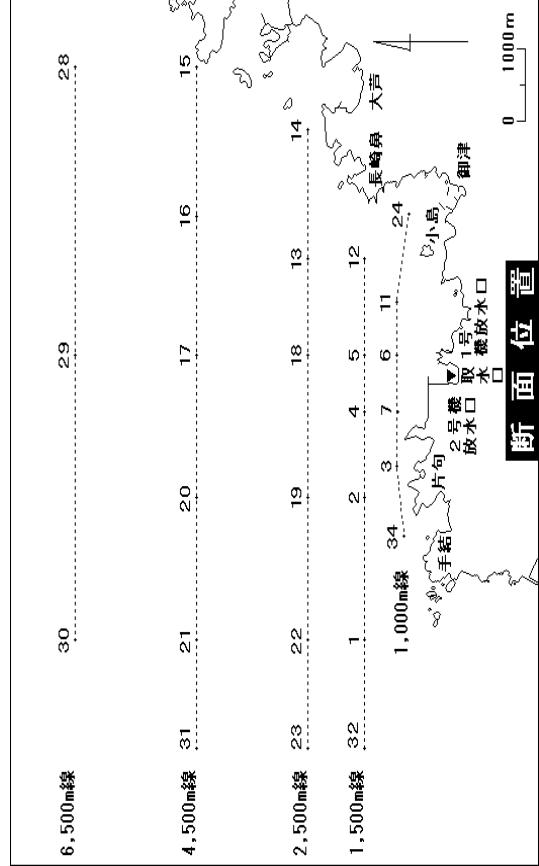
第2四半期（平成27年8月20日）



第4四半期（平成28年3月4日）

### 島根原子力発電所 沖合定線の水温水平分布図（基準水温との温度差）

第1～第4四半期の結果から基準水温よりも高い水温が出現した代表的な水深層の昇温域の水平分布を示した。



## 島根原子力発電所 沖合定線の水温鉛直分布図（基準水温との温度差）

基準水温より0.5°C以上高い水温が観測された定点の断面線の分布を示した。

## (2) 格子状定線

### 測定日の島根原子力発電所の運転状況（10時）

	号機別	発電出力(万kW)	放水量(m <sup>3</sup> /s)
第1四半期 (平成27年6月5日)	1号機	0	22
	2号機	0	2.4
	3号機	0	3
第2四半期 (平成27年9月2日)	1号機	0	22
	2号機	0	2.4
	3号機	0	3
第3四半期 (平成27年11月20日)	1号機	0	22
	2号機	0	2.4
	3号機	0	3
第4四半期 (平成28年3月23日)	1号機	0	22
	2号機	0	2.4
	3号機	0	3

各四半期の温排水の拡散状況は次のとおりであり、島根原子力発電所2号機 修正環境影響調査書（昭和56年4月）及び、島根原子力発電所3号機 環境影響評価書（平成12年9月）における温排水拡散予測の範囲内に収まるものであった。

第1四半期：基準水温より1°C以上高い水温上昇域は、1回目の測定では片町沿岸部および発電所沖合に点在することを確認した。また2回目の測定では、発電所沿岸部で確認した。

第2四半期：基準水温より1°C以上高い水温上昇域は、1回目、2回目共に確認されなかった。

第3四半期：基準水温より1°C以上高い水温上昇域は、1回目、2回目共に確認されなかった。

第4四半期：風浪が悪化したことから、途中段階で測定を中止した。（2回目の測定は全点中止）調査中海象悪化等により、計画測定点89点のうち20点が欠測〔漁具による欠測3点、風浪のため欠測17点（基準水温測定点を含む。）〕となったことから、基準水温と水温上昇域の偏差を水温上昇域の分布状況評価（水温水平分布図、水温鉛直分布図による評価）ができないため、距岸1,500mまでの水温測定結果を水平方向（東西方向、南北方向）および鉛直方向（水深層）別にグラフ化して評価を行った。放水口付近から距岸1,500m線までの範囲の温度勾配はいずれの方向においてもほぼ一様（最高水温；13.7°C、最低水温；13.4°C）な状況であり、発電所からの温排水に起因する水温上昇は見られなかった。（参考資料11（P88～91）参照）

# 島根原子力発電所 格子状定線の水温水平・鉛直分布図（基準水温との温度差）

平成27年6月5日 第1回  
9時30分～11時02分

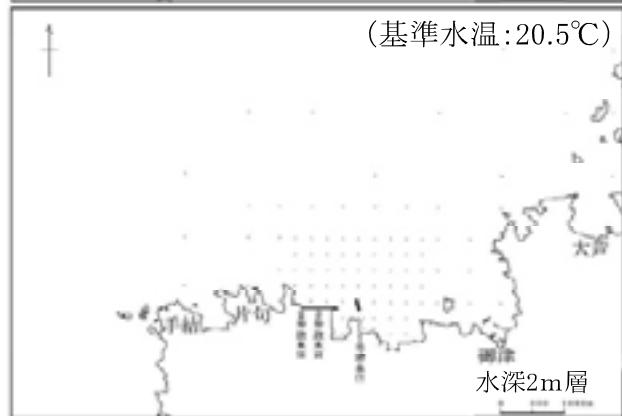
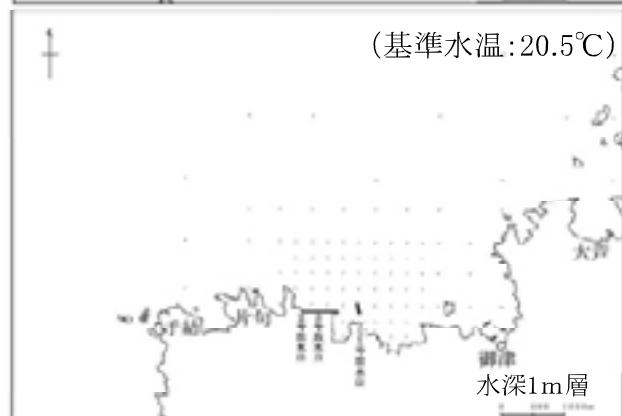
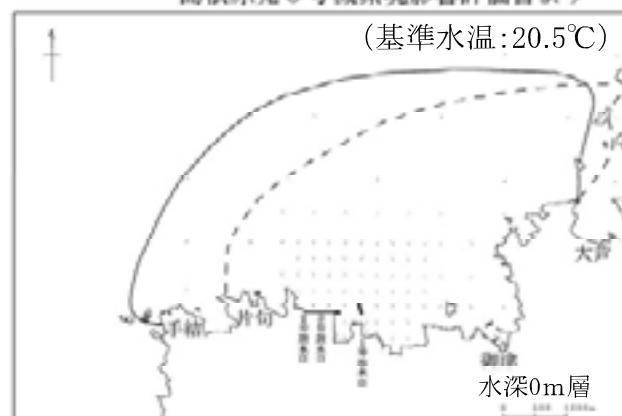
(第1四半期)

出力 (万kW)	1号機	-
	2号機	0
	3号機	0
放水量 (m <sup>3</sup> /s)	1号機	22
	2号機	2.4
	3号機	3
天候	曇	
気温 (℃)	17.6	
風向	南	
風速 (m/s)	3.0	
風浪	2	
水深	基準水温(℃)	
0m層	20.5	
1m層	20.5	
2m層	20.5	
3m層	20.5	
4m層	20.5	
5m層	20.5	

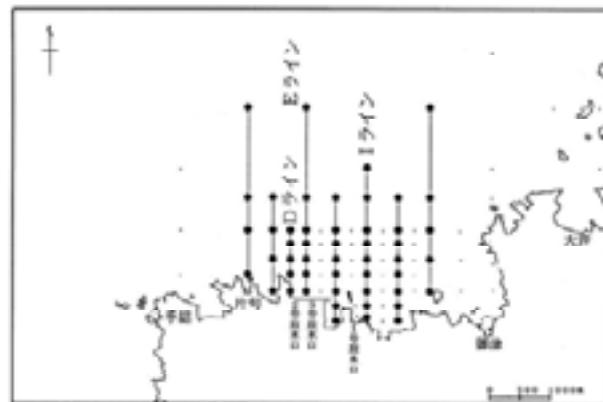
平成27年4月30日付で運転終了

(水温水平分布図)

※1°C上昇域予測包絡範囲の凡例  
—— 島根原発2号機修正環境影響調査書より  
--- 島根原発3号機環境影響評価書より



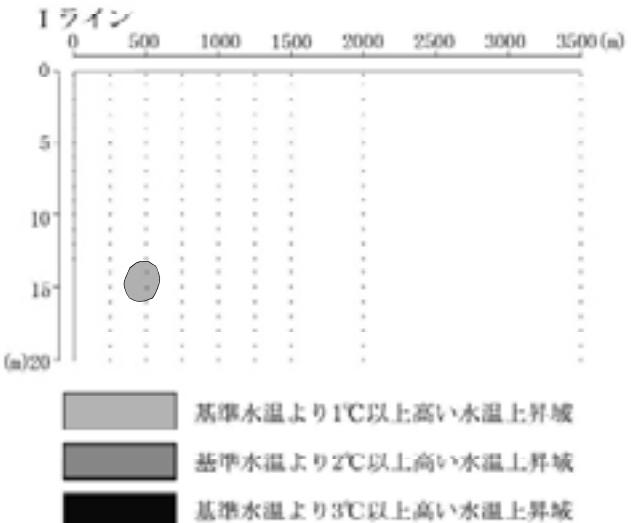
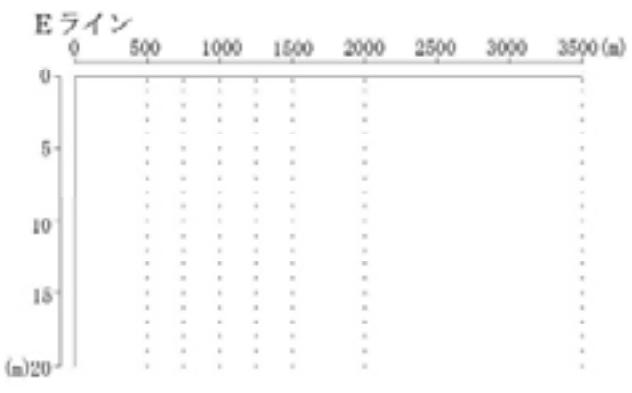
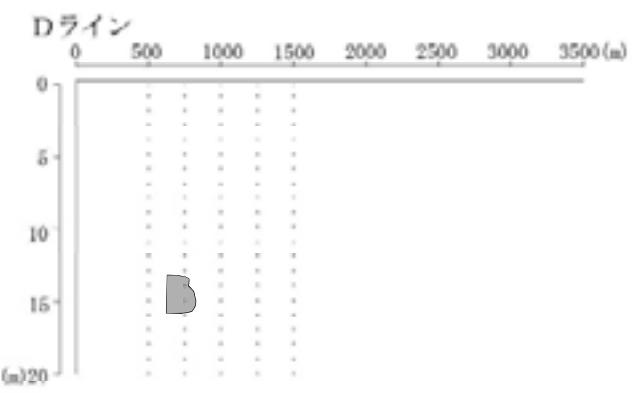
◎水深13～20m層以外では、基準水温より1°C以上高い水温上昇域は確認されなかった。



※基準水温

A2500、B3500、E3500、M3500、04500、P3500の6点の平均値

(水温鉛直分布図)



# 島根原子力発電所 格子状定線の水温水平・鉛直分布図（基準水温との温度差）

平成27年6月5日 第2回  
11時30分～13時06分

(第1四半期)

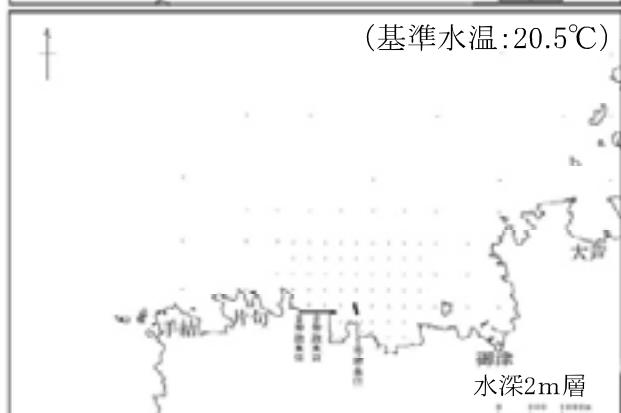
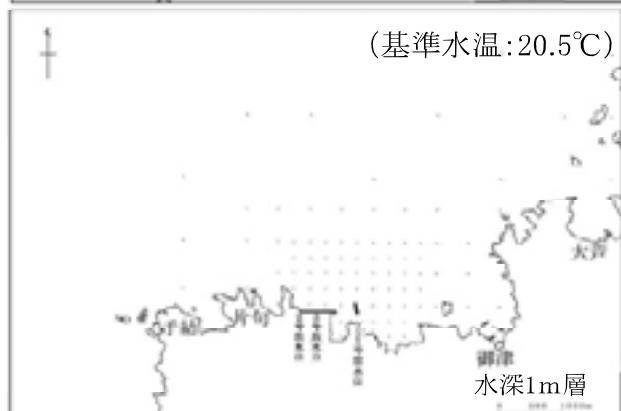
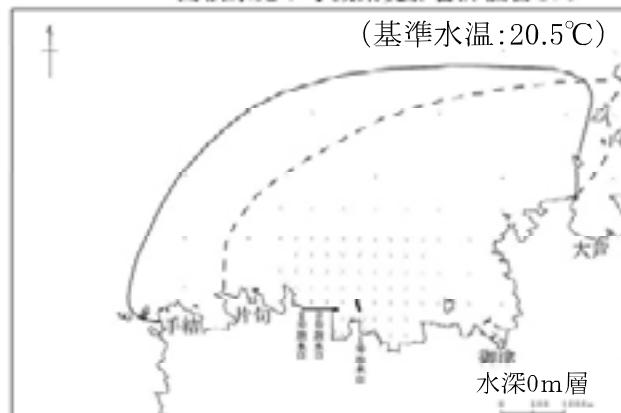
出力 (万kW)	1号機	-
	2号機	0
	3号機	0
放水量 (m <sup>3</sup> /s)	1号機	22
	2号機	2.4
	3号機	3
天候	雨	
気温 (℃)	18.1	
風向	南南西	
風速 (m/s)	1.2	
風浪	2	
水深	基準水温(℃)	
0m層	20.5	
1m層	20.5	
2m層	20.5	
3m層	20.5	
4m層	20.5	
5m層	20.5	

※平成27年4月30日付で運転終了

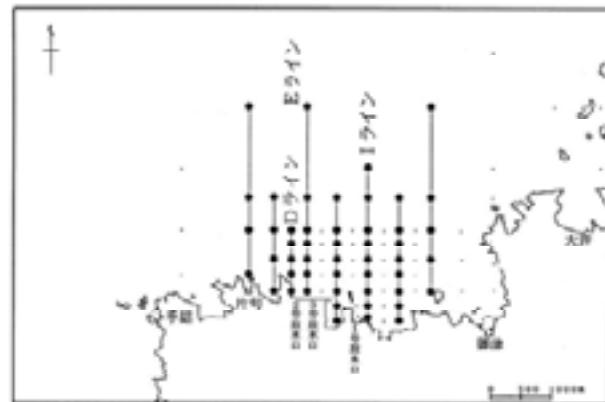
(水温水平分布図)

※1°C上昇域予測包絡範囲の凡例

—— 島根原発2号機修正環境影響調査書より  
---- 島根原発3号機環境影響評価書より



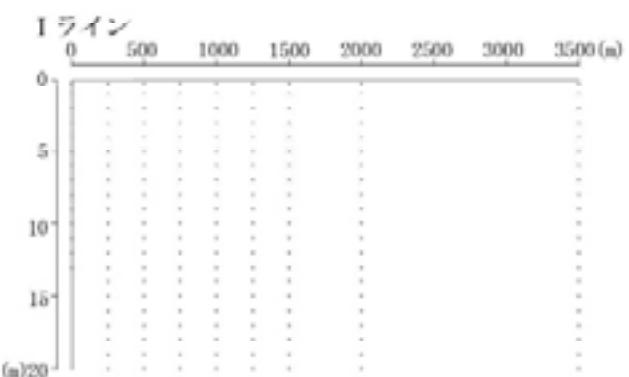
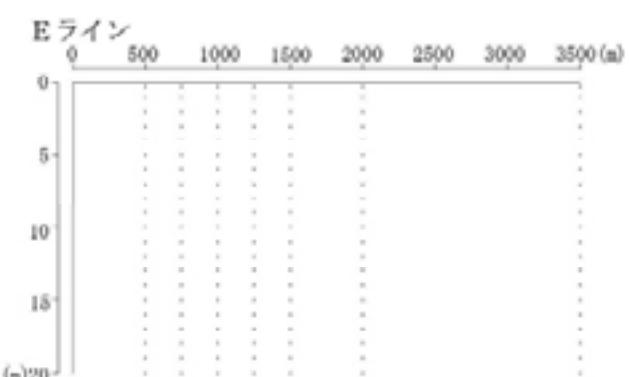
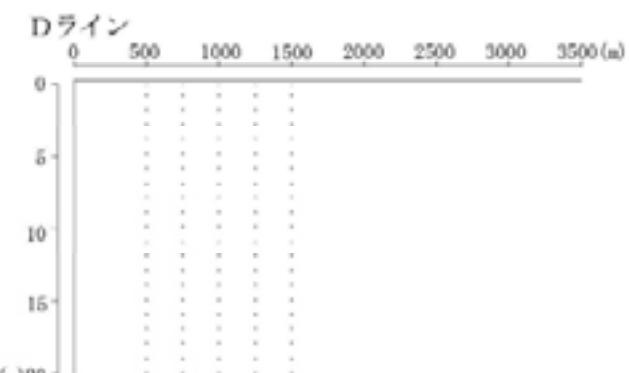
◎水深14、16m層以外では、基準水温より1°C以上高い水温上昇域は確認されなかった。



※基準水温

A2500、B3500、E3500、M3500、04500、P3500  
の6点の平均値

(水温鉛直分布図)



基準水温より1°C以上高い水温上昇域  
基準水温より2°C以上高い水温上昇域  
基準水温より3°C以上高い水温上昇域

# 島根原子力発電所 格子状定線の水温水平・鉛直分布図（基準水温との温度差）

平成27年9月2日 第1回  
9時30分～11時35分

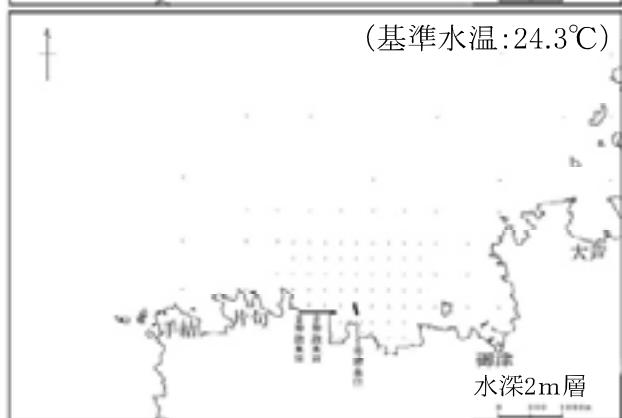
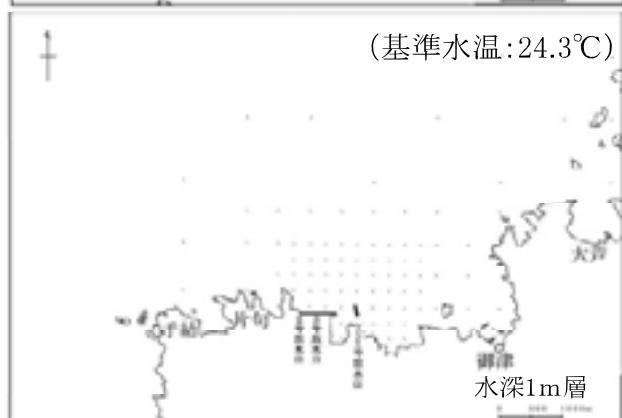
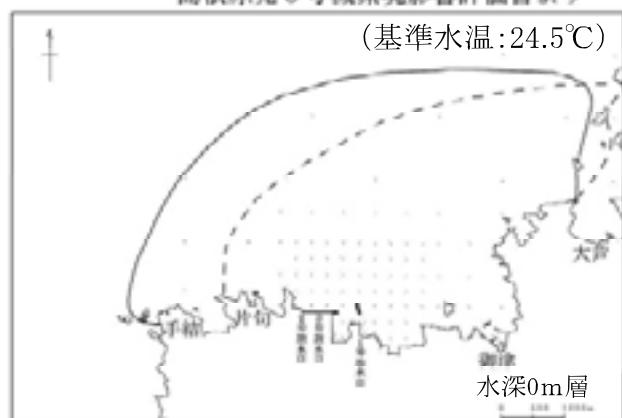
(第2四半期)

出力 (万kW)	1号機	-
	2号機	0
	3号機	0
放水量 (m <sup>3</sup> /s)	1号機	22
	2号機	2.4
	3号機	3
天候	晴	
気温 (℃)	24.9	
風向	北	
風速 (m/s)	1.5	
風浪	2	
水深	基準水温(℃)	
0m層	24.5	
1m層	24.3	
2m層	24.3	
3m層	24.2	
4m層	24.2	
5m層	24.2	

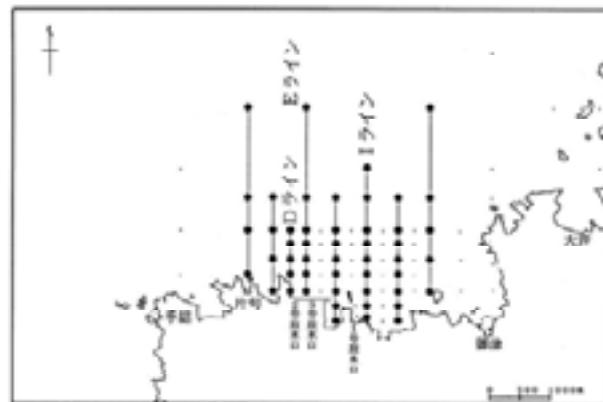
平成27年4月30日付で運転終了

(水温水平分布図)

※1°C上昇域予測包絡範囲の凡例  
—— 島根原発2号機修正環境影響調査書より  
--- 島根原発3号機環境影響評価書より



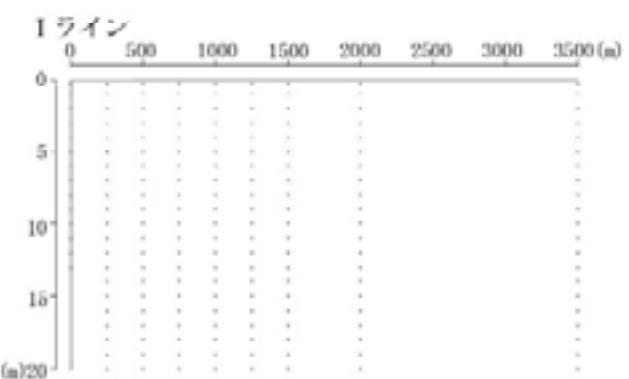
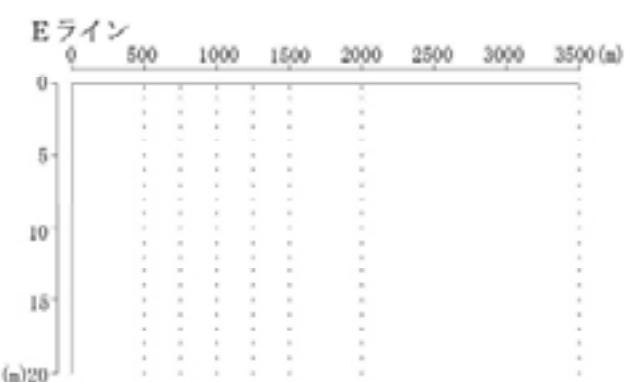
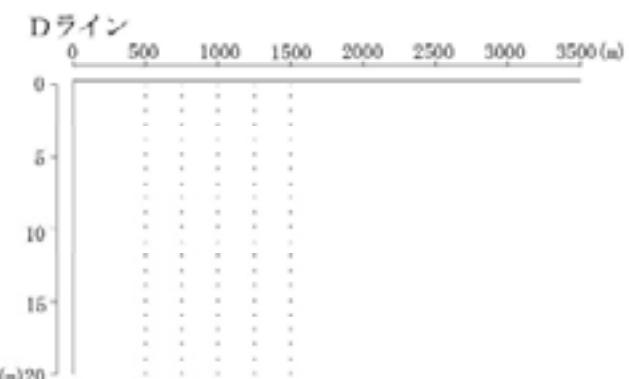
◎基準水温より1°C以上高い水温上昇域は確認されなかった。



※基準水温

A2500、B3500、E3500、M3500、04500、P3500  
の6点の平均値

(水温鉛直分布図)



■	基準水温より1°C以上高い水温上昇域
■	基準水温より2°C以上高い水温上昇域
■	基準水温より3°C以上高い水温上昇域

# 島根原子力発電所 格子状定線の水温水平・鉛直分布図（基準水温との温度差）

平成27年9月2日 第2回  
13時30分～15時16分

(第2四半期)

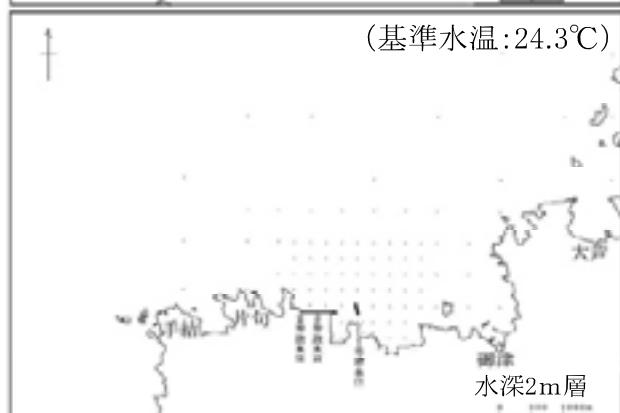
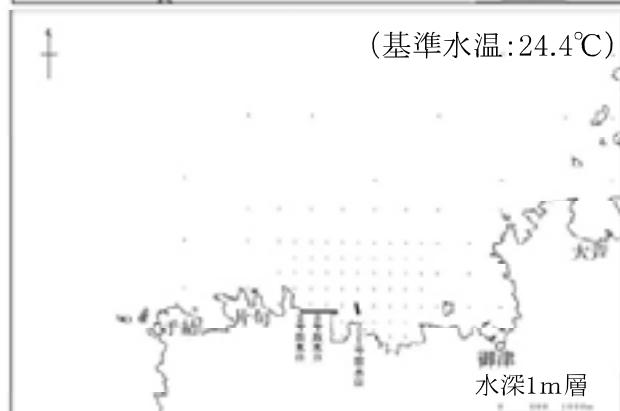
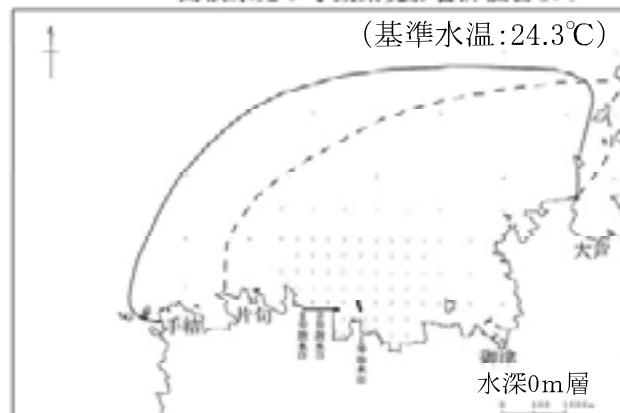
出力 (万kW)	1号機	-
	2号機	0
	3号機	0
放水量 (m <sup>3</sup> /s)	1号機	22
	2号機	2.4
	3号機	3
天候	晴	
気温 (℃)	25.6	
風向	北東	
風速 (m/s)	3.5	
風浪	2	
水深	基準水温(℃)	
0m層	24.3	
1m層	24.4	
2m層	24.3	
3m層	24.3	
4m層	24.3	
5m層	24.2	

※平成27年4月30日付で運転終了

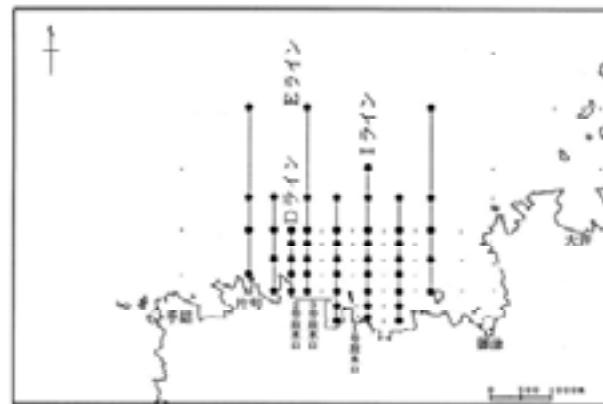
(水温水平分布図)

※1°C上昇域予測包絡範囲の凡例

—— 島根原発2号機修正環境影響調査書より  
---- 島根原発3号機環境影響評価書より



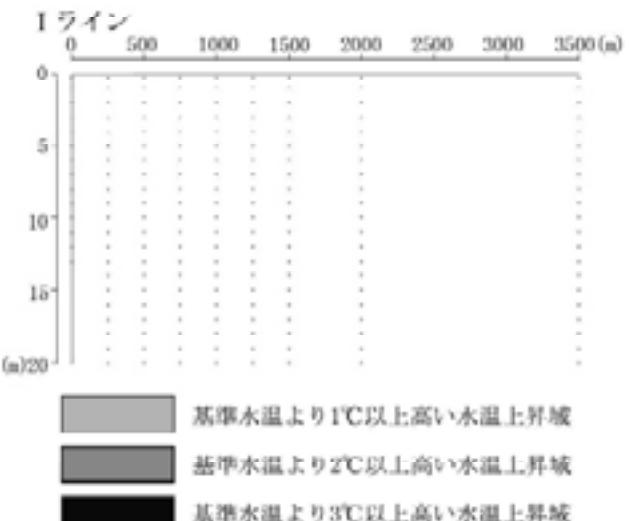
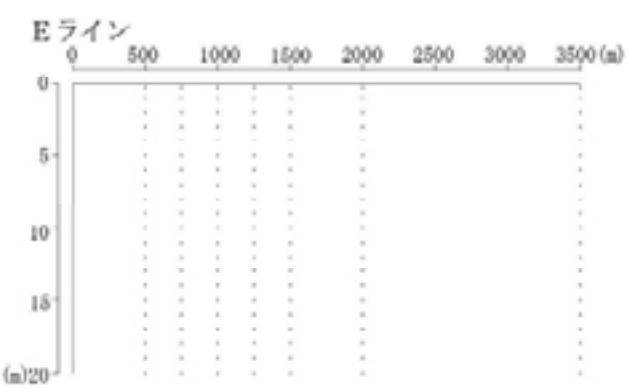
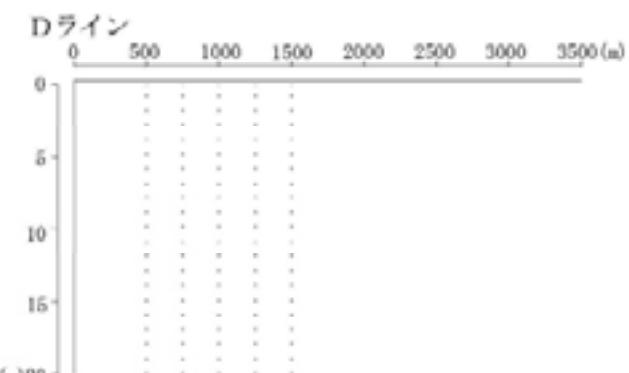
◎基準水温より1°C以上高い水温上昇域は確認されなかった。



※基準水温

A2500、B3500、E3500、M3500、04500、P3500  
の6点の平均値

(水温鉛直分布図)



# 島根原子力発電所 格子状定線の水温水平・鉛直分布図（基準水温との温度差）

平成27年11月20日 第1回  
9時30分～11時29分

(第3四半期)

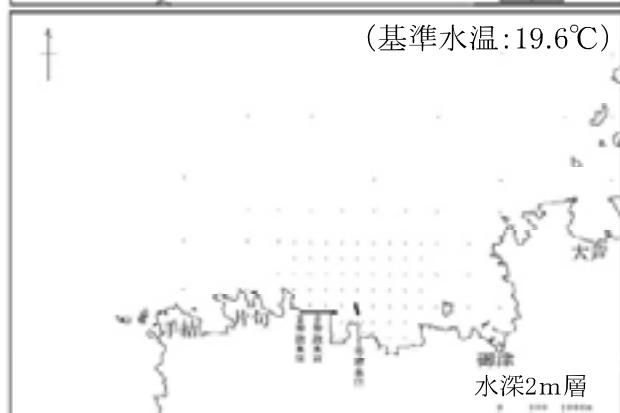
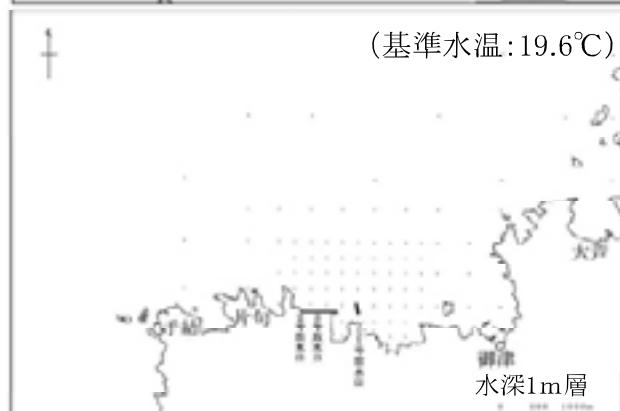
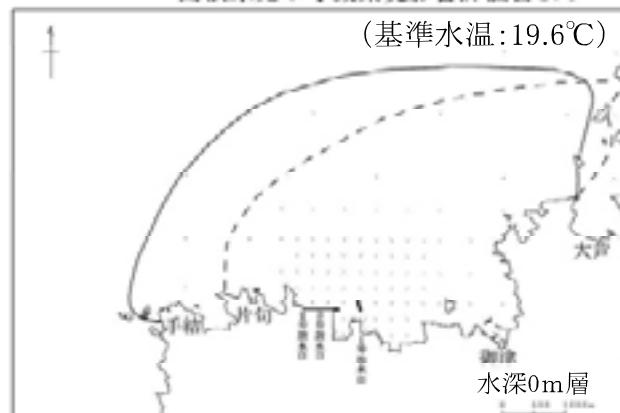
出力 (万kW)	1号機	-
	2号機	0
	3号機	0
取水量 (m <sup>3</sup> /s)	1号機	22
	2号機	2.4
	3号機	3
天候	曇	
気温 (℃)	15.0	
風向	南	
風速 (m/s)	3.2	
風浪	2	
水深	基準水温(℃)	
0m層	19.6	
1m層	19.6	
2m層	19.6	
3m層	19.6	
4m層	19.6	
5m層	19.6	

※平成27年4月30日付で運転終了

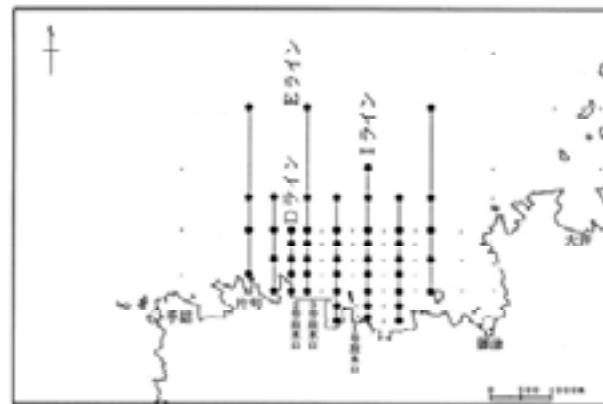
(水温水平分布図)

※1°C上昇域予測包絡範囲の凡例

—— 島根原発2号機修正環境影響調査書より  
---- 島根原発3号機環境影響評価書より



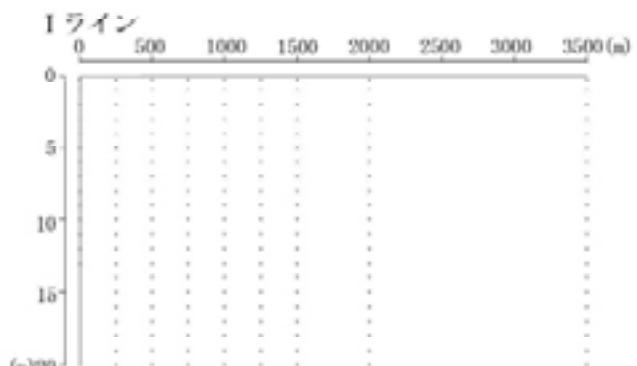
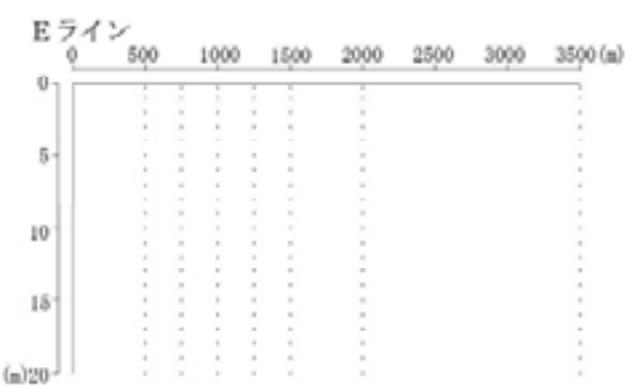
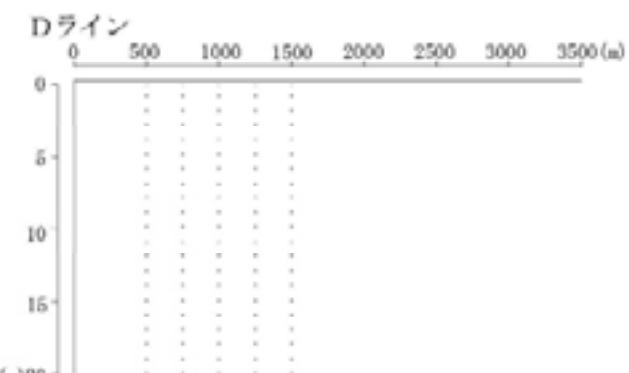
◎基準水温より1°C以上高い水温上昇域は確認されなかった。



※基準水温

A2500、B3500、E3500、M3500、04500、P3500  
の6点の平均値

(水温鉛直分布図)



- 基準水温より1°C以上高い水温上昇域
- 基準水温より2°C以上高い水温上昇域
- 基準水温より3°C以上高い水温上昇域

# 島根原子力発電所 格子状定線の水温水平・鉛直分布図（基準水温との温度差）

平成27年11月20日 第2回  
12時00分～13時57分

(第3四半期)

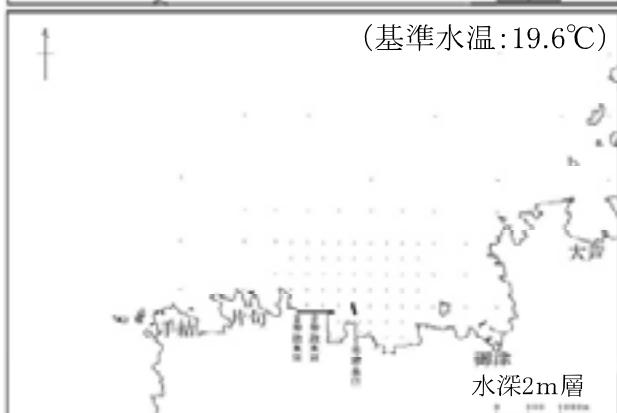
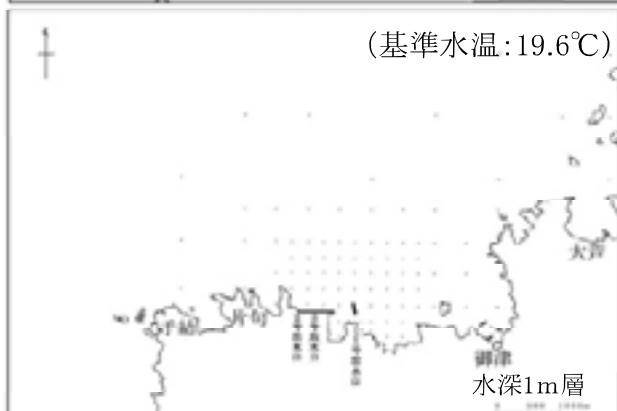
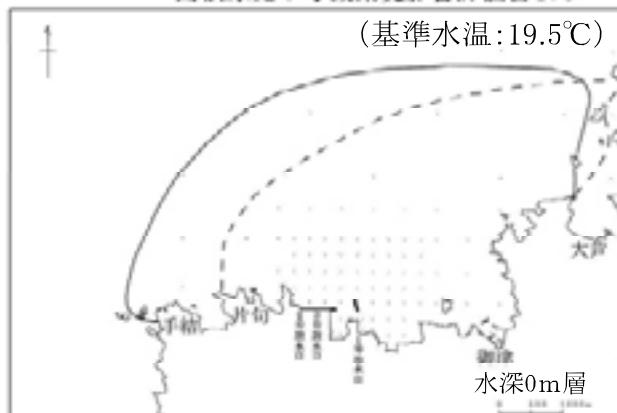
出力 (万kW)	1号機	-*
	2号機	0
	3号機	0
放水量 (m <sup>3</sup> /s)	1号機	22
	2号機	2.4
	3号機	3
天候	曇	
気温 (℃)	16.8	
風向	西	
風速 (m/s)	1.2	
風浪	1	
水深	基準水温(℃)	
0m層	19.5	
1m層	19.6	
2m層	19.6	
3m層	19.7	
4m層	19.6	
5m層	19.6	

※平成27年4月30日付で運転終了

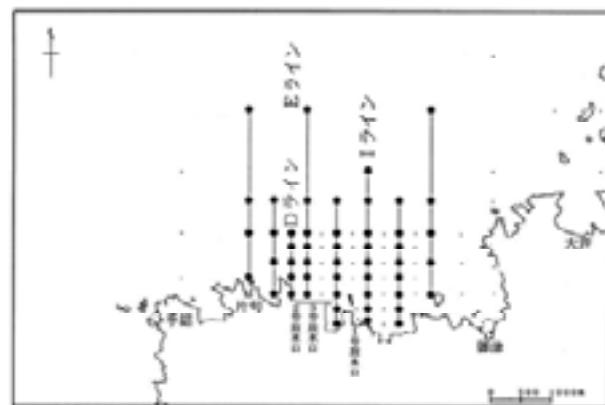
(水温水平分布図)

※1°C上昇域予測包絡範囲の凡例

—— 島根原発2号機修正環境影響調査書より  
---- 島根原発3号機環境影響評価書より



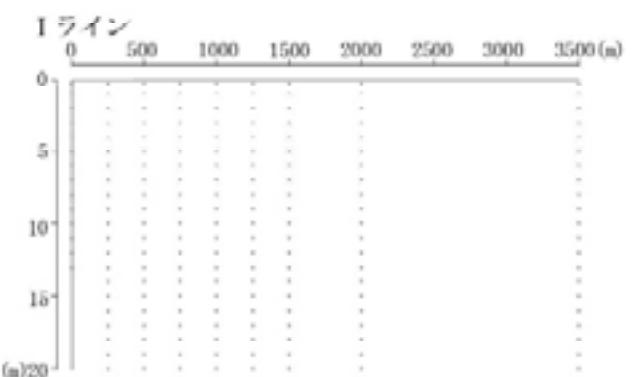
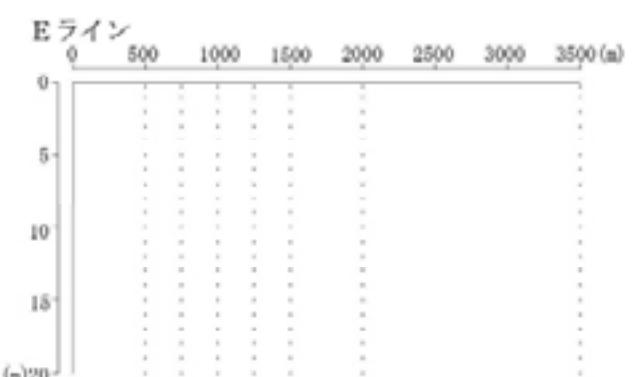
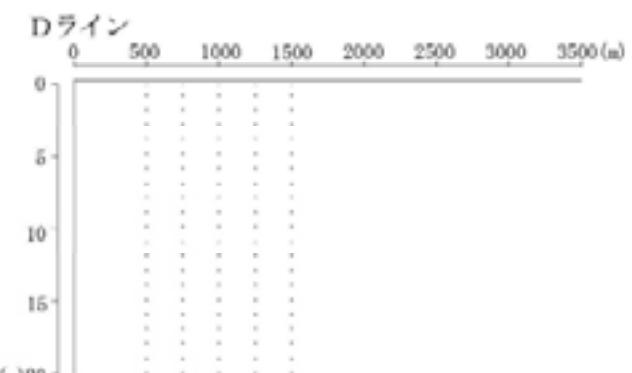
◎基準水温より1°C以上高い水温上昇域は確認されなかった。



※基準水温

A2500、B3500、E3500、M3500、04500、P3500  
の6点の平均値

(水温鉛直分布図)



■ 基準水温より1°C以上高い水温上昇域  
■■ 基準水温より2°C以上高い水温上昇域  
■■■ 基準水温より3°C以上高い水温上昇域

# 島根原子力発電所 格子状定線の水温水平・鉛直分布図（基準水温との温度差）

平成28年3月23日 第1回  
10時30分～12時05分

(第4四半期)

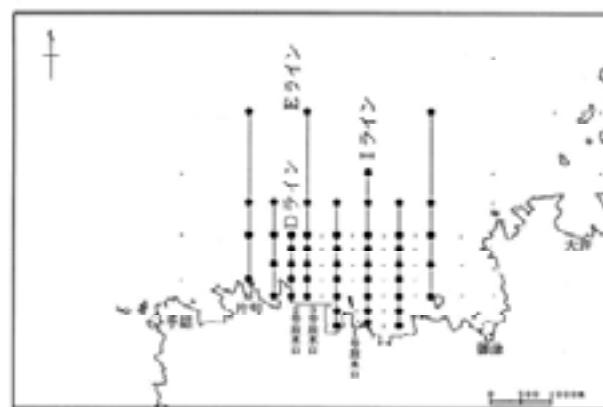
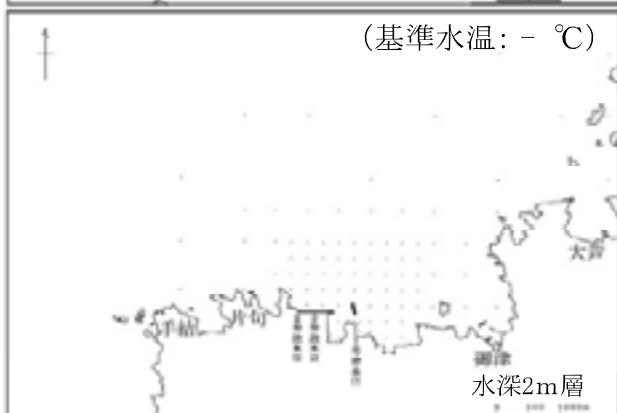
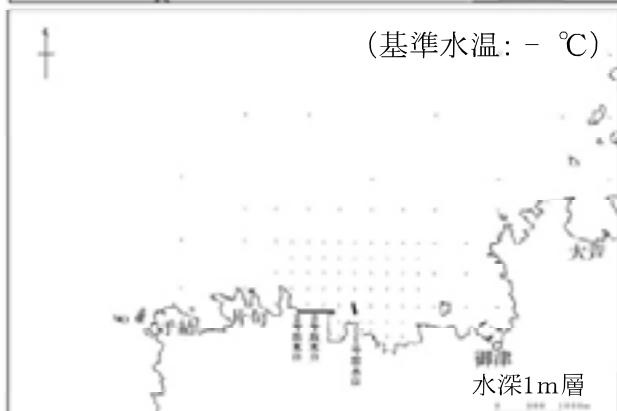
出力 (万kW)	1号機	-*
	2号機	0
	3号機	0
放水量 (m <sup>3</sup> /s)	1号機	22
	2号機	2.4
	3号機	3
天候	晴	
気温 (℃)	12.1	
風向	北東	
風速 (m/s)	5.5	
風浪	3	
水深	基準水温(℃)	
0m層	-	
1m層	-	
2m層	-	
3m層	-	
4m層	-	
5m層	-	

※平成27年4月30日付で運転終了

(水温水平分布図)

※1°C上昇域予測包絡範囲の凡例

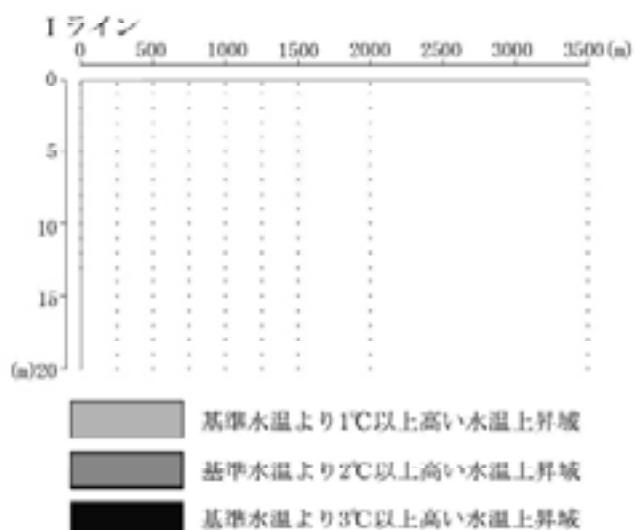
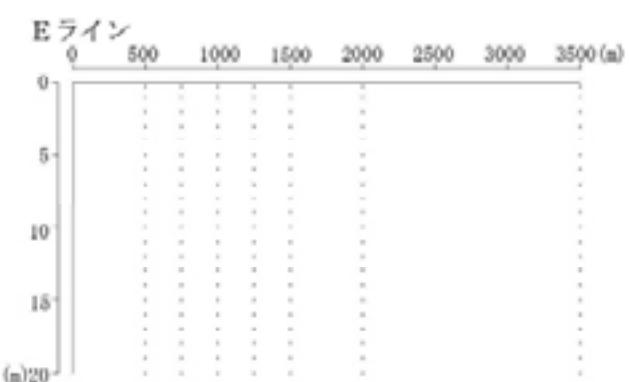
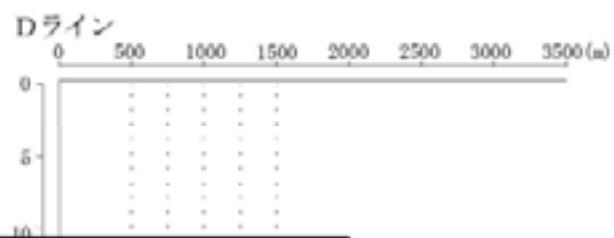
—— 島根原発2号機修正環境影響調査書より  
---- 島根原発3号機環境影響評価書より



※基準水温

A2500、B3500、E3500、M3500、04500、P3500  
の6点の平均値

(水温鉛直分布図)



# 島根原子力発電所 格子状定線の水温水平・鉛直分布図（基準水温との温度差）

平成28年3月23日 第2回  
一時一分～一時一分

(第4四半期)

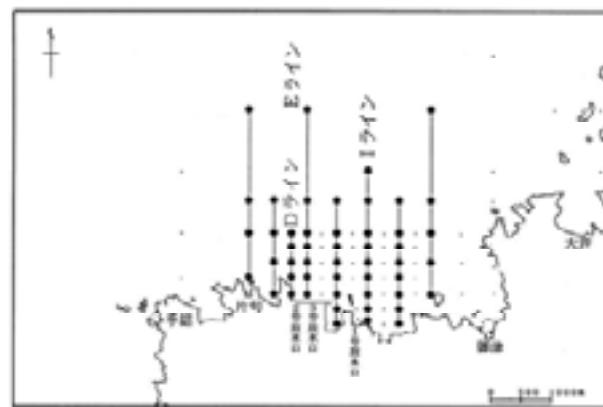
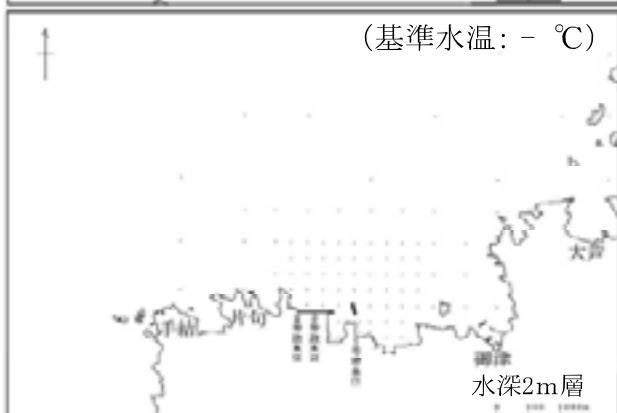
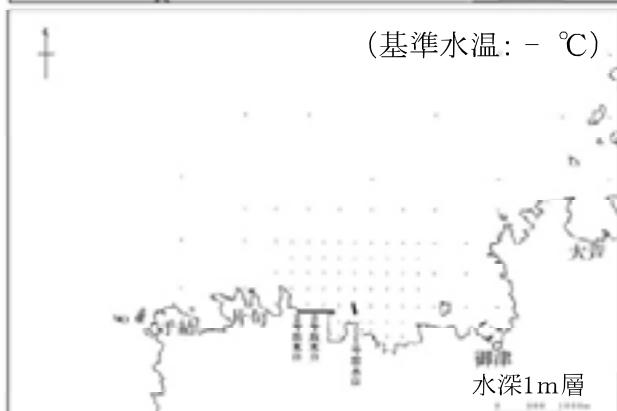
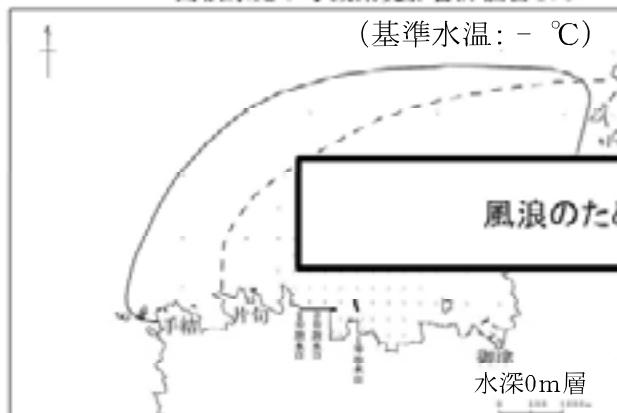
出力 (万kW)	1号機	-
	2号機	-
	3号機	-
放水量 (m <sup>3</sup> /s)	1号機	-
	2号機	-
	3号機	-
天候		-
気温 (℃)		-
風向		-
風速 (m/s)		-
風浪		-
水深	基準水温(℃)	
0m層		-
1m層		-
2m層		-
3m層		-
4m層		-
5m層		-

※平成27年4月30日付で運転終了

(水温水平分布図)

※1°C上昇域予測包絡範囲の凡例

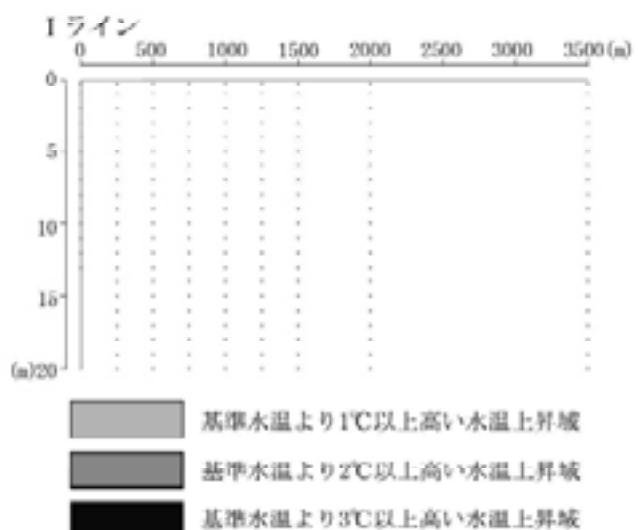
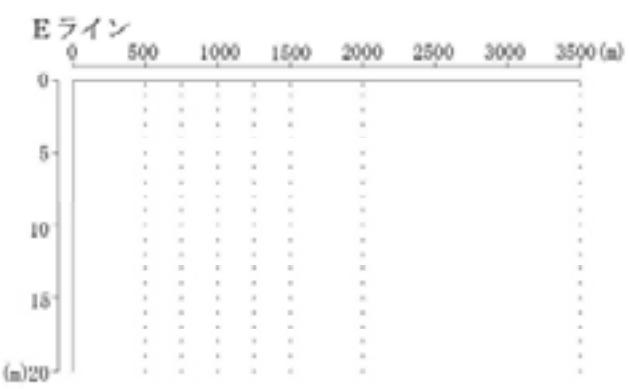
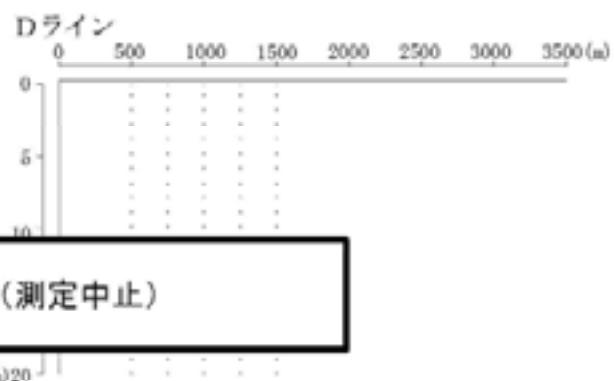
—— 島根原発2号機修正環境影響調査書より  
---- 島根原発3号機環境影響評価書より



※基準水温

A2500、B3500、E3500、M3500、04500、P3500  
の6点の平均値

(水温鉛直分布図)



### (3) 沿岸定点

#### a. 水温測定結果 (10時データ、1m層)

表中の■部分についての各測定点の水温は、過去10ヶ年の同月水温の観測範囲（最低～最高）から外れていたが、それ以外の各測定点の水温は、過去10ヶ年の同月水温の観測範囲（最低～最高）に収まるものであった。

#### 【第1四半期】

単位：℃

	4月		5月		6月	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
放水口沖 (1号)	14.5 (13.9～19.4)	13.6 (12.3～15.4)	18.2 (16.8～20.3)	17.7 (14.8～19.2)	21.1 (20.5～23.6)	19.6 (16.6～21.2)
1号機放水口	15.8 (14.2～26.2)	13.4 (12.6～24.5)	19.4 (17.7～29.0)	15.6 (14.2～25.0)	21.1 (20.8～29.9)	18.1 (16.4～26.6)
2号機放水口	17.0 (15.7～22.9)	14.2 (13.7～21.4)	20.5 (17.5～25.0)	16.7 (14.7～22.7)	22.2 (21.3～30.3)	19.9 (17.7～24.7)
3号機放水口	16.6 (16.0)	14.0 (13.7)	20.4 (20.8)	16.2 (16.1)	22.2 (24.1)	19.2 (20.1)
輪谷湾	16.2 (14.2～17.0)	13.3 (12.4～14.7)	20.3 (17.8～20.6)	16.4 (14.2～16.7)	21.8 (21.3～24.3)	19.2 (16.7～19.6)
片句	16.8 (14.0～17.0)	13.2 (12.2～14.2)	20.1 (17.7～20.7)	16.3 (14.1～16.4)	21.8 (20.8～23.8)	19.3 (16.4～19.6)
御津	16.9 (14.2～16.7)	13.3 (11.9～14.5)	20.6 (18.3～20.8)	16.8 (14.4～16.9)	22.3 (21.0～24.1)	19.3 (16.8～19.7)

#### 【第2四半期】

単位：℃

	7月		8月		9月	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
放水口沖 (1号)	22.0 (24.3～29.6)	21.3 (21.9～25.3)	27.3 (25.9～30.8)	26.1 (22.2～28.0)	23.8 (24.7～29.9)	23.1 (21.8～28.2)
1号機放水口	24.4 (25.8～36.5)	19.5 (20.3～29.9)	27.3 (26.2～36.7)	21.8 (21.7～31.0)	24.4 (24.9～35.9)	22.3 (21.3～32.0)
2号機放水口	25.1 (27.0～35.5)	21.0 (20.0～28.8)	28.3 (27.2～35.7)	23.1 (22.7～29.8)	25.1 (25.5～35.1)	23.1 (23.4～31.1)
3号機放水口	25.4 (29.3)	20.9 (23.5)	28.5 (31.4)	22.4 (29.2)	25.4 (30.6)	23.0 (25.0)
輪谷湾	24.7 (24.8～29.3)	20.9 (20.9～23.7)	27.8 (26.1～30.5)	22.1 (21.6～27.6)	24.5 (25.1～29.4)	22.5 (19.5～25.0)
片句	25.0 (24.8～28.8)	19.9 (20.1～22.5)	27.6 (26.1～30.3)	22.5 (21.8～27.2)	24.4 (24.2～29.4)	22.5 (19.1～24.4)
御津	25.1 (25.2～29.5)	20.8 (20.4～23.7)	28.1 (26.2～30.6)	22.3 (22.1～27.6)	24.6 (25.0～29.7)	22.5 (19.0～24.9)

#### 【第3四半期】

単位：℃

	10月		11月		12月	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
放水口沖 (1号)	22.4 (22.5～28.1)	21.7 (20.6～23.9)	20.3 (19.4～23.0)	18.6 (18.7～21.9)	18.3 (17.5～20.3)	16.6 (15.2～18.8)
1号機放水口	22.6 (23.2～32.4)	20.2 (19.3～29.8)	20.3 (20.4～29.6)	18.1 (17.8～26.7)	18.3 (17.6～29.5)	15.7 (14.0～25.9)
2号機放水口	23.5 (24.3～31.5)	21.5 (19.9～28.6)	21.5 (19.8～28.7)	19.0 (18.0～26.4)	19.0 (18.6～26.2)	16.1 (14.6～22.9)
3号機放水口	23.3 (25.7)	20.7 (22.0)	20.8 (22.5)	18.7 (19.7)	18.7 (19.4)	16.1 (16.5)
輪谷湾	22.6 (22.2～26.1)	20.2 (19.5～22.2)	20.3 (19.8～22.0)	18.1 (17.5～19.7)	18.2 (17.3～19.7)	15.6 (13.9～16.2)
片句	22.4 (21.9～24.8)	20.1 (19.1～21.5)	20.3 (19.6～21.8)	18.0 (17.4～19.1)	18.1 (17.1～19.3)	15.2 (13.5～15.8)
御津	22.5 (22.0～25.0)	19.8 (19.1～21.5)	20.2 (19.2～21.9)	16.9 (16.1～18.2)	17.6 (16.9～18.7)	14.6 (12.3～15.0)

## 【第4四半期】

単位 : ℃

	1月		2月		3月	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
放水口沖 (1号)	15.5 (13.8~17.2)	14.2 (12.5~15.2)	13.6 (12.3~16.9)	12.9 (10.5~13.8)	13.4 (12.2~17.2)	12.7 (11.5~15.2)
1号機放水口	15.6 (14.2~25.5)	13.2 (12.2~23.4)	13.7 (13.0~23.7)	12.5 (10.4~23.0)	13.7 (13.1~24.6)	12.2 (10.8~23.1)
2号機放水口	16.1 (14.9~22.9)	13.6 (12.9~20.9)	14.7 (13.5~21.1)	13.1 (11.0~20.6)	14.7 (13.8~21.4)	13.3 (11.5~20.4)
3号機放水口	16.0 (16.4)	13.6 (13.5)	14.0 (14.0)	13.0 (12.2)	14.3 (13.9)	12.8 (12.5)
輪谷湾	15.5 (14.0~16.3)	13.1 (12.0~14.3)	13.7 (12.5~14.6)	12.4 (10.4~13.9)	13.8 (12.8~14.9)	12.1 (10.8~13.7)
片句	※ 15.4 (13.4~15.8)	※ 13.1 (11.6~13.7)	13.6 (11.9~14.0)	12.3 (10.2~13.5)	13.7 (12.5~14.3)	12.3 (10.8~13.2)
御津	14.8 (13.0~15.1)	11.4 (10.1~12.9)	13.6 (11.9~14.0)	11.2 (9.2~11.8)	14.1 (12.7~14.9)	10.7 (9.6~12.4)

※ 1月19日については、荒天による停電に伴い欠測

- 注) 1. 放水口沖(1号)の水温は、月3回(上旬、中旬、下旬)の測定値  
 2. 3号機放水口を除く表中( )内は、過去10ヶ年の同月水温の観測範囲(最低～最高)  
 3. 表中 ■ 部分は、過去10ヶ年の同月水温の観測範囲(最低～最高)から外れたもの  
 4. 3号機放水口の表中( )内は、前年度の同月水温

## b. 取水－放水温度差(温度上昇)

## 【第1四半期】

単位 : ℃

	4月	5月	6月
1号機	0.0~0.4	0.0~0.2	0.0~0.1
2号機	0.6~1.6	0.6~2.0	0.7~2.4
3号機(建設中)	0.4~1.0	0.2~1.8	0.0~2.0

注) 1号機放水量は 4月1日～6月30日  $22 \text{ m}^3/\text{s}$ 2号機放水量は 4月1日～6月30日  $2.4 \text{ m}^3/\text{s}$ 3号機放水量は 4月1日～6月30日  $3 \text{ m}^3/\text{s}$ 

(燃料装荷前の検査段階で温排水の放出はなし)

## 【第2四半期】

単位 : ℃

	7月	8月	9月
1号機	0.0~0.2	0.0~0.3	0.0~0.2
2号機	0.2~2.6	0.1~2.5	0.3~2.5
3号機(建設中)	0.1~2.1	0.2~2.8	0.4~1.5

注) 1号機放水量は 7月1日～9月30日  $22 \text{ m}^3/\text{s}$ 2号機放水量は 7月1日～9月30日  $2.4 \text{ m}^3/\text{s}$ 3号機放水量は 7月1日～9月30日  $3 \text{ m}^3/\text{s}$ 

(燃料装荷前の検査段階で温排水の放出はなし)

## 【第3四半期】

単位 : °C

	10月	11月	12月
1号機	0.0～0.1	0.0～0.1	0.0～0.1
2号機	0.7～1.8	0.7～1.9	0.0～1.3
3号機(建設中)	0.3～0.9	0.4～0.8	0.3～0.8

注) 1号機放水量は 10月1日～12月31日  $22 \text{ m}^3/\text{s}$

2号機放水量は 10月1日～12月31日  $2.4 \text{ m}^3/\text{s}$

3号機放水量は 10月1日～12月31日  $3 \text{ m}^3/\text{s}$

(燃料装荷前の検査段階で温排水の放出はなし)

## 【第4四半期】

単位 : °C

	1月	2月	3月
1号機	0.0～0.1	0.0～0.1	0.0～0.4
2号機	0.0～1.5	0.0～1.7	0.0～1.8
3号機(建設中)	0.0～0.7	0.3～0.7	0.0～0.8

注) 1号機放水量は 1月1日～3月4日  $22 \text{ m}^3/\text{s}$

3月5日～3月11日  $1 \text{ m}^3/\text{s}$

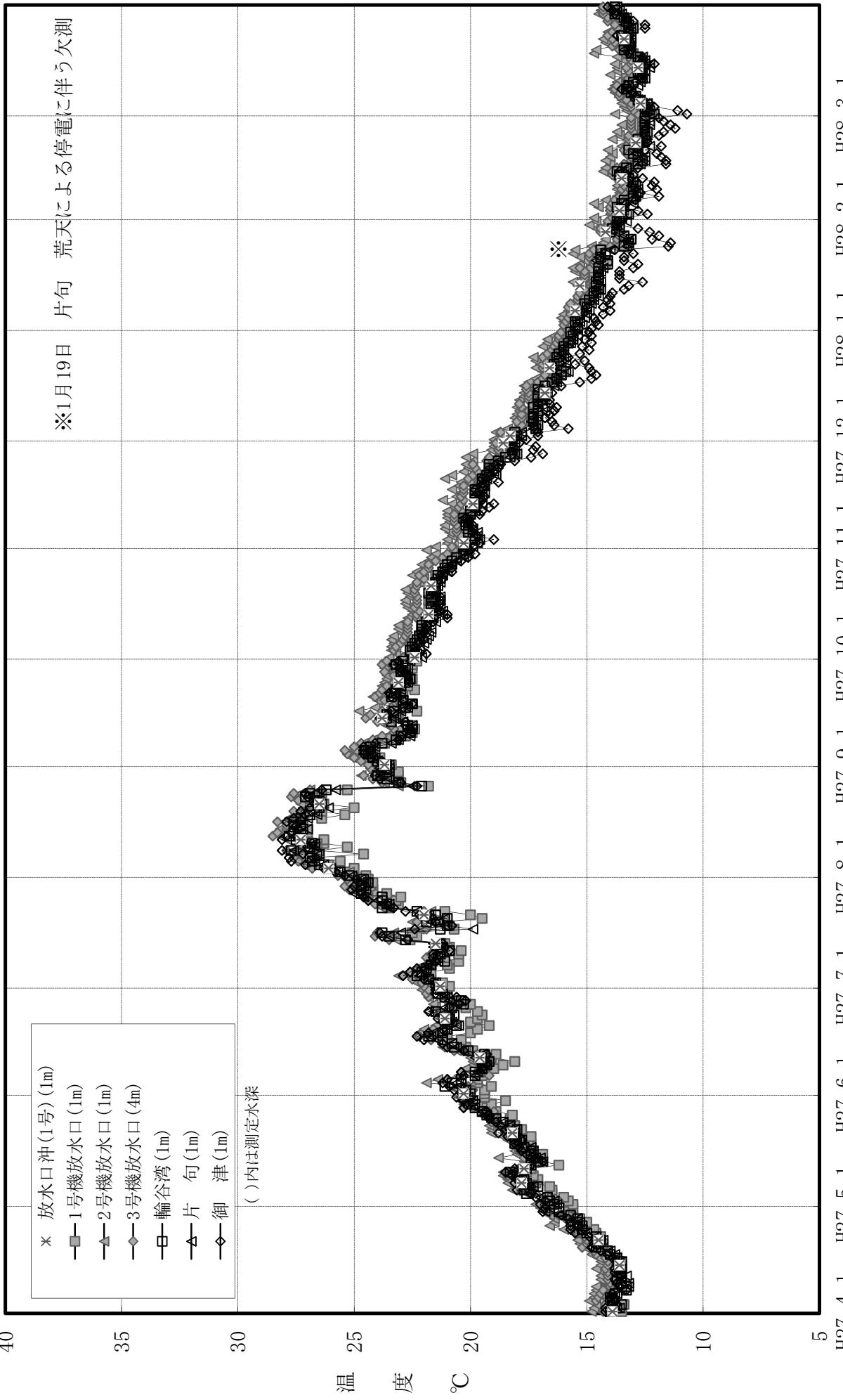
3月12日～3月31日  $22 \text{ m}^3/\text{s}$

2号機放水量は 1月1日～3月31日  $2.4 \text{ m}^3/\text{s}$

3号機放水量は 1月1日～3月31日  $3 \text{ m}^3/\text{s}$

(燃料装荷前の検査段階で温排水の放出はなし)

## 島根原子力発電所 沿岸定点の水温推移（平成27年度）



#### (4) 水色

第1～4四半期を通じて水色は全て過去（10ヶ年）の観測範囲内であった。

また、内湾等を除く日本近海の水色分布の範囲（水色2～6）内であった。

	定点7	定点9	定点10	定点17	定点18	過去10ヶ年の観測範囲
	2号機放 水口沖北 1,000m	取水口	1号機 放水口前	1号機放 水口沖北 4,500m	1号機放 水口沖北 2,500m	
第1四半期 平成27年5月28日	5	欠測	5	4	5	2～5
第2四半期 平成27年8月20日	3	3	3	2	3	2～6
第3四半期 平成27年10月15日	3	3	3	3	3	2～5
第4四半期 平成28年3月4日	3	4	4	3	3	2～5

水色について：測定に使用しているフォーレルの水色計では水色は1から11まであり、  
 1は澄んだ海を表す青色で数字が大きくなるほど濁った海水を表す黄色  
 がかかった色になる。

### III. 參 考 資 料



## 1. 島根原子力発電所敷地内におけるモニタリングポスト測定結果

単位 : 【 nGy/h 】

区 分	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6
4月	平均値	22	27	35	24	32
	最大値	40	44	55	45	53
5月	平均値	22	27	35	25	33
	最大値	46	47	62	48	57
6月	平均値	23	28	36	25	33
	最大値	56	56	70	61	66
7月	平均値	21	27	35	24	32
	最大値	53	54	70	57	66
8月	平均値	22	28	36	25	33
	最大値	45	48	72	58	60
9月	平均値	21	28	35	25	33
	最大値	42	46	57	45	54
10月	平均値	21	28	35	25	33
	最大値	52	57	66	61	66
11月	平均値	22	29	36	26	34
	最大値	49	61	70	57	62
12月	平均値	21	28	35	26	34
	最大値	56	58	71	64	69
1月	平均値	21	28	35	25	34
	最大値	45	55	60	48	67
2月	平均値	23	29	38	27	36
	最大値	63	52	85	77	76
3月	平均値	21	28	32	23	31
	最大値	32	38	45	35	42
前年度までのデータ	月平均値の範囲	19~25	23~30	30~40	21~26	28~33
	2分値の最大値	84	86	115	105	130
						26~31

- (注) 1. 測定者 中国電力  
 2. 測定方法 3"φ球形NaI(Tl)シンチレーション検出器(エネルギー補償型)を使用し、  
 50keV~3MeVのエネルギー範囲で測定した。  
 3. 平成13年4月から2分値を測定値としている。  
 このため、「前年度までのデータ」は、平成13年4月~26年3月の2分値について記載した。

## 2. 蛍光ガラス線量計 (RPLD) 測定値に関する資料

単位 : 【 mGy/90 日】

地點名	過去 5 年間 [ 平成 23 年度(2011)~平成 27 年度(2015) ]			備考
	平均値	最小~最大	左欄最大値発生時期	
一矢	0.15	0.14~0.16	11-II	
佐陀本郷	0.13	0.12~0.13	11-I・II・III・IV、12-I・II・III・IV、13-I・II・III・IV、14-II・III・IV、15-I・II・III・IV	
深田	0.12	0.11~0.12	11-II・III・IV、12-I・II・III・IV、13-I・II・III・IV、14-II・III・IV、15-I・II・III・IV	
片句	0.15	0.12~0.17	11-II	
御津	0.15	0.14~0.15	11-I・II・III・IV、12-I・II・III・IV、13-I・II・III・IV、14-II、15-I	
旦過	0.13	0.13~0.13	11-I・II・III・IV、12-I・II・III・IV、13-I・II・III・IV、14-I・II・III・IV、15-I・II・III・IV	
古浦	0.14	0.13~0.15	11-III	
恵曇	0.12	0.12~0.13	11-II、14-II	
手結	0.11	0.10~0.11	11-II・III・IV、12-I・II・III・IV、13-I・II・III・IV、14-II・III・IV、15-I・II・III・IV	
上講武	0.15	0.14~0.16	11-II・IV、12-I・II・III	
南講武	0.12	0.12~0.13	11-II・III、13-IV	
佐陀宮内	0.15	0.15~0.15	11-I・II・III・IV、12-I・II・III・IV、13-I・II・III・IV、14-I・II・III・IV、15-I・II・III・IV	
大芦	0.14	0.14~0.15	11-II、15-II	
加賀	0.13	0.12~0.13	11-I・II・III・IV、12-I・II・III・IV、13-I・II・IV、14-II・III・IV、15-II・III・IV	
西生馬	0.15	0.15~0.16	11-II・IV、12-I・II・III・IV、13-II・IV、14-II	
西川津	0.14	0.13~0.14	11-II・III・IV、12-I・II・III・IV、13-II・III・IV、14-I・II・III、15-II・III	

(注) I. II. III. IVは各年度の第1、第2、第3、第4四半期を表す。

### 3. モニタリングポスト測定値基本資料

単位：【 nGy/h 】

地 点 名	平成 27 年度			測定開始～平成 27 年度 (2015)			
	年平均値	月 平 均 値 最小～最大	平常の変動幅 (上限)	2 分 値 の 最 大 値	左欄の値の 発 生 時 刻	検 出 器 等 仕 様	現用検出器 使 用 開 始
西 浜 佐 陀	48	47～50	(注3)	163.6	00.1.31 18:30	3Z	11.3
御 津	33	32～34	(注3)	129.4	90.12.11 11:12	3Z1	06.12
古 浦	30	29～31	(注3)	110.9	11.1.1 03:00	3Z1	06.12
深 田 北	21	20～22	(注4)	106.3	01.11.18 03:04	3Z1	08.3
片 句	27	26～28	(注4)	112.2	90.12.11 11:14	3Z1	08.3
北 講 武	29	28～30	(注4)	114.0	90.12.11 11:56	3Z1	08.3
佐 陀 本 郷	32	31～33	64	125.9	09.1.10 18:12	3Z2	94.4
末 次	35	34～36	60	99.0	99.12.26 06:16	3Z2	96.2
大 芦	38	37～39	72	127.3	90.12.11 11:08	3Z2	95.2
上 講 武	39	37～40	76	119.6	09.1.10 18:20	3Z2	08.1
手 結	44	43～45	72	111.1	01.11.18 02:44	3Z2	08.1

- (注) 1. モニタリングポストの「平常の変動幅」は、各測定地点における前年度までの 5 年間の全データから求めた累積相対度数分布の(平均値±標準偏差×3)相当の範囲とする。
2. 仕様 3Z1:3"  $\phi$ -NaI : Tl, 軸方向天頂(結晶中心地上高 3.8m, コンクリート建屋上) 温度・エチギー補償型  
 仕様 3Z2: " , " ( " 2.9m, 鋼板建屋上) 温度・エチギー補償型  
 仕様 3Z : " , " ( " 1.5m, 露場) 温度・エチギー補償型
3. 平成 26 年度に局舎の移設・更新をしたため「平常の変動幅」は未設定である。
4. 平成 25 年度に局舎の移設・更新をしたため「平常の変動幅」は未設定である。

単位：【 nGy/h 】

地 点 名	平成 27 年度			測定開始～平成 27 年度(2015)			
	年平均値	月 平 均 値 最小～最大	平常の変動幅 (上限)	2 分 値 の 最 大 値	左欄の値の 発 生 時 刻	検 出 器 等 仕 様	現用検出器 使 用 開 始
手 結 南	29	28～30	60	91.2	14.01.21 19 : 50	2Y1	14.3
池 平	27	25～29	59	99.3	15.01.27 15 : 26	2Y1	14.3
名 分	31	30～32	57	86.6	14.01.21 19 : 50	2Y1	14.3
魚 瀬	36	35～37	63	84.3	15.01.27 15 : 38	2Y1	14.3
上 大 野	43	41～43	78	130.3	15.01.27 15 : 46	2Y1	14.3
東 長 江	38	36～39	75	105.8	15.12.17 20 : 46	2Y1	14.3
比 津	38	37～38	67	91.9	14.01.21 19 : 50	2Y1	14.3
持 田	41	40～43	76	125.5	15.12.17 16 : 46	2Y1	14.3
大 芦 別 所	33	31～34	68	101.9	14.01.21 19 : 28	2Y1	14.3
加 賀	33	32～34	60	89.9	14.01.21 19 : 26	2Y1	14.3
出 雲	32	30～33	64	95.0	14.01.21 21 : 10	2Y2	14.3
安 来	37	35～38	69	100.8	14.01.21 21 : 08	2Y2	14.3
雲 南	29	27～30	56	80.3	15.01.17 10 : 26	2Y2	14.3

(注) 1. モニタリングポストの「平常の変動幅」は、各測定地点における前年度までの 5 年間の全データから求めた累積相対度数分布の (平均値±標準偏差×3) 相当の範囲とする。

2. 仕様 2Y1 : 2"  $\phi \times 2$ -NaI : Tl, 軸方向天頂 (結晶中心地上高 3.8m, ALC局舎上) 温度・ $\gamma$ -補償型  
 仕様 2Y2 : " , " ( " 2.9m, 鋼板建屋上) 温度・ $\gamma$ -補償型

#### 4. 浮遊塵及び食品等の試料から検出された人工放射性核種による預託実効線量（成人）

農産物や海産生物等の試料から検出されたセシウム137、ストロンチウム90、およびトリチウムによる平成26年度の成人に対する預託実効線量を、いくつかの仮定をおいて試算した結果は、下表に示すとおりであった。

線量の計算は、「環境放射線モニタリングに関する指針（平成20年3月、原子力安全委員会）」等に準じて行った。

実効線量 ( $\times 10^{-5} \text{mSv/年}$ )

試料区分	一日当たり 摂取量	セシウム137			ストロンチウム90			トリチウム			備考
		濃度 (平均)	単位	実効線量	濃度 (平均)	単位	実効線量	濃度 (平均)	単位	実効線量	
浮遊塵	22.2 m <sup>3</sup>	-	$\mu \text{Bq}/\text{m}^3$	-							1日当たり呼吸量
水道原水	2.65 ℥	-	mBq/ℓ	-				0.35	Bq/ℓ	0.6	
葉菜	0.1 kg	-	Bq/kg (生)	-	0.04	Bq/kg (生)	4.1				
茶	0.02 kg	0.03	Bq/kg (生)	0.3	0.20	Bq/kg (生)	4.1				溶出率は100%を仮定
精米	0.3 kg	-	Bq/kg (生)	-							
魚	0.2 kg	0.10	Bq/kg (生)	9.5							
無脊椎動物	0.02 kg	0.04	Bq/kg (生)	0.4	-	Bq/kg (生)	-				
海藻	0.04 kg	0.08	Bq/kg (生)	1.5	-	Bq/kg (生)	-				

- (注) 1. 濃度は、検出下限値未満のものを除外した測定値の平均値であり、一印は、すべての試料で検出下限値未満であったことを示す。この場合、実効線量欄にも一印を記した。  
なお、網掛けした欄は、分析対象外の試料であることを示す。
2. 検出された核種については、過去の大気圏内核実験及び自然放射能等に起因するものと考えられた。  
なお、上記以外の分析対象核種(マグン54、鉄59、コバルト58、コバルト60)は、すべて検出下限値未満であった。
3. 実効線量の計算における係数は、「環境放射線モニタリングに関する指針」(平成20年3月、原子力安全委員会)等に準拠した。  
なお、市場希釈、調理等にともなうロスなどによる減少補正は行っていない。
4. 浮遊塵、葉菜、魚、無脊椎動物、海藻類の摂取量は「発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針」(平成13年3月、原子力安全委員会)に従い、水道原水の摂取量は I C R P Pub. 23が示す飲料水の摂取量を用いている。  
また、精米及び茶の摂取量は本県の実験値であり、それぞれ昭和53年度、61年度に採用した。
5. 実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則に定める周辺監視区域外の年線量限度は1 mSvである。また、国連科学委員会報告によれば、自然放射線による1人あたりの平均年実効線量は、2.4mSv(世界平均)である。

## 5. 環境試料分析の主な核種の濃度分布域

### (1) $\gamma$ 線スペクトロメトリーの主な核種

昭和 50 年度(1975)～平成 27 年度(2015)

試 料	部 位	採取地点	期 間	単 位	$^{54}\text{Mn}$	$^{59}\text{Fe}$	$^{58}\text{Co}$	$^{60}\text{Co}$	$^{137}\text{Cs}$	$^{131}\text{I}$	$^{134}\text{Cs}$
浮遊塵	地上塵	御 津	83～	$\mu\text{Bq}/\text{m}^3$	ND	ND	ND	ND	ND～250 /11.4		ND～270 /11.4
		古 浦	83～		ND	ND	ND	ND	ND～260 /11.4		ND～280 /11.4
		西 浜 佐 陀	08～		ND	ND	ND	ND	ND～270 /11.4		ND～290 /11.4
海水	表層水	1号機放水口	75～	$\text{mBq}/\ell$	ND	ND	ND	ND	ND～8.9 /76.4		ND
		2号機放水口	86～ 06		ND	ND	ND	ND	1.2～4.6 /86.10		ND
		1号機放水口沖	79～		ND	ND	ND	ND	1.4～6.3 /81.10		ND
		2・3号機放水口沖	75～		ND	ND	ND	ND	1.3～12.3 /78.10		ND
		2号機放水口付近 (宮崎鼻付近)	02～		ND	ND	ND	ND	ND～2.5 /02.4		ND
		3号機放水口付近	09～		ND	ND	ND	ND	1.1～1.9 /12.4		ND
		取 水 口	75～		ND	ND	ND	ND	1.3～6.7 /75.11		ND
		手 結 沖	86～		ND	ND	ND	ND	ND～5.2 /86.10		ND
陸水	池 水	上 講 武	79～		ND	ND	ND	ND	ND～3.3 /86.6		ND
		一 矢	79～		ND	ND	ND	ND	ND～6.3 /86.6		ND～2.6 /86.6
	水道原水	古 志 済 水 済	75～		ND	ND	ND	ND	ND～40 /86.6		ND～19 /86.6
		忌 部 済 水 場	79～		ND	ND	ND	ND	ND～13 /86.6		ND～5.9 /86.6
植物	松 葉	御 津	75～	$\text{Bq}/\text{kg}(\text{生})$	ND～0.76 /81.4	ND	ND～1.04 /76.10	ND	ND～32 /86.7	ND～4.2 /11.4	ND～15 /86.7
		一 矢	75～ 14		ND～0.30 /81.10	ND	ND～1.8 /76.10	ND	ND～6.7 /86.10	ND	ND～2.9 /86.10
		西 浜 佐 陀	15～		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		深 田 北	15～		ND	ND	ND	ND	0.04～0.05 /15.10	ND	ND
農作物	茶 葉	北 講 武	75～		ND～0.54 /81.5	ND	ND	ND	ND～29 /86.5	ND	ND～15 /86.5
	大 根	御 津	75～		ND	ND	ND	ND	ND～0.04 /77.12		ND
		根 連 木	78～		ND	ND	ND	ND	ND～0.07 /79.4		ND
	ほうれん草	御 津	75～		ND	ND	ND	ND	ND～0.48 /77.12	ND	ND
		根 連 木	78～		ND	ND	ND	ND	ND～0.56 /80.12	ND	ND
	キヤベツ	御 津	79～		ND	ND	ND	ND	ND～0.30 /86.5		ND～0.15 /86.5
		根 連 木	79～		ND	ND	ND	ND	ND～0.40 /86.5		ND～0.19 /86.5
	精 米	尾 坂	78～		ND	ND	ND	ND	ND～0.15 /79.10	ND	ND

(注) 1. ND は検出下限値未満

2. 核種濃度の網掛け欄は調査対象外

3. 最大値の右の数字はその採取年月

昭和 50 年度(1975)～平成 27 年度(2015)

試 料		部 位	採取地点	期 間	単 位	$^{54}\text{Mn}$	$^{59}\text{Fe}$	$^{58}\text{Co}$	$^{60}\text{Co}$	$^{137}\text{Cs}$	$^{131}\text{I}$	$^{134}\text{Cs}$
牛 乳	原 乳	\diagup	北 講 武	75～ 98	mBq/l						ND	
			南 講 武	99～							ND	
土 壤	陸 土	表層土	南 講 武	86～	Bq/kg(乾物)	ND	ND	ND	ND	ND～58 /93.7		ND～1.5 /86.7
			片 句	81～		ND	ND	ND	ND	ND～63 /91.7		ND～1.1 /86.7
			佐 陀 宮 内	88～		ND	ND	ND	ND	1.9～40 /92.7		ND～1.9 /87.7
			西 浜 佐 陀	08～		ND	ND	ND	ND	ND～3.5 /14.5		ND
底 質	海 底 土	表層 底質	1 号機放水口沖	75～		ND	ND	ND	ND	ND～1.2 /82.4		ND
			2・3 号機放水口沖	75～		ND	ND	ND	ND	ND～1.2 /82.4		ND
			手 結 沖	86～		ND	ND	ND	ND	ND～2.4 /91.4		ND

(注)

1. ND は検出下限値未満
2. 核種濃度の網掛け欄は調査対象外
3. 最大値の右の数字はその採取年月

## 昭和 50 年度(1975)～平成 27 年度(2015)

試 料	部 位	採 取 地 点	期 間	単 位	<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>137</sup> Cs	<sup>131</sup> I	<sup>134</sup> Cs
海 产 生 物	か さ ご	肉	発電所付近沿岸	75～	Bq/kg(生)	ND	ND	ND	ND ~ 0.77 /79.4		ND
	な ま こ	肉	"	78～		ND	ND	ND	ND ~ 0.11 /82.1		ND
	た こ	肉	"	75～ 77		ND	ND	ND	ND ~ 0.09 /76.6		ND
	さ ざ え	肉	1号機放水口附近 (宮崎鼻付近沿岸)	75～		ND	ND	ND	ND ~ 0.18 /81.4		ND
			宮崎鼻付近	02～		ND	ND	ND	ND ~ 0.04 /14.10		ND
		内 臓	1号機放水口附近 (宮崎鼻付近沿岸)	87～		ND	ND	ND	ND ~ 0.13 /00.4		ND
			宮崎鼻付近	02～		ND	ND	ND	ND ~ 0.03 /13.11		ND
		む ら さ き い が い	1号機放水口附近	75～		ND	ND	ND	ND ~ 0.20 /81.7	ND ~ 0.22 /75.7	ND
			2号機放水口湾付 (宇津湾口付近)	86～ 05		ND	ND	ND	ND ~ 0.06 /86.7		ND
			宮崎鼻付近	02～		ND	ND	ND	ND ~ 0.03 /11.7		ND
			浜 田 市	96～		ND	ND	ND	ND		ND
			松江市美保関町	75～		ND	ND	ND	ND ~ 0.13 /83.8		ND
	あ ら め	仮 根 を 除 く	1号機放水口附近	75～		ND	ND	ND	ND ~ 1.1 /81.6	ND	ND ~ 0.11 /86.6
			2号機放水口湾付 (宇津湾口付近)	86～ 05		ND	ND	ND	ND ~ 0.41 /86.6		ND ~ 0.11 /86.6
		宮 崎 鼻 付 近	宮崎鼻付近	02～		ND	ND	ND	ND ~ 0.11 /02.10	ND ~ 0.14 /11.3	ND
			宮崎鼻付近 海 底 部	02～		ND	ND	ND	ND ~ 0.09 /06.8		ND
	わ か め	仮 根 を 除 く	1号機放水口附近	75～		ND	ND	ND	ND ~ 0.15 /78.4	ND ~ 0.14 /11.4	ND
			2号機放水口沖	86～ 05		ND	ND	ND	ND ~ 0.17 /86.4		ND
	岩 の り	全 体	1号機放水口附近	78～		ND	ND	ND	ND ~ 0.07 /83.1		ND
	ほ ん だ わ ら 類	仮 根 を 除 く	1号機放水口附近	78～		ND	ND	ND	ND ~ 0.20 /82.7	ND	ND ~ 0.11 /86.6
			2号機放水口湾付 (宇津湾口付近)	86～ 05		ND	ND	ND	ND ~ 0.17 /86.6		ND ~ 0.11 /86.6
			宮崎鼻付近	02～		ND	ND	ND	ND ~ 0.07 /07.7	ND	ND
			輪 谷 湾	83～		ND	ND	ND	ND ~ 0.30 /86.6	ND	ND ~ 0.11 /86.6
			浜 田 市	07～		ND	ND	ND	ND ~ 0.07 /12.7	ND	ND
			松江市美保関町	07～		ND	ND	ND	ND ~ 0.05 /11.8	ND	ND

(注) 1. ND は検出下限値未満

2. 核種濃度の網掛け欄は調査対象外

3. 最大値の右の数字はその採取年月

(2) トリチウム

平成 4 年度(1992)～平成 27 年度(2015)

試 料		部 位	採 取 地 点	単 位	変 動 範 囲
海 水	表 層 水	1 号機放水口沖	Bq/ℓ	ND～0.55 / 96.10	
		2・3号機放水口沖	〃	ND～1.2 / 03.4	
		手 結 沖	〃	ND	
陸 水	池 水	表 層 水	一 矢	〃	ND～1.2 / 92.6
	水道原水	着 水 井	古 志 浄 水 場	〃	ND～1.1 / 92.6

- (注) 1. NDは検出下限値未満を示す。  
2. 最大値の右の数字はその試料の採取年月。

(3) ストロンチウム 90

平成 4 年度(1992)～平成 27 年度(2015)

試 料		部 位	採 取 地 点	単 位	変 動 範 囲
海 水	表 層 水	1 号機放水口沖	mBq/ℓ	ND～3.5 / 92.4	
植 物	松 葉	2 年 葉	御 津	Bq/kg(生)	0.98～13 / 15.4
農産物	ほうれん草	葉	御 津	〃	0.04～0.47 / 94.12
	茶	葉	北 講 武	〃	0.19～2.4 / 95.5
海 產 物	さ ざ え	肉	1 号機放水口湾付近 (発電所付近沿岸)	〃	ND～0.02 / 99.4
			宮 崎 鼻 付 近	〃	ND
	わ か め	仮 根 を 除 く	1 号機放水口湾付近	〃	ND～0.13 / 15.4
陸 土		表 層 土	佐 陀 宮 内	Bq/kg(乾物)	2.3～7.0 / 92.7
				kBq/m <sup>2</sup>	0.06～0.26 / 93.7

- (注) 1. NDは検出下限値未満を示す。  
2. 最大値の右の数字はその試料の採取年月。

## 6. 島根原子力発電所の運転状況

1号機(定格電気出力: 46万kW)

	運転状況	時間稼動率(%)	設備利用率(%)
4月	第29回施設定期検査のため発電停止中	0.0	0.0
5月	第29回施設定期検査のため発電停止中	(注3)	(注3)
6月	第29回施設定期検査のため発電停止中	(注3)	(注3)
7月	第29回施設定期検査のため発電停止中	(注3)	(注3)
8月	第29回施設定期検査のため発電停止中	(注3)	(注3)
9月	第29回施設定期検査のため発電停止中	(注3)	(注3)
10月	第29回施設定期検査のため発電停止中	(注3)	(注3)
11月	第29回施設定期検査のため発電停止中	(注3)	(注3)
12月	第29回施設定期検査のため発電停止中	(注3)	(注3)
1月	第29回施設定期検査のため発電停止中	(注3)	(注3)
2月	第29回施設定期検査のため発電停止中	(注3)	(注3)
3月	第29回施設定期検査のため発電停止中	(注3)	(注3)

2号機(定格電気出力: 82万kW)

	運転状況	時間稼動率(%)	設備利用率(%)
4月	第17回施設定期検査のため発電停止中	0.0	0.0
5月	第17回施設定期検査のため発電停止中	0.0	0.0
6月	第17回施設定期検査のため発電停止中	0.0	0.0
7月	第17回施設定期検査のため発電停止中	0.0	0.0
8月	第17回施設定期検査のため発電停止中	0.0	0.0
9月	第17回施設定期検査のため発電停止中	0.0	0.0
10月	第17回施設定期検査のため発電停止中	0.0	0.0
11月	第17回施設定期検査のため発電停止中	0.0	0.0
12月	第17回施設定期検査のため発電停止中	0.0	0.0
1月	第17回施設定期検査のため発電停止中	0.0	0.0
2月	第17回施設定期検査のため発電停止中	0.0	0.0
3月	第17回施設定期検査のため発電停止中	0.0	0.0

(注) 1. 時間稼動率=  $\frac{\text{稼動時間数}}{\text{暦時間数}} \times 100\%$

2. 設備利用率=  $\frac{\text{発電電力量}}{\text{認可電気出力} \times \text{暦時間数}} \times 100\%$

3. 1号機については平成27年4月30日付で運転終了

## 7. 島根原子力発電所における放射性廃棄物管理の状況

### (1) 液体廃棄物及び気体廃棄物

		液体廃棄物		気体廃棄物					
		トリチウムを除く (Bq)	トリチウム (Bq)	放射性 希ガス (Bq)	放射性 よう素 [ $^{131}\text{I}$ ] (Bq)	トリチウム (Bq)	全粒子状物質(四半期合計値) (Bq)	$\gamma$ 線 放出核種	$^{89}\text{Sr}, {}^{90}\text{Sr}$
原 子 炉 施 設 合 計	4月	ND	$6.3 \times 10^9$	ND	ND	$4.0 \times 10^9$	ND	ND	ND
	5月	ND	$2.3 \times 10^9$	ND	ND	$4.6 \times 10^9$			
	6月	ND	$3.4 \times 10^9$	ND	ND	$5.4 \times 10^9$			
	7月	ND	$2.4 \times 10^9$	ND	ND	$6.5 \times 10^9$	ND	ND	ND
	8月	ND	$2.0 \times 10^8$	ND	ND	$7.5 \times 10^9$			
	9月	ND	$2.0 \times 10^9$	ND	ND	$7.2 \times 10^9$			
	10月	ND	$3.4 \times 10^9$	ND	ND	$6.3 \times 10^9$	ND	ND	ND
	11月	ND	$5.1 \times 10^9$	ND	ND	$5.5 \times 10^9$			
	12月	ND	$7.3 \times 10^9$	ND	ND	$4.2 \times 10^9$			
	1月	ND	$5.4 \times 10^7$	ND	ND	$3.5 \times 10^9$	ND	ND	ND
	2月	ND	$5.3 \times 10^9$	ND	ND	$2.8 \times 10^9$			
	3月	ND	$6.7 \times 10^9$	ND	ND	$3.1 \times 10^9$			
年間合計		ND	$4.5 \times 10^{10}$	ND	ND	$6.1 \times 10^{10}$	ND	ND	ND
年間放出管理目標値		$7.4 \times 10^{10}$	$(7.4 \times 10^{12})$ (注2)	$8.4 \times 10^{14}$	$4.3 \times 10^{10}$				

(注) 1. NDは検出下限値未満を示す。

検出下限値は、液体廃棄物(トリチウムを除く) 約  $2 \times 10^{-2}$  Bq/cm<sup>3</sup> ( $^{60}\text{Co}$  で代表)

気体廃棄物(放射性希ガス) 約  $2 \times 10^{-2}$  Bq/cm<sup>3</sup>

気体廃棄物(放射性よう素) 約  $7 \times 10^{-9}$  Bq/cm<sup>3</sup>

気体廃棄物( $\gamma$ 線放出核種) 約  $4 \times 10^{-9}$  Bq/cm<sup>3</sup> ( $^{60}\text{Co}$  で代表)

気体廃棄物( $^{89}\text{Sr}, {}^{90}\text{Sr}$ ) 約  $4 \times 10^{-10}$  Bq/cm<sup>3</sup> ( $^{90}\text{Sr}$  で代表)

気体廃棄物(全 $\alpha$ 放射能) 約  $4 \times 10^{-10}$  Bq/cm<sup>3</sup>

2. 年間放出管理の基準値

## (2) 固体廃棄物

		固　体　廃　棄　物					
		ド ラ ム 缶			その他の種類		
		発生量 (本)	焼却量・ 減容処理量等 (本)	累積 保管量 (本)	発生量 (本相当)	焼却量・ 減容処理量等 (本相当)	累積 保管量 (本相当)
原子炉施設合計	4月	336	52	26,294	35	116	2,062
	5月	278	0	26,572	2	160	1,904
	6月	387	14	26,945	0	72	1,832
	7月	327	72	27,200	0	0	1,832
	8月	258	0	27,458	0	0	1,832
	9月	291	0	27,749	0	0	1,832
	10月	364	0	28,113	59	0	1,891
	11月	452	0	28,565	13	0	1,904
	12月	414	0	28,979	0	0	1,904
	1月	187	0	29,166	59	0	1,963
	2月	310	10	29,466	0	0	1,963
	3月	446	79	29,833	4	0	1,967
年間合計		4,050	227	29,833	172	348	1,967

(注) 1. 固体廃棄物貯蔵所の保管容量は、45,500本である。

## 8. 環境放射能の検出下限値

### (1) 地表面における人工放射能

#### 1) 人工放射能面密度の検出下限値

単位:【 kBq/m<sup>2</sup> 】

測定地点	測定月日	対象核種						測定者
		<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>131</sup> I	<sup>137</sup> Cs	
片 句	5月30日	0.02	0.06	0.03	0.02	0.05	0.04	島根県
	11月11日	0.03	0.05	0.03	0.02	0.05	0.04	"
手 結	5月30日	0.03	0.08	0.05	0.04	0.08	0.05	"
	11月11日	0.03	0.08	0.05	0.04	0.08	0.04	"
古 浦	5月27日	0.04	0.07	0.04	0.03	0.05	0.05	"
	11月11日	0.02	0.07	0.04	0.03	0.06	0.04	"
佐 陀 本 郷	5月31日	0.03	0.06	0.03	0.03	0.06	0.02	"
	11月12日	0.03	0.06	0.03	0.03	0.03	0.02	"
西 生 馬	5月27日	0.04	0.07	0.04	0.03	0.07	0.05	"
	11月12日	0.04	0.07	0.04	0.04	0.07	0.05	"
西 川 津	5月27日	0.04	0.07	0.04	0.03	0.06	0.01	"
	11月11日	0.07	0.07	0.04	0.03	0.07	0.03	"
加 賀	5月28日	0.01	0.06	0.03	0.03	0.06	0.04	"
	11月27日	0.03	0.06	0.03	0.03	0.06	0.02	"
大 芦	5月28日	0.04	0.07	0.04	0.03	0.06	0.03	"
	11月13日	0.04	0.06	0.04	0.03	0.06	0.03	"
御 津	5月28日	0.02	0.08	0.04	0.03	0.07	0.05	"
	11月13日	0.04	0.07	0.04	0.03	0.07	0.04	"
上 講 武	5月30日	0.02	0.07	0.04	0.03	0.03	0.05	"
	11月11日	0.02	0.07	0.04	0.03	0.07	0.05	"
北 講 武	5月28日	0.02	0.06	0.03	0.03	0.06	0.03	"
	11月27日	0.02	0.06	0.03	0.03	0.06	0.02	"
佐 陀 宮 内	5月28日	0.03	0.07	0.04	0.03	0.07	0.05	"
	11月12日	0.02	0.07	0.04	0.03	0.07	0.04	"
西 浜 佐 陀	5月30日	0.04	0.07	0.04	0.03	0.07	0.04	"
	11月13日	0.02	0.07	0.04	0.03	0.07	0.04	"

(2) 環境試料中の放射能

1) ガンマ線スペクトロメトリー対象核種の検出下限値

浮遊塵

単位:【 $\mu\text{Bq}/\text{m}^3$ 】

採取地點	採取期間	対象核種					測定者
		$^{54}\text{Mn}$	$^{59}\text{Fe}$	$^{58}\text{Co}$	$^{60}\text{Co}$	$^{137}\text{Cs}$	
御津	4月1日～4月30日	2.77	9.93	3.59	3.95	3.12	島根県
	4月30日～6月1日	2.77	8.04	3.28	3.42	2.86	//
	6月1日～7月1日	2.52	9.03	3.36	3.61	2.83	//
	7月1日～7月31日	3.85	8.06	2.73	3.06	2.42	//
	7月31日～9月1日	2.27	6.56	2.98	2.80	3.74	//
	9月1日～10月2日	2.46	9.71	3.19	3.15	2.50	//
	10月2日～11月2日	2.21	7.32	2.92	3.00	2.39	//
	11月2日～12月2日	2.46	7.79	3.01	3.53	2.66	//
	12月2日～1月4日	2.35	6.12	2.72	2.61	2.18	//
	1月4日～2月1日	3.98	7.99	2.87	3.17	2.46	//
	2月1日～2月29日	2.65	9.28	3.23	3.36	2.87	//
	2月29日～4月1日	2.53	8.01	2.95	3.14	2.44	//
古浦	4月1日～4月30日	2.70	8.76	3.43	3.56	2.71	//
	4月30日～6月1日	2.46	8.48	2.96	3.19	2.51	//
	6月1日～7月1日	3.40	9.43	3.62	3.60	3.02	//
	7月1日～7月31日	4.61	8.41	2.92	3.59	2.35	//
	7月31日～9月1日	2.17	9.28	2.62	2.99	2.26	//
	9月1日～10月2日	3.41	8.60	2.83	2.69	2.23	//
	10月2日～11月2日	2.16	8.06	2.55	2.97	2.34	//
	11月2日～12月2日	2.32	7.24	2.70	2.96	2.47	//
	12月2日～1月4日	1.86	6.29	2.40	2.54	1.93	//
	1月4日～2月1日	4.11	8.54	2.88	3.38	2.52	//
	2月1日～2月29日	2.36	8.39	2.99	3.10	2.60	//
	2月29日～4月1日	4.23	8.34	4.51	3.11	2.40	//
西浜佐陀	4月13日～4月30日	31.7	272	71.5	44.5	40.8	//
	4月30日～6月1日	16.1	171	32.9	23.9	17.0	//
	6月1日～7月1日	16.3	73.0	25.4	32.3	17.2	//
	7月1日～7月31日	4.72	9.18	3.05	3.35	4.05	//
	7月31日～9月1日	2.56	6.85	3.18	3.23	2.69	//
	9月1日～10月2日	4.47	9.89	3.16	2.85	2.41	//
	10月2日～11月2日	4.54	7.74	3.11	3.23	2.42	//
	11月2日～12月2日	2.30	6.78	2.69	3.17	2.54	//
	12月2日～1月4日	2.31	6.86	2.49	2.53	2.11	//
	1月4日～2月1日	2.54	9.04	3.25	3.52	2.69	//
	2月1日～2月29日	4.54	9.38	3.22	3.24	2.70	//
	2月29日～4月1日	2.35	7.59	2.70	3.00	2.42	//

## 1) ガンマ線スペクトロメトリー対象核種の検出下限値

海水

単位:【 mBq/ℓ 】

部 位	採 取 地 点	採 取 月 日	対 象 核 種					測 定 者
			<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>137</sup> Cs	
表層水	1号機放水口	4月23日	1.05	6.86	2.07	1.16	0.96	島根県
			1.36	2.92	1.25	1.29	0.88	中国電力
		10月6日	0.92	5.38	1.45	1.20	1.05	島根県
			1.35	2.67	1.26	1.49	0.97	中国電力
	2号機放水口付近	4月22日	1.74	6.21	1.71	1.18	1.14	島根県
		10月15日	1.38	3.13	1.29	1.48	0.82	中国電力
	3号機放水口付近	4月22日	1.73	6.01	1.81	1.15	1.04	島根県
		10月15日	1.42	4.09	1.47	1.41	0.87	中国電力
	取水口	4月23日	1.49	3.10	1.55	1.40	0.96	"
		10月6日	1.19	2.30	1.22	1.22	0.81	"
	1号機放水口沖	4月22日	1.02	4.53	1.42	1.06	0.65	島根県
		10月15日	1.50	4.06	1.27	1.04	0.76	"
	2・3号機放水口沖	4月22日	0.88	4.40	1.36	1.02	0.67	"
		10月15日	1.60	4.31	1.37	1.08	0.83	"
	手結沖	4月22日	0.89	4.61	1.46	1.00	0.63	"
		10月14日	1.54	2.49	1.16	1.45	0.93	中国電力

陸 水

単位:【 mBq/ℓ 】

部 位	採 取 地 点	採 取 月 日	対 象 核 種					測 定 者
			<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>137</sup> Cs	
池水	表層水	一矢	0.36	1.23	0.42	0.44	0.35	島根県
			0.48	1.19	0.49	0.53	0.44	中国電力
	上講武	5月22日	0.49	0.94	0.52	0.51	0.40	"
水道原水	古志淨水場	5月14日	0.35	1.06	0.39	0.41	0.31	島根県
			0.42	0.96	0.46	0.51	0.41	中国電力
		11月17日	0.32	1.67	0.49	0.37	0.31	島根県
			0.58	1.11	0.45	0.47	0.42	中国電力
	忌部淨水場	5月14日	0.34	1.39	0.44	0.44	0.33	島根県
			0.48	1.03	0.49	0.53	0.43	中国電力
		11月17日	0.34	2.02	0.52	0.44	0.31	島根県
			0.47	1.06	0.46	0.52	0.43	中国電力

1) ガンマ線スペクトロメトリー対象核種の検出下限値

植 物				単位:【Bq/kg(生)】						
試料名	部位	採地	取点	対象核種						測定者
				<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>131</sup> I	<sup>137</sup> Cs	
松葉	2年葉	御 津	4月22日	0.07	0.39	0.13	0.07	0.16	0.04	島根県
		西浜佐陀	11月17日	0.04	0.10	0.03	0.05	0.13	0.02	"
		深田北	10月7日	0.05	0.19	0.05	0.05	0.13	0.04	"
				0.05	0.22	0.07	0.05	△		中国電力

農産物				単位:【Bq/kg(生)】							
試料名	部位	採地	取点	対象核種						測定者	
				<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>131</sup> I	<sup>137</sup> Cs		
大根	根	御 津	12月8日	0.01	0.09	0.02	0.02	△		0.01	島根県
		根連木	4月9日	0.01	0.04	0.01	0.02	△		0.01	中国電力
			12月7日	0.01	0.09	0.02	0.02	△		0.01	島根県
ほうれん草	葉	御 津	12月8日	0.06	0.27	0.06	0.07	0.07	0.03	"	
		根連木	12月7日	0.03	0.27	0.05	0.06	0.06	0.04	"	
				0.05	0.17	0.05	0.07	△		0.04	中国電力
キヤベツ	葉	御 津	5月7日	0.01	0.07	0.02	0.02	△		0.01	島根県
		根連木	5月7日	0.01	0.09	0.02	0.03	△		0.01	"
精米	尾坂	尾 坂	10月8日	0.02	0.05	0.01	0.02	0.05	0.01	"	
				0.01	0.05	0.02	0.02	△		0.01	中国電力
茶葉	葉	北講武	5月11日	0.03	0.17	0.03	0.05	0.11	0.02	島根県	
				0.04	0.11	0.03	0.04	0.13	0.03	中国電力	

牛 乳				単位:【mBq/ℓ】			
試料名	採取地點	採取月日	対象核種			測定者	
			<sup>131</sup> I				
原乳	南講武	4月9日	41			島根県	
			46			中国電力	
		7月10日	44			島根県	
		10月14日	44			"	
			67			中国電力	
		1月15日	96			島根県	

## 1) ガンマ線スペクトロメトリー対象核種の検出下限値

海産生物							単位:【Bq/kg(生)】		
試料名	部位	採取地点	採取月日	対象核種					
				<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co		
かさご	肉	発電所付近沿岸	4月23日 6月15日	0.07	0.21	0.05	0.07	0.05	島根県
なまこ	肉	1号機放水口付近 宮崎鼻付近	1月26日 1月31日	0.03 0.04	0.08 0.09	0.02 0.02	0.03 0.03	0.02 0.02	〃
さざえ	肉	1号機放水口付近	4月21日	0.04	0.15	0.04	0.06	0.05	〃
			7月5日	0.03	0.21	0.04	0.06	0.03	〃
			10月14日	0.03	0.15	0.05	0.06	0.05	〃
			1月26日	0.03	0.15	0.04	0.06	0.03	〃
	内臓	宮崎鼻付	4月16日	0.03	0.13	0.03	0.06	0.04	〃
			7月12日	0.04	0.22	0.06	0.07	0.04	〃
			11月6日	0.06	0.16	0.04	0.06	0.05	〃
			1月31日	0.06	0.14	0.04	0.06	0.03	〃
むらさきいがい	むき身	1号機放水口付近	4月21日	0.03	0.15	0.04	0.06	0.05	〃
			7月5日	0.07	0.25	0.06	0.11	0.04	〃
			10月14日	0.08	0.15	0.04	0.05	0.05	〃
			1月26日	0.03	0.15	0.04	0.05	0.03	〃
	宮崎鼻付	宮崎鼻付	4月16日	0.07	0.15	0.04	0.06	0.05	〃
			7月12日	0.04	0.19	0.07	0.06	0.04	〃
			11月6日	0.04	0.16	0.05	0.07	0.04	〃
			1月31日	0.08	0.18	0.05	0.07	0.04	〃
むらさきいがい	むき身	1号機放水口付近	7月22日	0.03	0.21	0.05	0.06	0.04	〃
				0.08	0.36	0.10	0.07	0.06	中國電力
	宮崎鼻付	宮崎鼻付	7月12日	0.03	0.16	0.04	0.05	0.03	島根県
				0.06	0.27	0.08	0.06	0.04	中國電力
	浜田市	浜田市	7月12日	0.02	0.10	0.03	0.04	0.03	島根県
	松江市 美保関町	松江市 美保関町	7月21日	0.02	0.13	0.04	0.04	0.02	〃
				0.04	0.19	0.06	0.05	0.03	中國電力

1) ガンマ線スペクトロメトリー対象核種の検出下限値

海産生物				単位：【Bq/kg(生)】						
試料名	部位	採取地点	採取月日	対象核種						測定者
				<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>131</sup> I	<sup>137</sup> Cs	
あらめ	仮根を除く	1号機放水口 付近	6月21日	0.11	0.42	0.08	0.11	/	0.09	島根県
			10月14日	0.03	0.12	0.03	0.03	0.10	0.02	"
		宮崎鼻付	7月4日	0.10	0.39	0.08	0.13	/	0.05	"
			12月2日	0.08	0.23	0.07	0.08	0.13	0.06	中国電力
		宮崎鼻付 海底部	6月16日	0.07	0.47	0.09	0.13	/	0.09	島根県
				0.08	0.23	0.07	0.09	/	0.06	中国電力
わかめ	仮根を除く	1号機放水口 付近	4月21日	0.10	0.29	0.07	0.09	0.06	0.06	島根県
				0.05	0.18	0.05	0.06	0.10	0.04	中国電力
岩のり	全体	1号機放水口 付近	1月17日	0.04	0.19	0.04	0.07	/	0.03	島根県
ほんだわら類	仮根を除く	1号機放水口 付近	6月21日	0.11	0.37	0.08	0.13	0.09	0.10	"
				0.10	0.31	0.09	0.12	0.12	0.08	中国電力
		宮崎鼻付	7月4日	0.12	0.47	0.11	0.13	0.12	0.06	島根県
				0.07	0.30	0.08	0.08	0.19	0.06	中国電力
		輪谷湾	7月4日	0.09	0.43	0.09	0.09	0.11	0.04	島根県
				0.08	0.26	0.08	0.09	0.14	0.06	中国電力
	浜田市	浜田市	7月12日	0.07	0.43	0.12	0.10	0.09	0.05	島根県
	松江市 美保関町	松江市 美保関町	7月21日	0.06	0.75	0.13	0.11	0.09	0.05	"
				0.09	0.26	0.08	0.10	/	0.08	中国電力

1) ガンマ線スペクトロメトリー対象核種の検出下限値

陸 土(濃 度)

単位:【 Bq/kg(乾物)】

部 位	採 取 地 点	採取月 日	対 象 核 种					測 定 者
			<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>137</sup> Cs	
表層土 (0~5 cm)	南 講 武	5月 15 日	0.96	1.61	0.56	0.67	0.79	島 根 県
	片 句	5月 15 日	0.83	2.10	0.57	0.71	0.81	"
	佐 陀 宮 内	5月 15 日	0.74	2.36	0.72	0.72	0.66	"
			0.90	1.61	0.73	0.81	0.72	中 国 電 力
	西 浜 佐 陀	5月 22 日	1.05	2.32	0.73	0.75	0.56	島 根 県

陸 土(面 密 度)

単位:【 kBq/m<sup>2</sup>】

部 位	採 取 地 点	採取月 日	対 象 核 种					測 定 者
			<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>137</sup> Cs	
表層土 (0~5 cm)	南 講 武	5月 15 日	0.02	0.03	0.01	0.01	0.02	島 根 県
	片 句	5月 15 日	0.03	0.08	0.02	0.03	0.03	"
	佐 陀 宮 内	5月 15 日	0.02	0.06	0.02	0.02	0.02	"
			0.02	0.04	0.02	0.02	0.02	中 国 電 力
	西 浜 佐 陀	5月 22 日	0.02	0.04	0.01	0.01	0.01	島 根 県

海 底 土

単位:【 Bq/kg(乾物)】

部 位	採 取 地 点	採取月 日	対 象 核 种					測 定 者
			<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>137</sup> Cs	
表層底質	1号機放水口沖	4月 22 日	0.78	1.56	0.50	0.56	0.68	島 根 県
	2・3号機放水口沖	4月 22 日	0.47	1.49	0.52	0.60	0.49	"
	手 結 沖	4月 22 日	0.97	1.87	0.57	0.66	0.50	"

## 2) トリチウム

単位：【 Bq/ℓ 】

試 料 名	部 位	採 取 地 点	採 取 月 日	検 出 下 限 値	測 定 者
海 水	表層水	1号機放水口沖	4月 22日	0.20	島 根 県
				0.31	中 国 電 力
			10月 15日	0.27	島 根 県
				0.29	中 国 電 力
		2・3号機放水口沖	4月 22日	0.20	島 根 県
				0.29	中 国 電 力
			10月 15日	0.28	島 根 県
				0.29	中 国 電 力
		手 結 沖	4月 22日	0.20	島 根 県
			10月 14日	0.30	中 国 電 力
陸 水	池水	表層水	一 矢	5月 14日	0.20
	0.28				
	水道原水	着水井	古 志 淨 水 場	5月 14日	0.20
					0.29
			11月 17日	0.28	島 根 県
				0.32	中 国 電 力

3) ストロンチウム 90

試 料 名	部 位	採 取 地 点	採 取 月 日	検 出 下 限 値	単 位	測 定 者
松 葉	2 年葉	御 津	4 月 22 日	0.31	Bq/kg(生)	島根県
ほうれん草	葉	御 津	12 月 8 日	0.04		"
茶	葉	北 講 武	5 月 11 日	0.06		"
海 水	表層水	1 号機放水口沖	4 月 22 日	3.15		"
海 產 生 物	さざえ	肉	1 号機放水口湾付近	4 月 21 日	0.04	Bq/kg(生)
			宮 崎 鼻 付 近	4 月 16 日	0.04	
	あらめ	仮根を 除く	宮 崎 鼻 付 近	7 月 4 日	0.07	
	わかめ	"	1 号機放水口湾付近	4 月 21 日	0.08	
陸 土		佐 陀 宮 内	5 月 15 日	0.43	Bq/kg(乾物)	"
				0.01	kBq/m <sup>2</sup>	"

## 9. 平成 27 年 6 月 15 日に発生した空間放射線量率の上昇について

平成 27 年 6 月 15 日 18 時 2 分に御津局モニタリングポストにおいて空間放射線量率の急激な上昇等異常が見られ、 $59 \text{ nGy/h}$  を記録した。測定器（DBM 方式 3 インチ球形 NaI(Tl) シンチレーション検出器）については故障等の機器異常は認められなかった。また同時に測定している電離箱式線量率計（技術会計画外）も同様に線量率の上昇を記録していたことから、この事象を調査した。

### 1. 調査

#### 1) 気象状況

当日は事象の時刻まで、全測定局で感雨を記録しておらず、降水は無かった。

17 時から 18 時の間、発電所周辺での風は主に北～北北西の 1～2m/s（発電所・北北西 2m/s、深田北・北 1m/s、古浦・西 1m/s、御津・北北西 2m/s）でほぼ一様風であった。

#### 2) 線量率の変化および測定器の NaI スペクトルの変化

御津局以外の測定局では線量率の上昇は無く、NaI 計数比<sup>(注)</sup> の変化も認められなかった。一方、御津局の NaI 計数比は通常 8%程度であったものが線量率上昇時には 7%程度まで低下した。18 時から 18 時 10 分の間の NaI スペクトルをみると、500keV 付近にピークが見られ、入射したガンマ線は 500keV 程度のエネルギーであると考えられる。

#### 3) 発電所排気筒モニターおよび敷地内モニタリングポストの状況

発電所排気筒モニターおよび敷地内モニタリングポストの数値には異常な変化は認められなかった。

#### 4) 御津局周辺の状況変化等

御津局周辺の状況変化として、全周囲カメラの映像では、18 時 01 分ごろに近くを人が通るのが録画されていた。

### 2. 結果

この事象の原因は、500keV 程度のエネルギーのガンマ線が入射したためと考えられるが、御津局以外の全ての局、発電所敷地内モニタリングポストの線量率および発電所排気筒モニターの数値に異常な変化が無いことから発電所からの影響によるものではないと判断した。

なお、事象発生時刻に同モニタリングポスト近辺を人が通り過ぎていたことが確認されている。核医学検査法の一種である PET 検査においては、検査で投与される放射性物質から陽電子が放出されることを利用しておらず、今回検出された放射線のガンマ線のエネルギー帯はこの陽電子放出核種による影響（消滅放射線 511keV 光子）と同じエネルギー帯の 500keV 程度であることから、核医学検査を受けた人からの放射線の影響を検出したものと推測される。

(注) NaI 計数比とは、NaI 検出器の持つガンマ線エネルギー依存性（1 計数に相当する線量率がガンマ線エネルギーにより異なる性質）を補償するための波高弁別バイアス変調（DBM）回路の入力計数と出力計数の比を表しています。一般に、NaI 計数比が高いほど入射ガンマ線エネルギーが高いことを示します。発電所からの人工放射性核種の  $\gamma$  線や核医学診断の R I 投与患者の影響による放射線の平均エネルギーは、一般にはバックグラウンドの自然放射線核種に比べ低いものと考えられ、検出器が人工放射性核種の影響を受けると、 $\gamma$  線の平均エネルギーは低くなり、計数比も低下します。また、雨の影響を受けた場合は、バックグラウンドの  $\gamma$  線平均エネルギーより高いため、計数比は一般には上昇します。

## 10. 平成 28 年 1 月 4 日に発生した空間放射線量率の上昇について

平成 28 年 1 月 4 日 10 時 56 分～11 時 16 分に末次局モニタリングポストにおいて空間放射線量率の急激な上昇等異常が見られ、11 時 00 分に平常の変動幅を超える 66 nGy/h を記録した。測定器 (DBM 方式 3 インチ球形 NaI(Tl) シンチレーション検出器) については故障等の機器異常は認められなかった。また同時に測定している電離箱式線量率計（技術会計画外）も同様に線量率の上昇を記録していたことから、この事象を調査した。

### 1. 調査

#### 1) 気象状況

当日は事象の時刻まで、全測定局で感雨を記録しておらず、降水は無かった。

10 時から 11 時の間、市内の風は主に北北西～西の 5～7 m/s（発電所・西北西 7 m/s、深田北・西 5 m/s、古浦・西 6 m/s、御津・北北西 5 m/s、西浜佐陀・北西 7 m/s）でほぼ一様風であった。

#### 2) 線量率の変化および NaI スペクトルの変化

末次局以外の測定局では線量率の上昇は無く、NaI 計数比<sup>(注)</sup>の変化も認められなかった。一方、末次局の NaI 計数比は通常 9 %程度であったものが線量率上昇時には 3 %程度まで低下した。10 時 50 分から 11 時 00 分の間の NaI スペクトルをみると、140keV 付近にピークが見られ、入射したガンマ線は 140keV 程度のエネルギーであると考えられる。

#### 3) 発電所排気筒モニターおよび敷地内モニタリングポストの状況

発電所排気筒モニターおよび敷地内モニタリングポストの数値には異常な変化は認められなかった。

#### 4) 末次局周辺の状況変化等

末次局周辺の状況として、全周囲カメラの映像では、付近は市役所駐車場内であるため、日常的な人や車の往来は見られた。

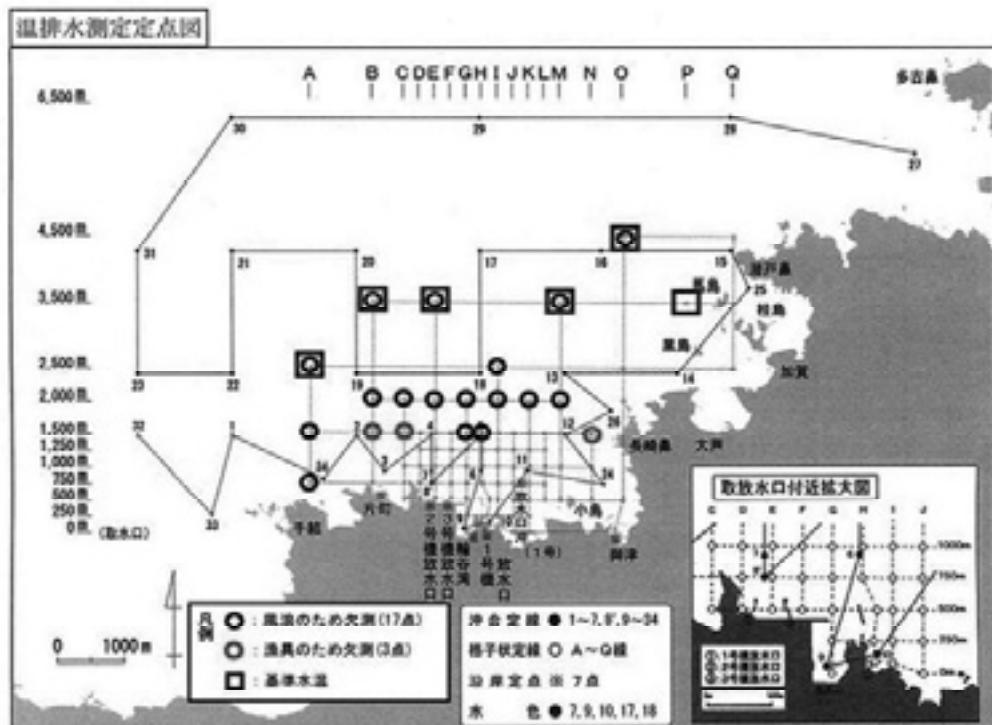
### 2. 結果

この事象の原因は、140keV 程度のガンマ線が入射したためと考えられるが、末次局以外の全ての局、発電所敷地内モニタリングポストの線量率および発電所排気筒モニターの数値に異常な変化が無いことから発電所からの影響によるものではないと判断した。

なお、核医学検査での投与に利用される Tc-99m による影響（ガンマ線 143keV）は、今回検出された放射線と同じエネルギー帯の 140keV 程度であることから、核医学検査を受けた人からの放射線の影響を検出したものと推測される。

(注) NaI 計数比とは、NaI 検出器の持つガンマ線エネルギー依存性（1 計数に相当する線量率がガンマ線エネルギーにより異なる性質）を補償するための波高弁別バイアス変調 (DBM) 回路の入力計数と出力計数の比を表しています。一般に、NaI 計数比が高いほど入射ガンマ線エネルギーが高いことを示します。発電所からの人工放射性核種の  $\gamma$  線や核医学診断の R I 投与患者の影響による放射線の平均エネルギーは、一般にはバックグラウンドの自然放射線核種に比べ低いものと考えられ、検出器が人工放射性核種の影響を受けると、 $\gamma$  線の平均エネルギーは低くなり、計数比も低下します。また、雨の影響を受けた場合は、バックグラウンドの  $\gamma$  線平均エネルギーより高いため、計数比は一般には上昇します。

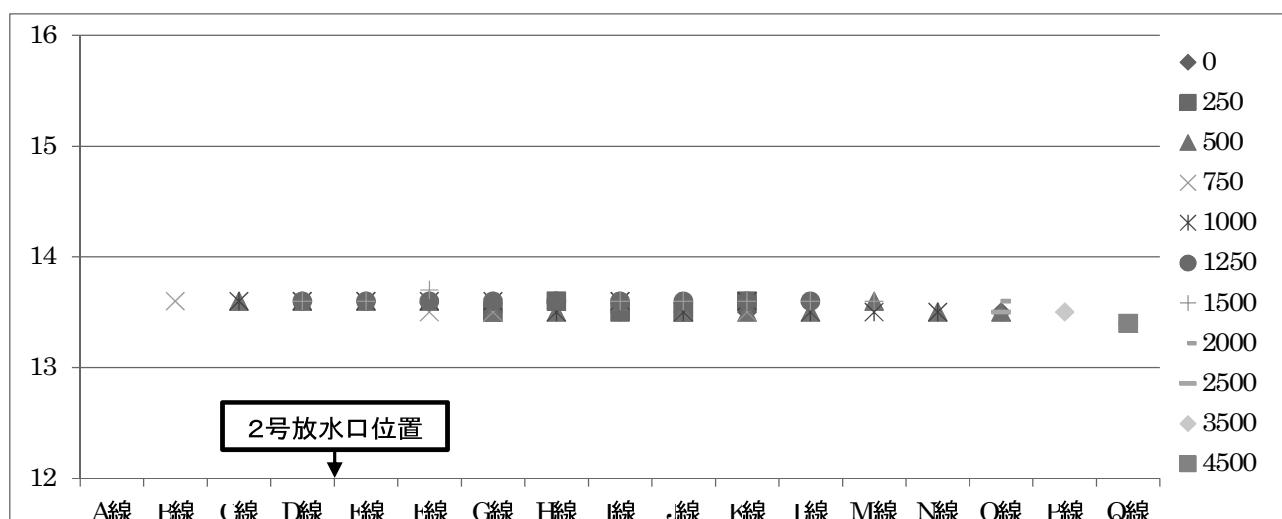
## 11. 格子状定線測定温度分布図（H28.3.23実施）（1/4）



[0m層]

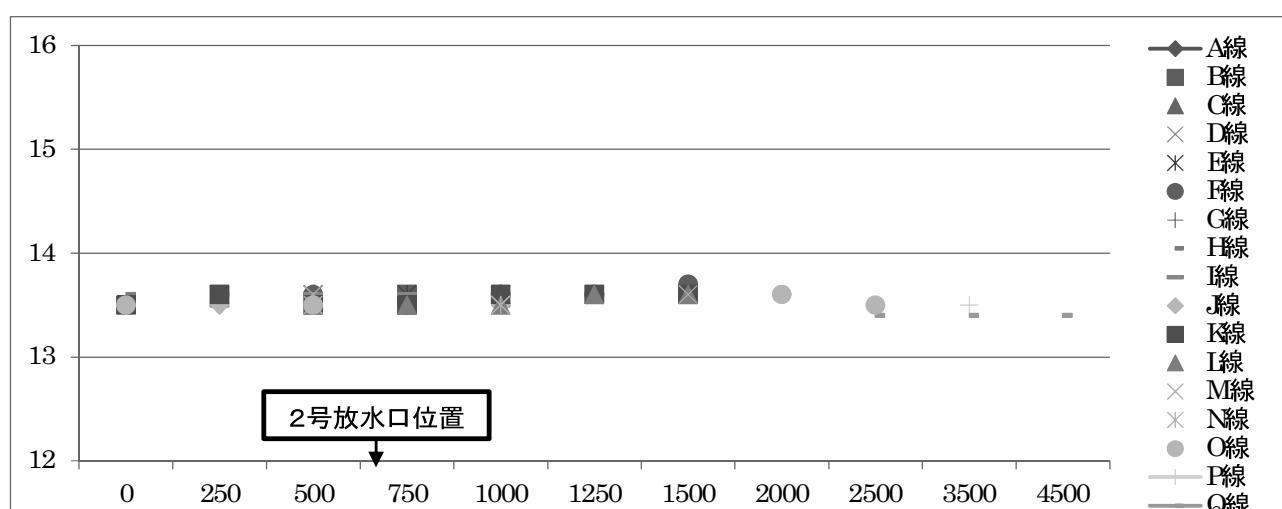
東西方向温度分布図(A線～Q線)

水温の最高 13, 7 水温の最低 13, 4 (°C)

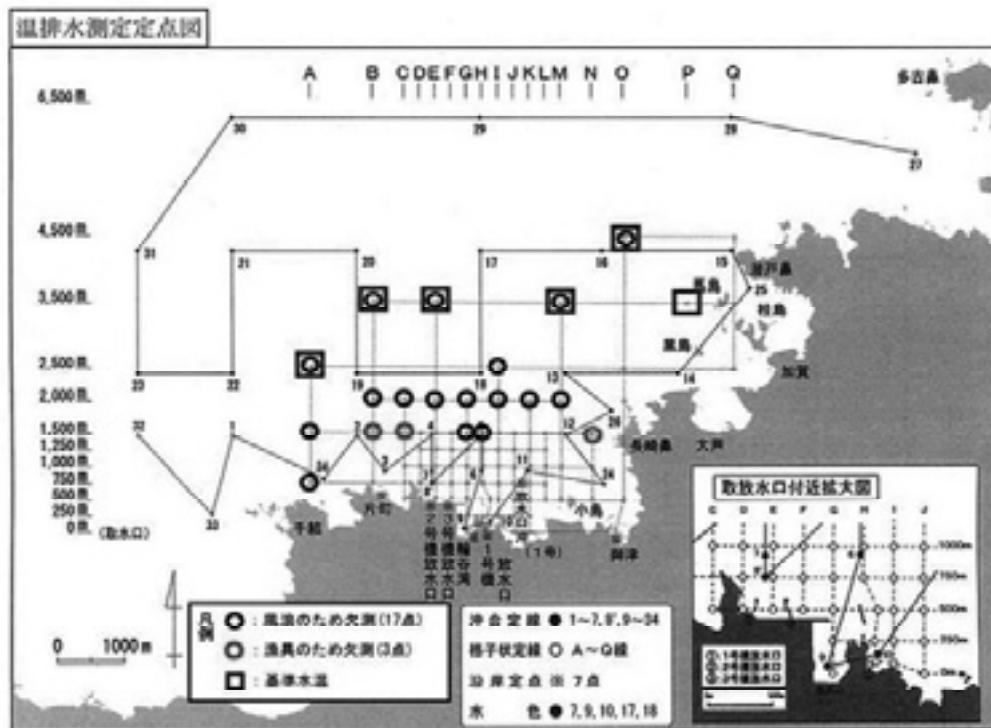


南北方向温度分布図(0m～4500m)

水温の最高 13, 7 水温の最低 13, 4 (°C)



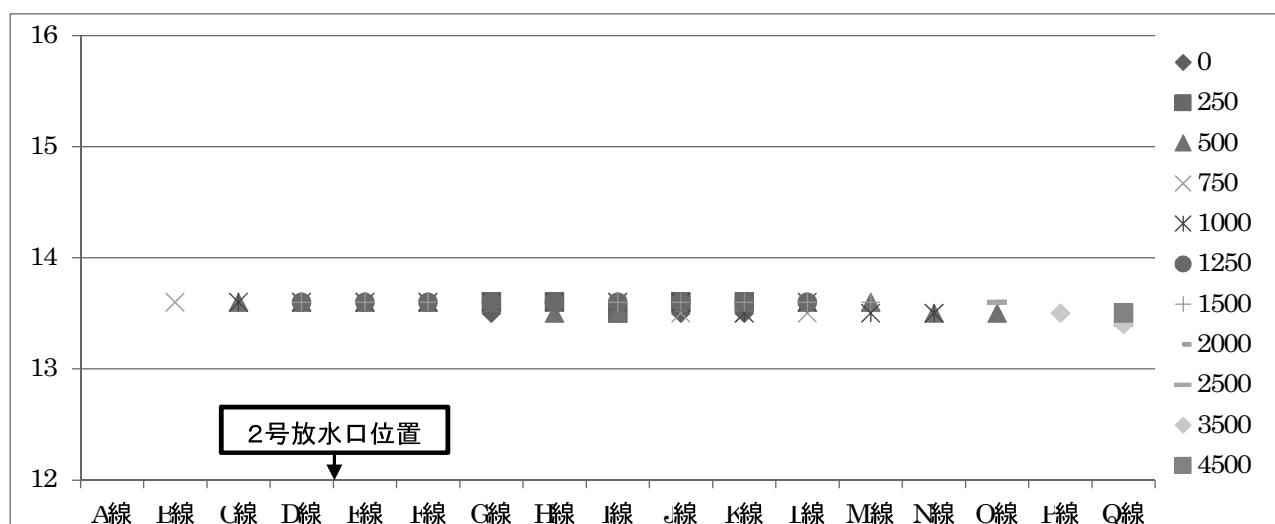
## 11. 格子状定線測定温度分布図（H28.3.23実施）(2/4)



[5m層]

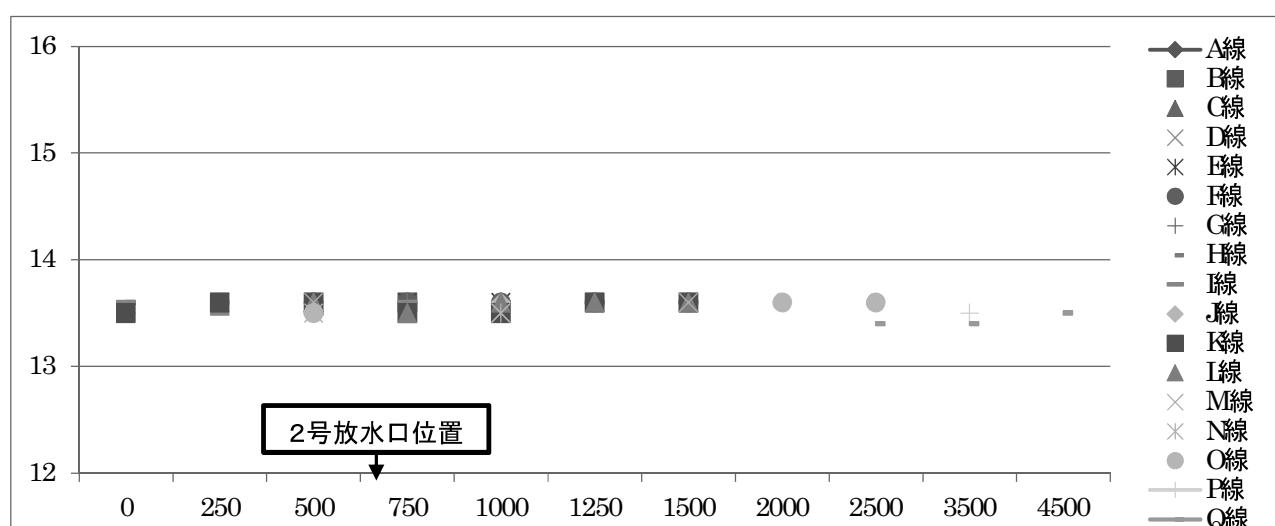
東西方向温度分布図(A線～Q線)

水温の最高 13, 7 水温の最低 13, 4 (°C)

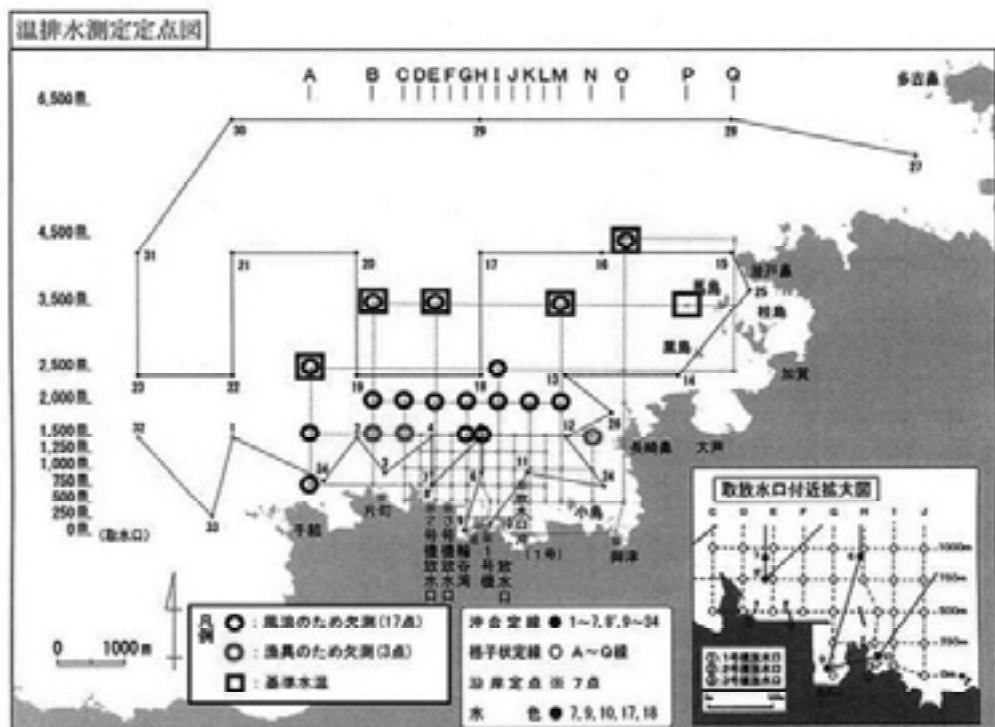


南北方向温度分布図(0m～4500m)

水温の最高 13, 7 水温の最低 13, 4 (°C)



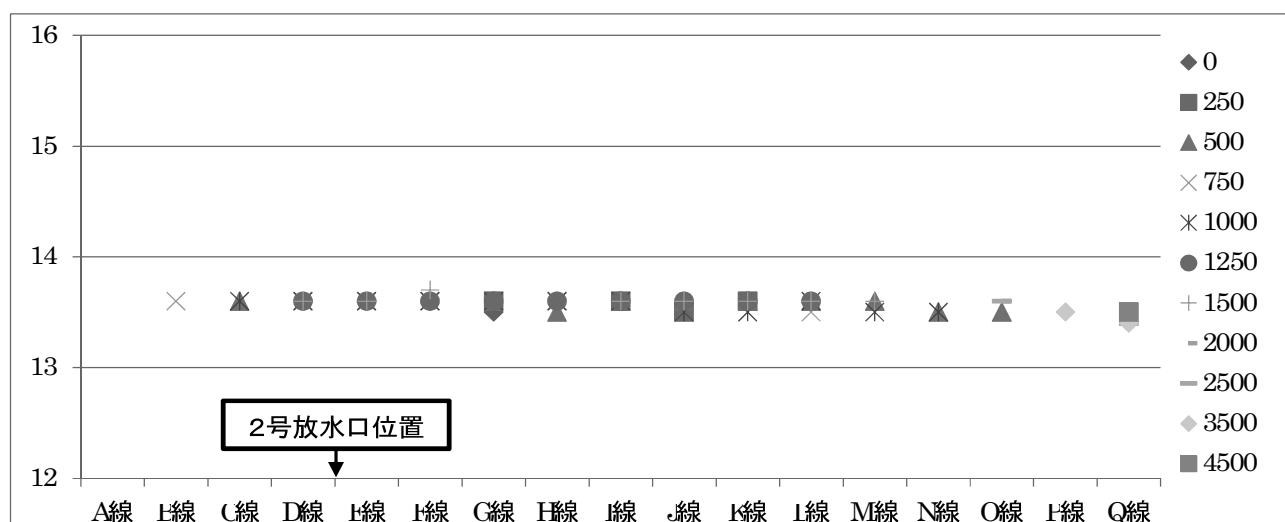
### 11. 格子状定線測定温度分布図 (H28.3.23実施) (3 / 4)



〔10m層〕

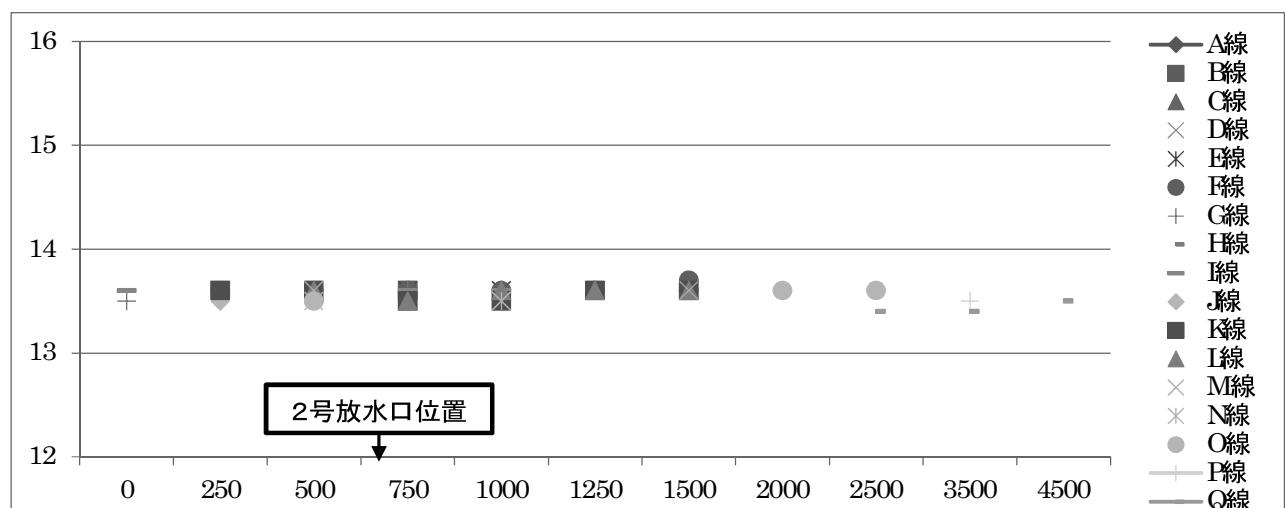
### 東西方向温度分布図(A線～Q線)

水温の最高 13, 7 水温の最低 13, 4 (°C)

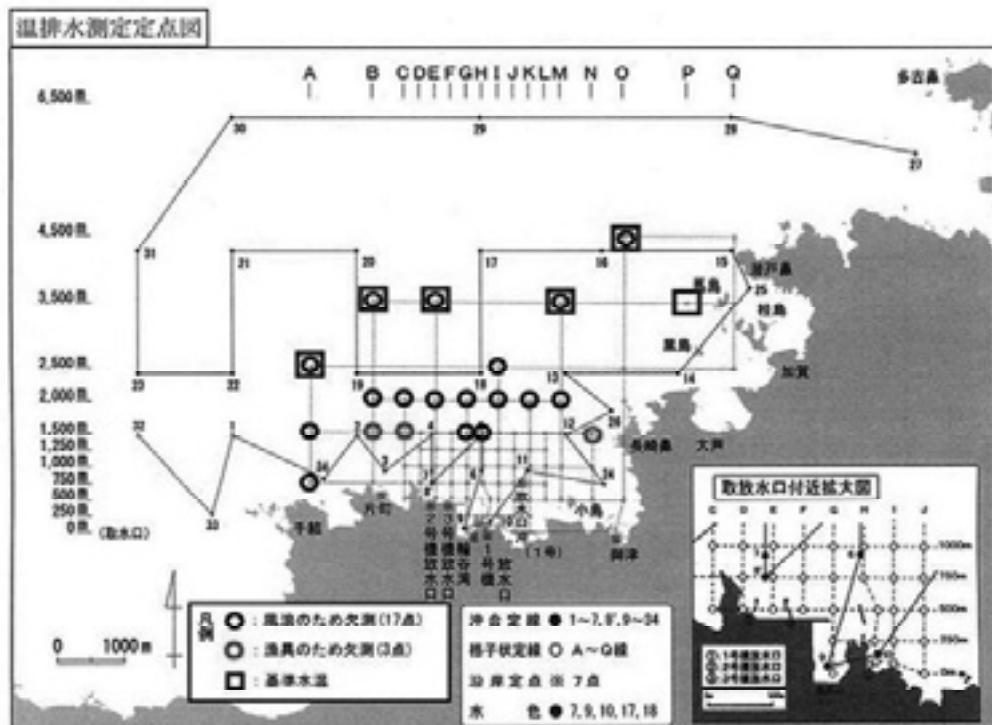


### 南北方向温度分布図(0m~4500m)

水温の最高 13.7 水温の最低 13.4 (°C)



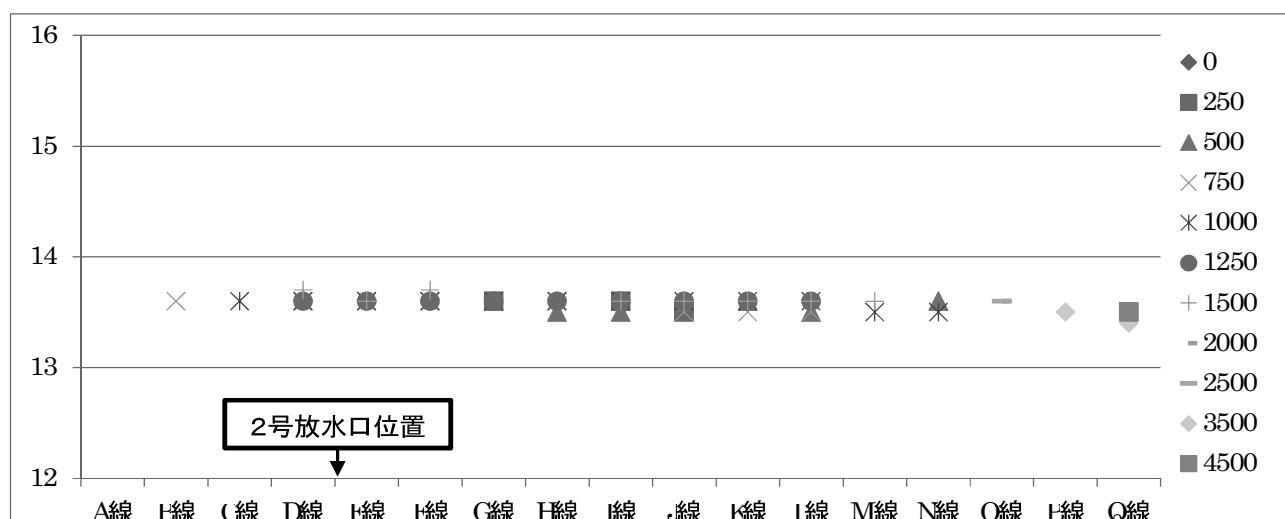
## 11. 格子状定線測定温度分布図（H28.3.23実施）(4/4)



[15m層]

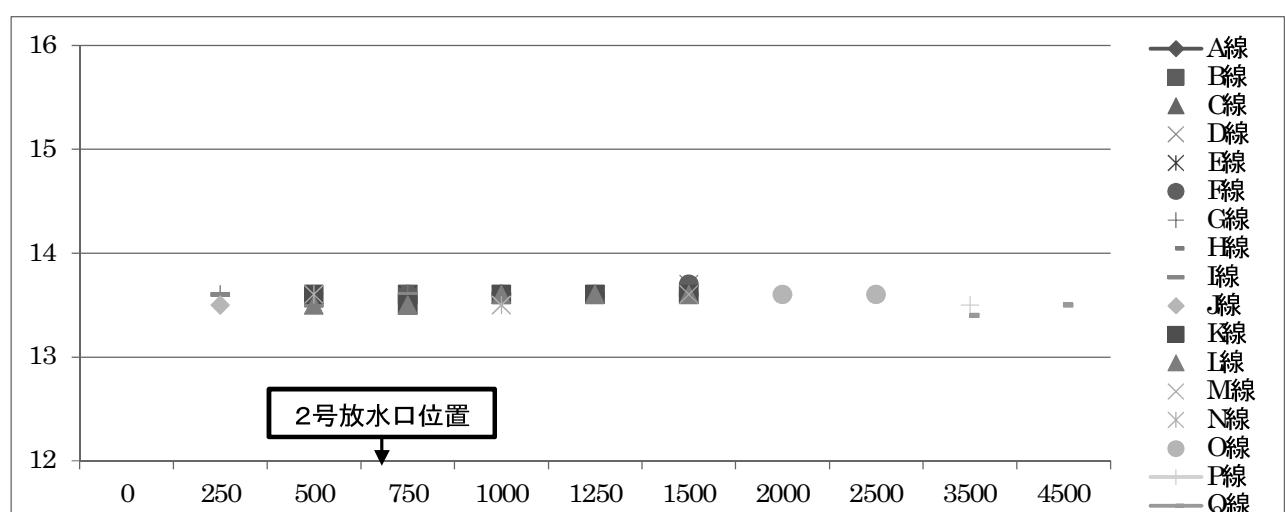
東西方向温度分布図(A線～Q線)

水温の最高 13, 7 水温の最低 13, 4 (°C)



南北方向温度分布図(0m～4500m)

水温の最高 13, 7 水温の最低 13, 4 (°C)



## 12. 用語の解説

### (1) 「平常の変動幅」について

「平常の変動幅」については、「環境放射線モニタリングに関する指針」(原子力安全委員会)において「測定条件等が良く管理されており、かつ原子力施設が平常運転を続けている限り、測定値の変動はある幅の中に納まるはずであり、これを「平常の変動幅」と呼ぶことにする。」と規定されている。

本技術会は測定項目別の「平常の変動幅」を指針に準拠し下表のとおり定めた。

なお、測定値が「平常の変動幅」を外れた場合はその原因を調査している。

#### 測定項目別「平常の変動幅」

調査項目	平常の変動幅	更新等
空間放射線の積算線量	前年度までの5年間の最小値から最大値までの範囲とする。	年度毎に更新
モニタリングポストによる空間放射線量率	前年度までの5年間(移設があった場合は2年間以上)の全データから求めた累積相対度数分布の(平均値±3×標準偏差)相当の範囲とする。	年度毎に更新
地表面における人工放射能面密度	前年度までの5年間の最小値から最大値までの範囲とする。	年度毎に更新
環境試料中の放射能	前年度までの10年間の最小値から最大値までの範囲とする。ただし、今年度はガンマ線スペクトロメトリー対象核種については更新せず、前年度と同じとする。	年度毎に更新

### (2) 「検出下限値」について

環境試料中の放射能の検出下限値は標準偏差の3倍とする。

本報告書では「検出下限値未満」を「ND」と表記する。

### (3) 環境放射線調査関係

#### 【あ】

R P L D (RadioPhotoLuminescence glass Dosimeter の略、蛍光ガラス線量計)

銀活性化リン酸塩ガラスなどの物質は、放射線を照射した後に紫外線レーザを照射すると、放射線量に比例して発光する性質を有する。このような性質を利用した線量計をR P L Dという。

#### $\alpha$ 線、 $\beta$ 線、 $\gamma$ 線

$\alpha$  線は、原子核から飛び出した陽子 2 個と中性子 2 個が組み合わされた粒子 (H e (ヘリウム) の原子核) である。 $\alpha$  線は物質を透過する力が弱く、皮膚の表面や薄い紙 1 枚程度で止める (遮蔽する) ことができるが、強い電離作用がある。

$\beta$  線は、原子核から飛び出した高速の電子である。 $\beta$  線の物質を透過する力は $\alpha$  線の約 100 倍であり、皮膚の表面から数 mm の深さまで到達する。薄いアルミニウム板などで止める (遮蔽する) ことができる。

$\gamma$  線は電磁波であり、励起状態にある原子核が安定状態になる際に放出される。 $\gamma$  線の物質を透過する力は $\beta$  線より強く、身体の深部にまで到達する。鉛やコンクリートなどで止める (遮蔽する) ことができる。

#### in-situ 測定

「現場での測定」を意味する。本報告書においては、可搬型ゲルマニウム半導体検出器を環境中に運搬し、現場において $\gamma$  線スペクトロメトリーを行うことを指す。

#### 液体シンチレーション測定

環境試料中の放射性核種を測定するために、測定試料を液体発光物質 (液体シンチレータ) に溶かし、試料が出す放射線が発光物質に衝突して発する光を測定して、放射性核種の分析を行うことがある。これを液体シンチレーション測定という。

$^{3}\text{H}$  (トリチウム) は液体シンチレーション測定を用いて放射能を測定している。

#### 【か】

#### 核種分析

ほとんどの放射性核種は固有のエネルギーを有する $\gamma$  線等の放射線を放出しているため、物質から放出される放射線のエネルギーとその放出量を測定することによって、放射性核種がどれだけ含まれているかを知ることができる。このようにして、物質に含まれる放射性核種の種類及び放射能を分析することを核種分析という。

#### 環境試料中の放射能

放射性核種の分布や変動の程度を把握するために、一般環境に存在するものを採取し、その放射能分析を行っている。現在のところ、このような環境試料としては、浮遊塵、植物 (松葉)、農畜産物、海産生物、陸水、海水、陸土、海底土等がある。

測定結果は試料によって、試料の単位体積あたりの放射能 ( $\mu\text{Bq}/\text{m}^3$ 、 $\text{mBq}/\text{l}$ )、単位面積あたりの放射能 ( $\text{kBq}/\text{m}^2$ ) 又は単位質量あたりの放射能 ( $\text{Bq}/\text{kg}$ ) で表している ( $\mu$  (マイクロ) は 100 万分の 1、 $\text{m}$  (ミリ) は千分の 1、 $\text{k}$  (キロ) は千倍)。

#### $\gamma$ 線スペクトロメトリー ( $\gamma$ 線分光分析)

$\gamma$  線スペクトロメータを用いて $\gamma$  線のエネルギースペクトルの測定を行い、得られたスペクトルを解析することによって、試料に含まれる放射性核種の種類及び放射能の分析を行うことを $\gamma$  線スペクトロメトリー ( $\gamma$  線分光分析) という。

## 国際放射線防護委員会（I C R P）

1928年に設立された国際X線・ラジウム防護委員会を継承して設立された国際的な専門家の委員会であり、1950年から放射線防護に関する国際的な基準を勧告してきた。最初の勧告（Publication 1）は1958年に出されている。

この勧告は拘束力を持つものではないが、国際機関および各国の法律制定に大きな影響を与えており、世界の放射線防護は I C R P の勧告に基づいて実施されており、日本の放射線防護に関する法令も I C R P の勧告を国内で審議のうえ採用している。

### 【さ】

#### 積算線量（空間放射線積算線量）

ある地点で一定期間にわたって測定された空間放射線量の積算量をいう。放射線量は物質に吸収されたエネルギーで表す。物質 1 kgあたり 1 J（ジュール）のエネルギー吸収をもたらす放射線量を 1 Gy（グレイ）とする。R P L D（蛍光ガラス線量計）による測定の場合、同一地点で約 3ヶ月間測定した値を 90 日間の値に換算して、mGy（ミリグレイ）／90 日で表している（ミリは千分の 1）。

#### 線量限度

放射線防護の目的のために設定された放射線被ばくの限度のこと。放射線が人体に及ぼす確定的影響を防止し、確率的影響を容認できるレベルに制限するために設定されている。

日本では、法令によって自然放射線と医療放射線を除いて、職業人に対して 100 mSv／5 年かつ 50 mSv／年、一般公衆に対して 1 mSv／年と定めている。

#### 線量率（空間放射線量率）

単位時間あたりの空間放射線量をいう。本報告書では、これを 1 時間あたりの空間放射線量である nGy（ナノグレイ）／h で表している（ナノは 10 億分の 1）。

### 【た】

#### T L D（Thermo Luminescence Dosimeter の略、熱ルミネンス線量計）

CaSO<sub>4</sub>（硫酸カルシウム）やLiF（フッ化リチウム）などの物質は、放射線を照射した後加熱すると発光する性質を有する。この性質を利用した線量計を TLD という。

島根県では、硫酸カルシウムにツリウムを添加したもの (CaSO<sub>4</sub> : Tm) を TLD 素子として使用している。

### 【は】

#### 平常の変動幅

測定条件、気象状態や自然環境などによって変動する測定値について、その変動する原因を調査した方がよいかどうかのふるい分けをする大まかなレベルのことをいう。

この範囲は、過去のデータを統計処理して求めたものであり、範囲をはずれた測定値については原因調査を行い、原子力発電所の影響の有無を確認する。

なお、この範囲は、人体に影響を生じるレベルよりはるかに低い値であり、人体への影響を評価するためのものではない。

#### 放射化学分析

環境試料中の放射性核種を測定するために、適当な化学的方法により元素の分離・精製を行い、その中に含まれる放射性核種の種類あるいは放射能量を求めることが放射化学分析という。

<sup>90</sup>Sr（ストロンチウム 90）は放射化学分析により定量を行っている。

## 放射性核種

放射能をもつ同位元素を放射性核種といい、放射性同位元素といっててもよい。例えば天然に存在する原子番号 19 のカリウムは質量数 39 の K-39、質量数 40 の K-40、質量数 41 の K-41 の 3 種類がある。このうち K-39 と K-41 は放射能をもたないので安定核種とよぶが、K-40 は放射能をもつて放射性核種という。

## 放射線

空間を伝播、移動するエネルギーの流れで、このうち電離作用をもったものをいう。代表的なものに、 $\alpha$ （アルファ）線、 $\beta$ （ベータ）線、 $\gamma$ （ガンマ）線、X（エックス）線などがある。

放射能と混同して使われることがあるが、異なるものである。

## 放射能

原子核が不安定のために壊変し、 $\alpha$  線や $\beta$  線、または $\gamma$  線や X 線等の放射線を放出する性質またはその壊変の起きやすさをいう。

放射能（の強さ）は単位時間における壊変数で表し、Bq（ベクレル）を単位とする。1 秒間に 1 個の原子核が壊変する物質の放射能（の強さ）は 1 Bq であるという。

### 【ま】

#### 面密度

陸土試料などについて、単位質量あたりの放射能を単位面積あたりの放射能に換算した値。単位は kBq/m<sup>2</sup> など。

#### モニタリングカー

空間放射線量率計などの測定装置を備えていて、空間放射線などを移動測定することができる車をいう。

#### モニタリングポスト

空間放射線量率を自動連続測定する装置を備えた野外測定設備をいう。なお、空間放射線量率計に加えて気象観測装置なども備えている設備のことをモニタリングステーションと呼んでいる。

### 【や】

#### 預託実効線量

人体組織に対する放射線の影響は、放射線の種類やエネルギーにより異なるため、これを共通の尺度で評価するために使う量を等価線量という。これは物質が単位質量あたりに吸収する放射線のエネルギー（単位：Gy）に換算係数（放射線の種類やエネルギーにより異なる）を乗じたものであり、単位は Sv（シーベルト）である。

体内に取り込まれた放射性核種からの被ばく（内部被ばく）の場合、体外に排泄されるまで、または崩壊によって減衰するまで被ばくが続く。このことを考慮して求めた 50 年間（成人の場合）にわたる等価線量の積分値を預託等価線量という。

人体に対する放射線の影響は被ばくする組織によって異なっているため、組織ごとの影響を共通の尺度で評価する必要がある。この目的に使うため、各組織ごとの預託等価線量に荷重係数 ( $W_T$ ) を乗じて合計した量を預託実効線量としている。

(参考)

### **確率的影響、確定的影響**

放射線の被ばくにより生じる影響で、影響の程度は線量に依存しないが、影響が発生する確率と線量との間にはしきい値（それ以下の線量では影響が現れないとされる値）のない比例関係が存在することを確率的影響という。例えば、被ばくした人の子孫に現れる遺伝的影響ならびに被ばくした人に現れる身体的影響のうちの発ガンがこれに当たる。

これに対して、その発生にしきい値線量があり、しきい値以下の線量では影響が現れず、影響の程度が線量に比例すると考えられるものを確定的影響という。例えば、放射線被ばくに起因する皮膚の障害、白内障、不妊などがこれに当たる。

本書は平成28年度放射線監視等交付金事業により作成しました。